

「第1次総社市総合計画 後期基本計画」
策定に関する
市民アンケート調査結果報告書

【 一般市民編 】

平成 22 年 3 月

総 社 市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査の方法	2
3.	調査項目	2
4.	本報告書に関する留意点	2
II	調査結果の総括	3
1.	総社市について	4
(1)	総社市への愛着	4
(2)	総社市の住みよさ	4
(3)	定住意向	5
2.	市政について	6
(1)	市政への関心	6
(2)	総社市の将来都市像	6
(3)	市政への市民の意見の反映	7
3.	総社市が進めている主な事業について	8
4.	生活環境や行政サービスの満足度・重要度について	9
(1)	生活環境や行政サービスの満足度について	9
(2)	生活環境や行政サービスの今後の重要度について	10
(3)	重点強化施策	10
III	アンケートの集計結果	11
1.	回答者の属性	12
(1)	性別	12
(2)	年齢	12
(3)	職業	13
(4)	通勤・通学先	14
(5)	家族構成	15
(6)	居住地区	16
(7)	居住年数	16
2.	総社市及び居住地について	18
(1)	総社市への愛着	18
(2)	総社市の住みよさ	21
(3)	定住意向	23
(4)	住みよさの実感度と定住意向度	26
(5)	住みたくない理由	28

3. 市政や市の将来像等について	29
(1) 市政への関心	29
(2) 地域の情報の入手方法	30
(3) 総社市の将来都市像	32
(4) 市政への市民の意見の反映	35
4. 総社市が進めている事業について	38
(1) 「子育て王国そうじゃ」について	38
(2) 「夜間急病診療」について	47
(3) 「総社観光プロジェクト」について	52
(4) 「総社新農業会議」について	55
(5) 「多文化共生事業」について	58
(6) 「救急安心カード」について	60
(7) 「住宅用火災警報器」の設置について	63
5. 生活環境や行政サービスの満足度・重要度について	69
(1) 生活環境や行政サービスの満足度について	69
(2) 生活環境や行政サービスの今後の重要度について	72
(3) 満足度と重要度の相関	75
(4) 年代別の生活環境や行政サービスの満足度について	78
(5) 地区別の生活環境や行政サービスの今後の重要度について	85
(6) 重点項目	99
6. 自由回答	103

I 調査の概要

1. 調査の目的

本アンケート調査は、「第1次総社市総合計画後期期本計画」（平成23年度～27年度）策定に当たり、市民が市の現状に対しどのような意識を持ち、どう評価しているか。また、まちの将来に対し何を望み、どういう認識を持っているのか。これらを年齢階層別、地区別、性別といった視点で把握、分析し、総合計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施するものです。

2. 調査の方法

- ・ 調査対象者：平成22年1月1日現在、本市に住民票を有する18歳以上の市民
- ・ 調査数：3,000人
- ・ 調査方法：個別配布、郵送回収
- ・ 調査期間：平成22年1月～3月（配布・回収・集計・分析）
- ・ 調査票回収数：1,415
- ・ 回答率：47.2%

3. 調査項目

本アンケートの調査項目は、以下のとおりです。

- ① フェイスシート
- ② 総社市や居住地域のことについて
- ③ 市政への関心や総社市の将来都市像等について
- ④ 総社市が進めている事業について
- ⑤ 生活環境や行政サービスの満足度・重要度について
- ⑥ 自由記述による意見・要望

4. 本報告書に関する留意点

- 比率はすべてパーセントで示し、小数点第2位で四捨五入しているため、パーセントの合計が100.0%にならない場合もあります。
- 母数となるべき実数は回答者数として示しています。複数回答が可能な設問についても、比率算出の母数は回答者数とし、それぞれの選択肢の比率を算出しています。そのため、複数回答が可能な設問は、回答総数が回答者数を上回り、パーセントの合計は100.0%を超えています。
- 無回答は「回答していないもの」を表します。
- グラフ・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果の総括

1. 総社市について

(1) 総社市への愛着

総社市への愛着については、「愛着を感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は79.0%となり、約8割の回答者が総社市におおむね愛着を感じていることがうかがえます。年代別では、“60歳代”と“70歳以上”の愛着度が高く、“18・19歳”の愛着度が最も低くなっています。

		愛着を感じている	どちらかといえば感じている	愛着を感じている割合	愛着度
全体		45.9%	33.1%	79.0%	5.87
年代別	18・19歳	34.6%	30.8%	65.4%	3.54
	20歳代	40.0%	38.6%	78.6%	5.43
	30歳代	37.7%	40.0%	77.7%	5.33
	40歳代	45.5%	37.5%	83.0%	5.99
	50歳代	41.5%	33.9%	75.4%	5.44
	60歳代	53.8%	26.6%	80.4%	6.53
	70歳以上	51.2%	29.0%	80.2%	6.36

(2) 総社市の住みよさ

総社市の住みよさについては、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた割合は75.4%となり、7割強の回答者がおおむね住みよいと実感していることがうかがえます。地区別の住みよさの実感度では、“常盤地区”が最も高く、“山田地区”が最も低くなっています。

		住みよい	どちらかといえば住みよい	住みよいと感じている割合	住みよさの実感度
全体		40.1%	35.3%	75.4%	5.57
地区別	総社地区	43.1%	38.8%	81.9%	6.15
	常盤地区	54.1%	28.7%	82.8%	6.98
	三須地区	46.3%	23.9%	70.2%	5.97
	服部地区	40.5%	38.1%	78.6%	5.12
	阿曾地区	35.2%	35.2%	70.4%	5.00
	池田地区	38.7%	38.7%	77.4%	6.21
	秦地区	40.0%	31.1%	71.1%	5.45
	神在地区	29.5%	45.5%	75.0%	4.88
	久代地区	24.6%	37.7%	62.3%	3.58
	山田地区	13.3%	33.3%	46.6%	1.79
	新本地区	24.2%	24.2%	48.4%	2.50
	昭和地区	35.3%	25.9%	61.2%	4.40
	山手地区	40.0%	31.0%	71.0%	5.59
清音地区	32.1%	44.3%	76.4%	4.76	

(3) 定住意向

定住意向では、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は75.4%となり、回答者の7割強が定住の意向を示しています。

また、年代別では、“18・19歳”と“20歳代”の定住意向が他の年代に比べて低くなっています。

地区別の定住意向では、“池田地区”が最も高く、“新本地区”が最も低くなっています。

		ずっと 住み続けたい	どちらかといえば 住み続けたい	住み続けたいと 感じている割合	定住意向度
全体		46.5%	28.9%	75.4%	6.18
年代別	18・19歳	15.4%	23.1%	38.5%	2.63
	20歳代	28.6%	32.1%	60.7%	4.76
	30歳代	37.7%	33.5%	71.2%	5.50
	40歳代	45.0%	30.0%	75.0%	5.82
	50歳代	41.5%	33.9%	75.4%	5.78
	60歳代	59.4%	22.1%	81.5%	7.25
	70歳以上	58.6%	26.5%	85.1%	7.45
地区別	総社地区	43.9%	30.4%	74.3%	6.06
	常盤地区	48.4%	30.6%	79.0%	6.68
	三須地区	53.7%	20.9%	74.6%	6.23
	服部地区	40.5%	33.3%	73.8%	5.64
	阿曾地区	51.9%	25.9%	77.8%	6.80
	池田地区	54.8%	29.0%	83.8%	7.17
	秦地区	55.6%	26.7%	82.3%	6.98
	神在地区	50.0%	29.5%	79.5%	6.14
	久代地区	43.5%	30.4%	73.9%	6.03
	山田地区	53.3%	20.0%	73.3%	5.67
	新本地区	36.4%	30.3%	66.7%	4.52
	昭和地区	51.8%	22.4%	74.2%	6.30
	山手地区	47.0%	27.0%	74.0%	5.82
清音地区	43.5%	31.3%	74.8%	6.13	

2. 市政について

(1) 市政への関心

市政への関心については、「おおいに関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は73.4%となり、回答者の7割強はおおむね市政に関心があることがうかがえます。

また、年代別では、“18・19歳”の関心度が最も低く、“70歳以上”が最も高くなっており、年代が上がるにつれて市政への関心度が高くなっています。

		おおいに関心がある	まあまあ関心がある	関心がある割合
全体		22.2%	51.2%	73.4%
年代別	18・19歳	3.8%	42.3%	46.1%
	20歳代	8.6%	42.9%	51.5%
	30歳代	13.5%	44.7%	58.2%
	40歳代	17.5%	54.5%	72.0%
	50歳代	20.6%	56.0%	76.6%
	60歳代	30.3%	54.3%	84.6%
	70歳以上	37.7%	50.0%	87.7%

(2) 総社市の将来都市像

総社市の将来都市像については、回答者の約6割が「福祉都市」と回答しており、次いで「環境都市」、「住宅都市」の順となっています。

また、男女別、年齢別にみても、同様の回答傾向にあります。

		1位	2位	3位
全体		福祉都市	環境都市	住宅都市
男女別	男性	福祉都市	環境都市	住宅都市
	女性	福祉都市	環境都市	住宅都市
年代別	18・19歳	福祉都市	芸術・文化都市	環境都市
	20歳代	福祉都市	環境都市	住宅都市
	30歳代	福祉都市	環境都市	住宅都市
	40歳代	福祉都市	環境都市	住宅都市
	50歳代	福祉都市	環境都市	住宅都市
	60歳代	福祉都市	環境都市	住宅都市
	70歳以上	福祉都市	環境都市	住宅都市

(3) 市政への市民の意見の反映

市政への市民の意見の反映については、「よく反映されている」と「どちらかといえば反映されている」を合わせた割合は20.1%にとどまっており、指標化による反映実感度はマイナス値を示し、低いものとなっています。

また、年代別の反映実感度では、“18・19歳”と“20歳代”の若年層が低く、地区別の反映実感度では、特に“山田地区”が低くなっています。

		よく反映されている	どちらかといえば反映されている	反映されていると感じている割合	反映実感度
全体		2.3%	17.8%	20.1%	-0.42
年代別	18・19歳	0.0%	0.0%	0.0%	-2.69
	20歳代	0.0%	9.3%	9.3%	-1.87
	30歳代	0.9%	14.4%	15.3%	-0.65
	40歳代	1.5%	19.5%	21.0%	-0.43
	50歳代	0.4%	15.9%	16.3%	-0.78
	60歳代	4.8%	20.2%	25.0%	0.17
	70歳以上	6.2%	22.2%	28.4%	0.57
地区別	総社地区	1.3%	16.1%	17.4%	-0.59
	常盤地区	4.5%	21.0%	25.5%	-0.08
	三須地区	0.0%	16.4%	16.4%	-0.90
	服部地区	7.1%	21.4%	28.5%	0.74
	阿曾地区	1.9%	13.0%	14.9%	-1.40
	池田地区	9.7%	19.4%	29.1%	1.30
	秦地区	0.0%	24.4%	24.4%	0.53
	神在地区	2.3%	25.0%	27.3%	0.54
	久代地区	1.4%	11.6%	13.0%	-1.49
	山田地区	0.0%	0.0%	0.0%	-3.33
	新本地区	0.0%	6.1%	6.1%	-1.96
	昭和地区	4.7%	21.2%	25.9%	0.00
	山手地区	2.0%	15.0%	17.0%	-0.51
清音地区	3.1%	19.8%	22.9%	0.10	

3. 総社市が進めている主な事業について

総社市が進めている主な事業についての認知度や満足度、利用意向等については、以下に示すとおりです。

●子育て王国そうじゃ

知っている人は41%、聞いたことがある人は37%となっており、認知度がやや低いことから、さらなる広報・周知が求められます。満足度については、“わからない”という回答が最も多いものの、満足と不満の割合では、満足のほうが上回っています。

●夜間急病診療

知っている人は42%、聞いたことがある人は32%となっており、認知度がやや低いことから、さらなる広報・周知が求められます。利用意向については、“利用しない”が26%、“わからない”が32%を占め、利用意向はやや低い傾向にあります。

●救急安心カード

所有している人は全体の38%であり、そのうちカードに記入している人は57%となっており、さらなる周知や啓発が求められます。

●住宅用火災警報器

設置している世帯が26%、一部設置している家が6%にとどまっていることから、さらなる啓発普及が求められます。

事業	設問	回答結果
子育て王国 そうじゃ	認知度	よく知っている:7.3%、ある程度知っている:34.1%、聞いたことがある:36.5%、まったく知らない:15.6%、わからない:5.4%
	満足度	満足:10.6%、やや満足:33.9%、やや不満:13.2%、不満:4.7%、わからない:35.3%
夜間急病診療	認知度	よく知っている:9.0%、ある程度知っている:32.5%、聞いたことがある:31.9%、まったく知らない:23.0%、わからない:3.0%
	利用意向	利用する:39.1%、利用しない:25.9%、わからない:32.2%
救急安心カード	所有状況	ある:37.5%、ない:33.8%、わからない:27.9%
	記入状況	記入している:56.8%、記入していない:42.6%
住宅用火災 警報器	設置状況	設置している:25.5%、一部設置している:6.3%、設置していない:64.9%

4. 生活環境や行政サービスの満足度・重要度について

(1) 生活環境や行政サービスの満足度について

満足度の高い項目と低い項目は、下表に示すとおりであり、満足度の第1位は「上水道・水資源」となっています。

	満足度の高い項目		満足度の低い項目
1位	上水道・水資源	1位	勤労者福祉・雇用対策
2位	自然環境・歴史的景観	2位	自立した財政運営の推進
3位	消防・防災など	3位	高齢者福祉
4位	下水道	4位	障がい者福祉
5位	スポーツ・レクリエーション		辺地対策

また、年齢別の回答は下表に示すとおりであり、満足度の高い項目では「上水道・水資源」と「自然環境・歴史的景観」が目立っており、満足度の低い項目では「勤労者福祉・雇用対策」や「行政改革の推進」、「高齢者福祉」等が目立っています。

	満足度の高い項目		
	1位	2位	3位
18・19歳	スポーツ・レクリエーション	上水道・水資源	下水道
20歳代	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	下水道
30歳代	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	消防・防災など
40歳代	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	消防・防災など
50歳代	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	スポーツ・レクリエーション
60歳代	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	消防・防災など
70歳以上	上水道・水資源	自然環境・歴史的景観	消防・防災など

	満足度の低い項目		
	1位	2位	3位
18・19歳	勤労者福祉・雇用対策	人権意識	土地利用・市街地整備
20歳代	勤労者福祉・雇用対策	自立した財政運営の推進	商業
30歳代	勤労者福祉・雇用対策	行政改革の推進	自立した財政運営の推進
40歳代	勤労者福祉・雇用対策	行政改革の推進	高齢者福祉
50歳代	勤労者福祉・雇用対策	行政改革の推進	高齢者福祉
60歳代	高齢者福祉	勤労者福祉・雇用対策	障がい者福祉
70歳以上	高齢者福祉	辺地対策	勤労者福祉・雇用対策

(2) 生活環境や行政サービスの今後の重要度について

今後の重要度の高い項目と低い項目は、下表に示すとおりであり、重要度の第1位は「保健・医療」となっています。

	重要度の高い項目		重要度の低い項目
1位	保健・医療	1位	岡山県立大学との交流
2位	高齢者福祉	2位	男女共同参画社会
3位	子育て支援	3位	ふれあい交流
4位	下水道	4位	芸術・文化
5位	上水道・水資源	5位	市民のまちづくり意識

また、地区別の回答結果は下表に示すとおりであり、14地区のうち12地区が第1位に「保健・医療」を挙げています。

	重要度の高い項目		
	1位	2位	3位
総社地区	保健・医療	高齢者福祉	子育て支援
常盤地区	保健・医療	高齢者福祉	子育て支援
三須地区	保健・医療	高齢者福祉	下水道
服部地区	保健・医療	資源循環型社会	高齢者福祉
阿曾地区	保健・医療	高齢者福祉	下水道
池田地区	保健・医療	高齢者福祉	子育て支援
秦地区	高齢者福祉	保健・医療	消防・防災など
神在地区	保健・医療	高齢者福祉	子育て支援
久代地区	保健・医療	高齢者福祉	下水道
山田地区	保健・医療	高齢者福祉	下水道
新本地区	保健・医療	高齢者福祉	地域福祉
昭和地区	保健・医療	消防・防災など	防犯・交通安全
山手地区	高齢者福祉	子育て支援	保健・医療
清音地区	保健・医療	高齢者福祉	防犯・交通安全

(3) 重点強化施策

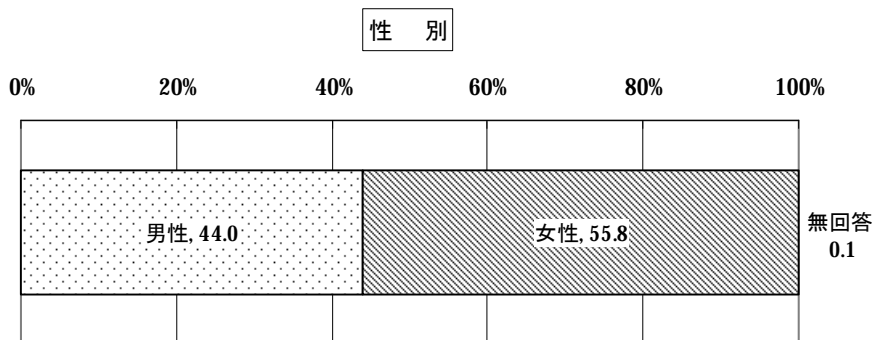
満足度と重要度の相関関係から、本市においては「保健・医療」、「高齢者福祉」、「地域福祉」、「障がい者福祉」等の保健・医療・福祉分野や「勤労者福祉・雇用対策」、「行政改革の推進」、「自立した財政運営の推進」等が重点強化施策と考えられます。

Ⅲ アンケートの集計結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

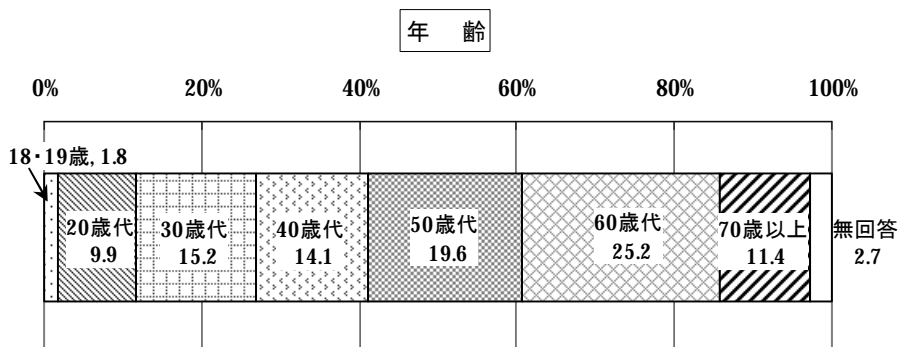
回答者の性別は、「男性」44.0%、「女性」55.8%となっています。



回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
男性	623	44.0	44.1
女性	790	55.8	55.9
無回答	2	0.1	
合計	1,415	100.0	1,413

(2) 年齢

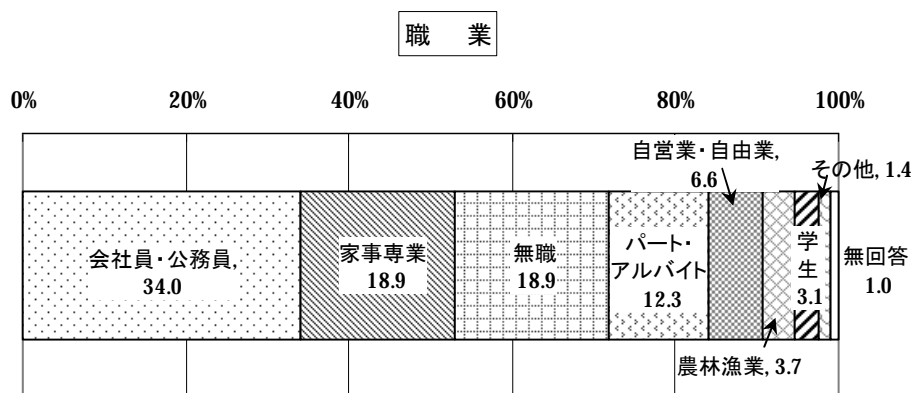
回答者の年齢は、「60歳代」が25.2%を占め最も多く、次いで「50歳代」、「30歳代」の順となっています。



回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた 構成比(%)
18・19 歳	26	1.8	1.9
20 歳代	140	9.9	10.2
30 歳代	215	15.2	15.6
40 歳代	200	14.1	14.5
50 歳代	277	19.6	20.1
60 歳代	357	25.2	25.9
70 歳以上	162	11.4	11.8
無回答	38	2.7	
合計	1,415	100.0	1,377

(3) 職業

回答者の職業は、「会社員・公務員」が 34.0%を占め最も多く、次いで「家事専業」と「無職」（同率）となっています。

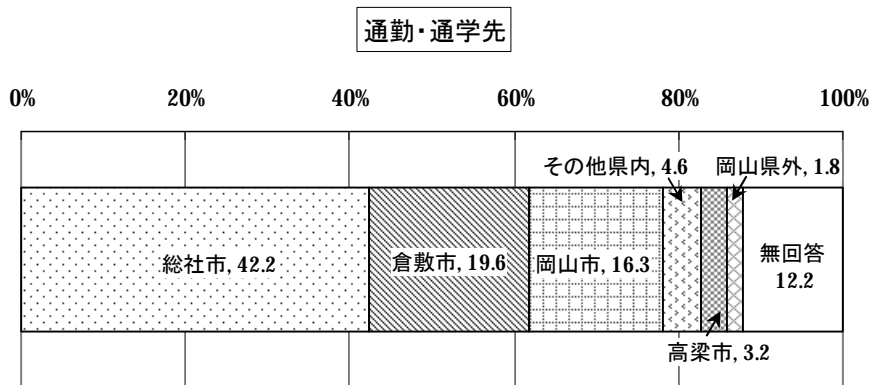


回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた 構成比(%)
会社員・公務員	481	34.0	34.3
家事専業	268	18.9	19.1
無職	268	18.9	19.1
パート・アルバイト	174	12.3	12.4
自営業・自由業	93	6.6	6.6
農林漁業	53	3.7	3.8
学生	44	3.1	3.1
その他	20	1.4	1.4
無回答	14	1.0	
合計	1,415	100.0	1,401

その他回答	回答数(人)	その他回答	回答数(人)
派遣・契約社員	6	団体職員	1
看護師	2	電工	1
非常勤講師	2	病院勤務	1
私立校職員	1	無回答	5
住職	1	合計	20

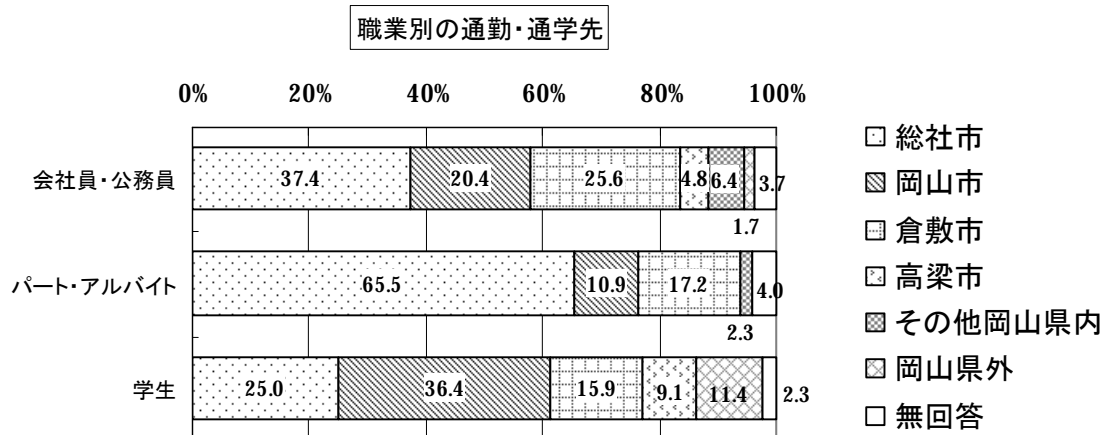
(4) 通勤・通学先

通勤・通学先は、「総社市」が42.2%を占め最も多く、次いで「倉敷市」、「岡山市」の順となっています。



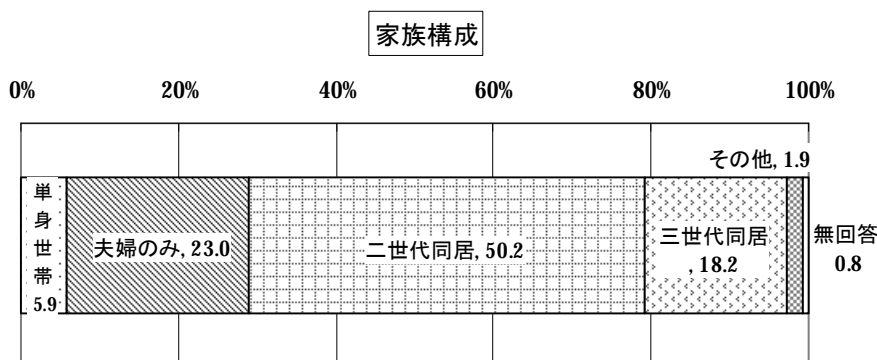
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
総社市	366	42.2	48.1
倉敷市	170	19.6	22.3
岡山市	141	16.3	18.5
その他岡山県内	40	4.6	5.3
高梁市	28	3.2	3.7
岡山県外	16	1.8	2.1
無回答	106	12.2	
合計	867	100.0	761

職業別の通勤・通学先をみると、“会社員・公務員”は、「総社市」が37.4%を占め最も多いものの、「岡山市」、「倉敷市」もそれぞれ20%台を占めています。また、“学生”は、「岡山市」が36.4%を占め最も多くなっています。



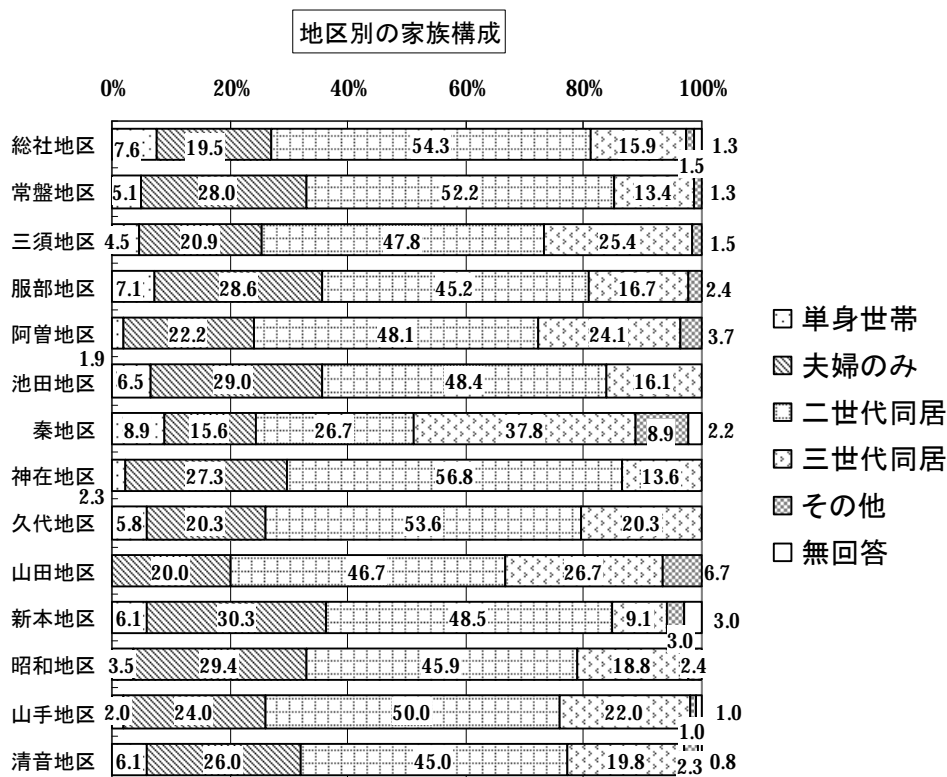
(5) 家族構成

家族構成は、「二世世代同居（親と子）」が50.2%と半数を占めています。次いで「夫婦のみ」、「三世世代同居（親と子と孫）」の順となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
単身世帯(ひとり暮らし)	83	5.9	5.9
夫婦のみ	326	23.0	23.2
二世世代同居(親と子)	710	50.2	50.6
三世世代同居(親と子と孫)	258	18.2	18.4
その他	27	1.9	1.9
無回答	11	0.8	
合計	1,415	100.0	1,404

また、地区別の家族構成をみると、“秦地区”のみ「三世世代同居」が最も多く、他の地区はすべて「二世世代同居」が最も高い割合を示しています。



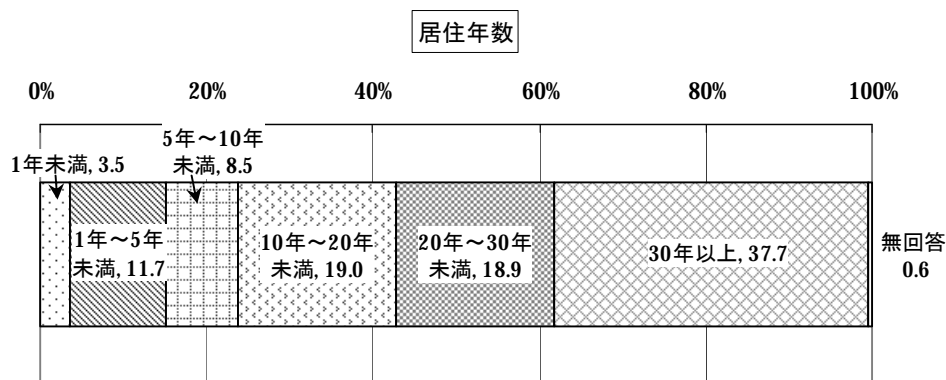
(6) 居住地区

回答者の居住地区は、下表に示すとおりです。

回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた 構成比(%)
総社地区	529	37.4	37.7
常盤地区	157	11.1	11.2
清音地区	131	9.3	9.3
山手地区	100	7.1	7.1
昭和地区	85	6.0	6.1
久代地区	69	4.9	4.9
三須地区	67	4.7	4.8
阿曾地区	54	3.8	3.9
秦地区	45	3.2	3.2
神在地区	44	3.1	3.1
服部地区	42	3.0	3.0
新本地区	33	2.3	2.4
池田地区	31	2.2	2.2
山田地区	15	1.1	1.1
無回答	13	0.9	
合計	1,415	100.0	1,402

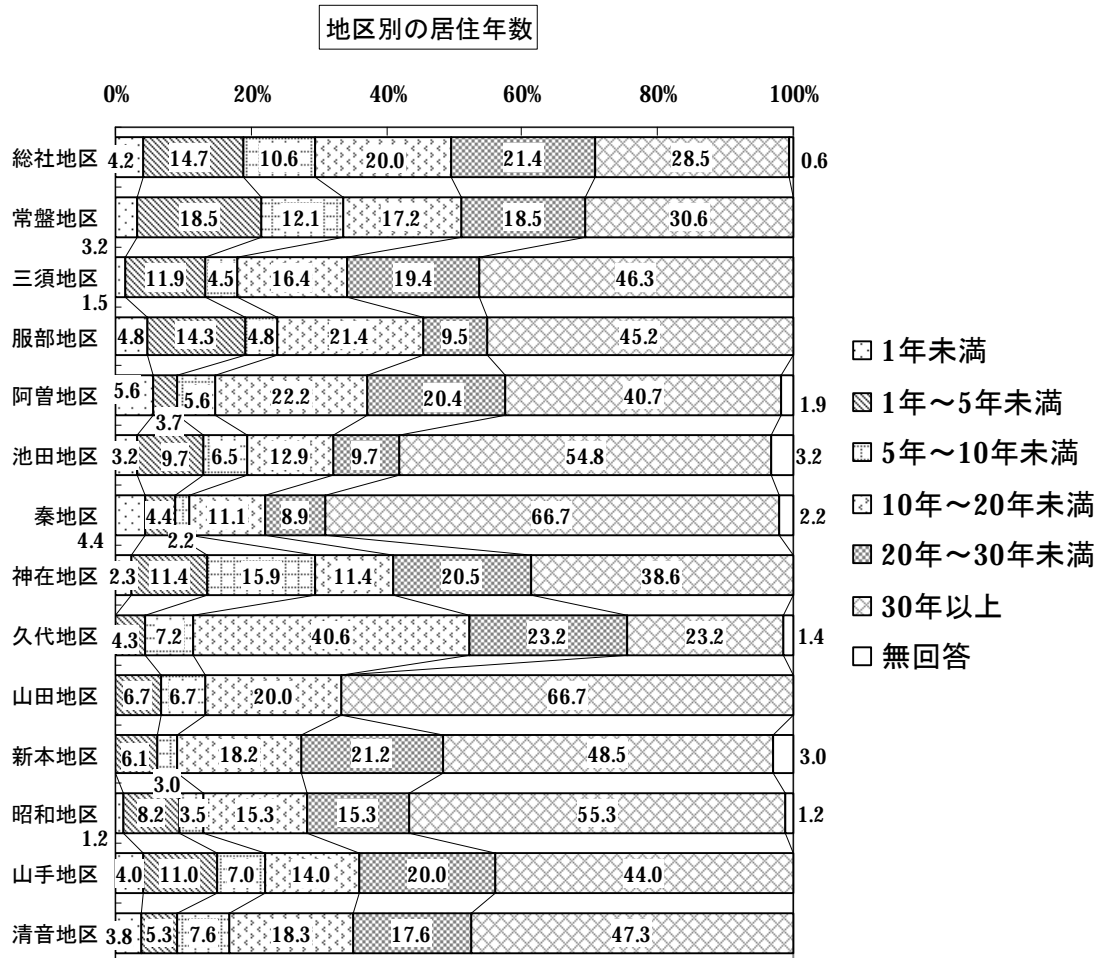
(7) 居住年数

居住年数は、「30年以上」が37.7%を占め最も多く、次いで「10～20年未満」、
「20年～30年未満」の順となっています。



回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた 構成比(%)
1年未満	50	3.5	3.6
1年～5年未満	166	11.7	11.8
5年～10年未満	120	8.5	8.5
10年～20年未満	269	19.0	19.1
20年～30年未満	267	18.9	19.0
30年以上	534	37.7	38.0
無回答	9	0.6	
合計	1,415	100.0	1,406

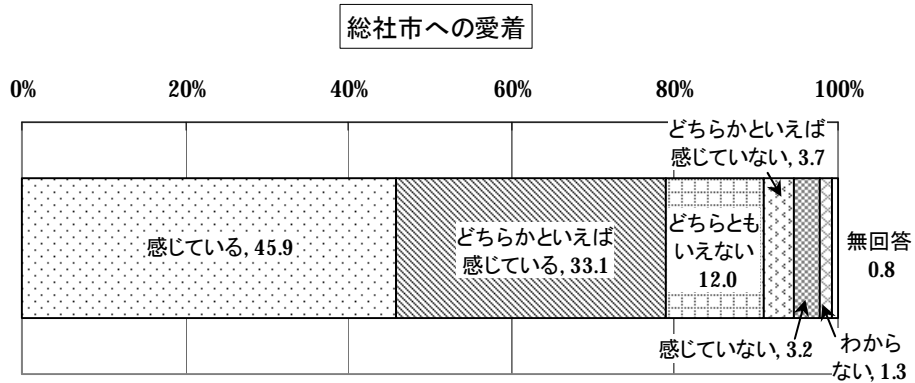
また、地区別の居住年数をみると、“総社地区”、“常盤地区”、“久代地区”は、他地区に比べて「30年以上」の割合が低くなっています。“総社地区”と“常盤地区”は「1年～5年未満」の割合が他地区よりも高く、“久代地区”は「10年～20年未満」の割合が全地区の中で最も高くなっています。



2. 総社市及び居住地域について

(1) 総社市への愛着

総社市への愛着については、「感じている」が45.9%を占め最も多く、次いで「どちらかといえば感じている」(33.1%)となっており、両回答を合わせた割合は79%となり、回答者の約8割は、総社市に愛着を感じていることがうかがえます。



回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
感じている	649	45.9	46.3
どちらかといえば感じている	468	33.1	33.4
どちらともいえない	170	12.0	12.1
どちらかといえば感じていない	52	3.7	3.7
感じていない	45	3.2	3.2
わからない	19	1.3	1.4
無回答	12	0.8	
合計	1,415	100.0	1,403

次に、年代別の回答は、下表に示すようになっています。

■年代別の愛着度

	感じている	どちらかといえば感じている	どちらともいえない	どちらかといえば感じていない	感じていない	わからない	無回答	合計	愛着度
18・19 歳	34.6%	30.8%	3.8%	11.5%	11.5%	3.8%	3.8%	100.0%	3.54
20 歳代	40.0%	38.6%	13.6%	3.6%	3.6%	-	0.7%	100.0%	5.43
30 歳代	37.7%	40.0%	13.0%	2.8%	4.2%	1.4%	0.9%	100.0%	5.33
40 歳代	45.5%	37.5%	8.5%	3.5%	3.5%	0.5%	1.0%	100.0%	5.99
50 歳代	41.5%	33.9%	17.0%	2.5%	3.6%	1.1%	0.4%	100.0%	5.44
60 歳代	53.8%	26.6%	10.4%	4.8%	1.4%	2.2%	0.8%	100.0%	6.53
70 歳以上	51.2%	29.0%	12.3%	2.5%	2.5%	1.9%	0.6%	100.0%	6.36

また、地区別の回答状況は、下表に示すようになっています。

■地区別の愛着度

	感じている	どちらかといえば感じている	どちらともいえない	どちらかといえば感じていない	感じていない	わからない	無回答	合計	愛着度
総社地区	44.8%	36.5%	11.3%	2.8%	2.5%	1.1%	0.9%	100.0%	6.04
常盤地区	51.6%	29.3%	10.2%	4.5%	1.9%	1.3%	1.3%	100.0%	6.37
三須地区	56.7%	28.4%	7.5%	4.5%	-	3.0%	-	100.0%	7.08
服部地区	35.7%	40.5%	9.5%	7.1%	4.8%	2.4%	-	100.0%	4.88
阿曾地区	57.4%	22.2%	16.7%	-	1.9%	1.9%	-	100.0%	6.79
池田地区	48.4%	32.3%	12.9%	-	-	3.2%	3.2%	100.0%	6.90
秦地区	53.3%	28.9%	13.3%	4.4%	-	-	-	100.0%	6.56
神在地区	52.3%	31.8%	9.1%	2.3%	2.3%	2.3%	-	100.0%	6.63
久代地区	44.9%	34.8%	13.0%	-	5.8%	-	1.4%	100.0%	5.74
山田地区	40.0%	46.7%	-	-	13.3%	-	-	100.0%	5.00
新本地区	36.4%	21.2%	24.2%	6.1%	6.1%	6.1%	-	100.0%	4.03
昭和地区	44.7%	25.9%	20.0%	3.5%	2.4%	2.4%	1.2%	100.0%	5.55
山手地区	43.0%	32.0%	10.0%	8.0%	6.0%	-	1.0%	100.0%	4.95
清音地区	36.6%	35.9%	13.7%	5.3%	6.9%	0.8%	0.8%	100.0%	4.57

今回、年代別及び地区別の総社市への愛着度をみるにあたって、設問間の差や全体の水準を図るため、重みづけを行い指標化しました。重みづけの評点については、以下の方法で計算しています。

◆「愛着度」の指標化について

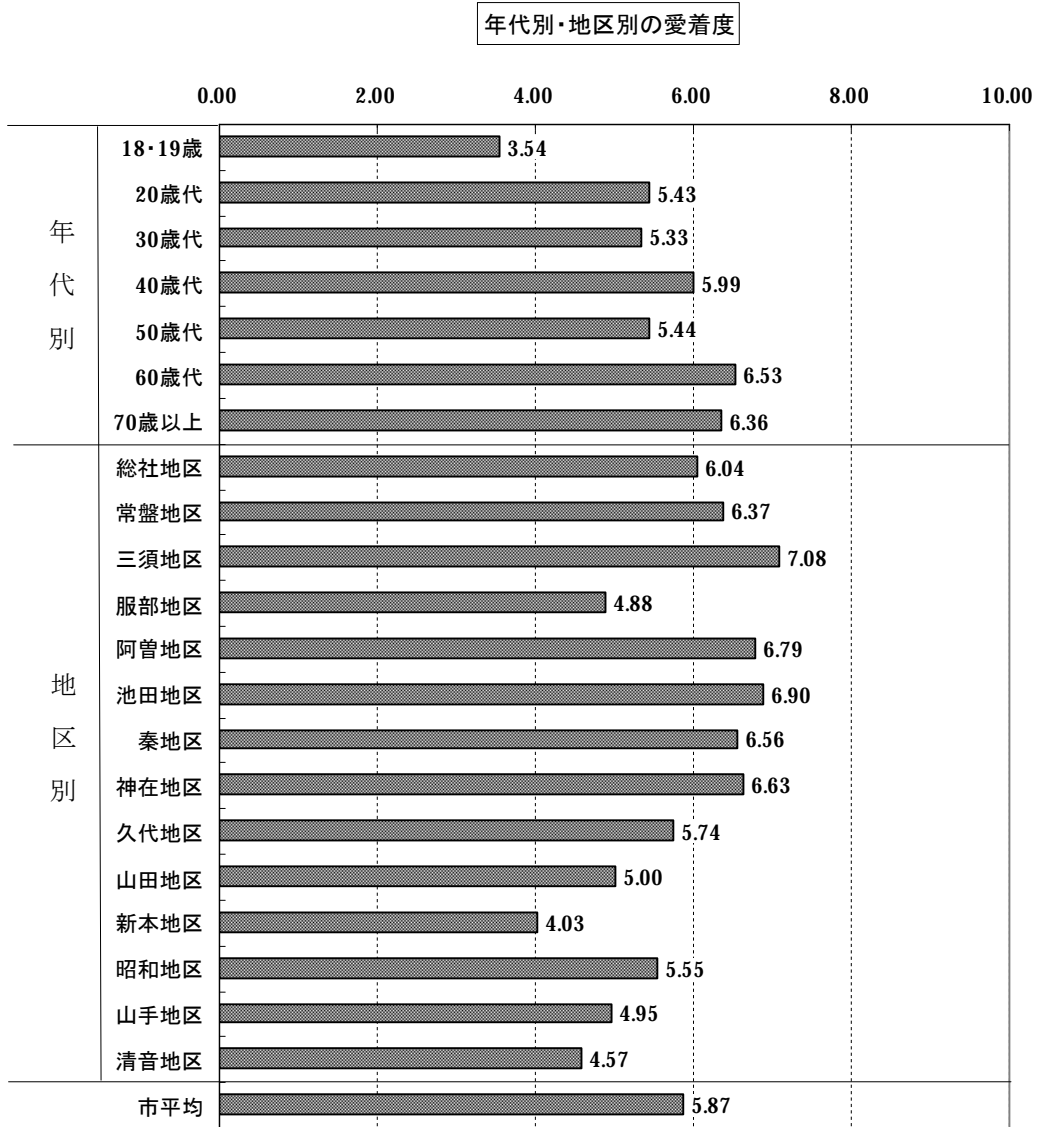
・「感じている」の回答数	×	10点	} 合計 「わからない」、「無回答」 を除く回答数
・「どちらかといえば感じている」の回答数	×	5点	
・「どちらともいえない」の回答数	×	0点	
・「どちらかといえば感じていない」の回答数	×	-5点	
・「感じていない」の回答数	×	-10点	

したがって、愛着度指数は上限「10」（感じている）、下限「-10」（感じていない）で、中間値は「0」となります。

年代別、地区別の回答結果をグラフに示すと次のようになります。

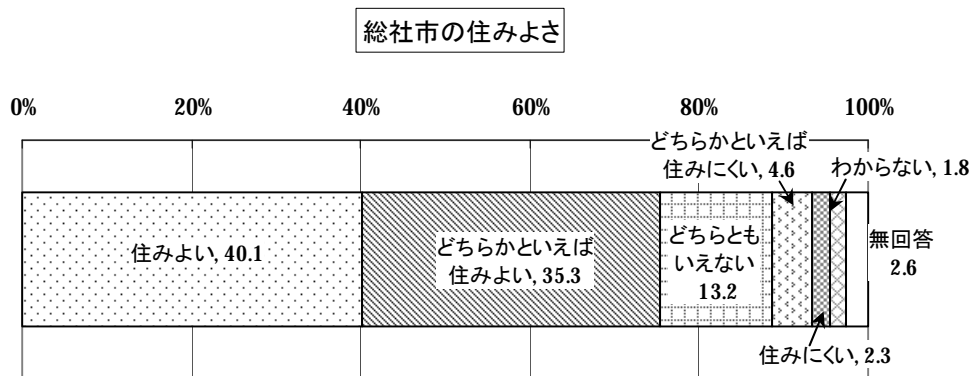
これによると、年代別では“60歳代”、“70歳以上”の愛着度が高く、“18・19歳”の愛着度が低くなっています。

また、地区別の愛着度では、“三須地区”が最も高く、“新本地区”が最も低くなっています。



(2) 総社市の住みよさ

総社市の住みよさについては、「住みよい」が40.1%、「どちらかといえば住みよい」が35.3%で、合わせて75.4%がおおむね住みよいと実感していることがうかがえます。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
住みよい	568	40.1	41.2
どちらかといえば住みよい	500	35.3	36.3
どちらともいえない	187	13.2	13.6
どちらかといえば住みにくい	65	4.6	4.7
住みにくい	32	2.3	2.3
わからない	26	1.8	1.9
無回答	37	2.6	
合計	1,415	100.0	1,378

また、居住年数別の回答をみると、「住みよい」との回答割合は、“30年以上”が最も高い割合を示していますが、住みよさの実感度では、“5年～10年未満”が6.03点で最も高くなっています。

■居住年数別の住みよさの実感度

	住みよい	どちらかといえば住みよい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	わからない	無回答	合計	住みよさの実感度
1年未満	42.0%	28.0%	12.0%	4.0%	6.0%	4.0%	4.0%	100.0%	5.22
1年～5年未満	39.8%	39.2%	10.2%	3.0%	2.4%	3.0%	2.4%	100.0%	5.86
5年～10年未満	40.8%	42.5%	7.5%	4.2%	1.7%	0.8%	2.5%	100.0%	6.03
10年～20年未満	37.2%	34.9%	14.5%	7.1%	2.6%	1.5%	2.2%	100.0%	5.04
20年～30年未満	33.7%	41.2%	14.2%	4.5%	1.9%	2.6%	1.9%	100.0%	5.25
30年以上	44.8%	30.3%	14.6%	3.9%	1.9%	1.3%	3.2%	100.0%	5.87

次に、地区別の住みよさの実感度をみると、“常盤地区”が6.98点で最も高く、“山田地区”が1.79点で最も低くなっています。

■地区別の住みよさの実感度

	住みよい	どちらかといえば住みよい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	わからない	無回答	合計	住みよさの実感度
総社地区	43.1%	38.8%	9.1%	3.4%	1.7%	1.9%	2.1%	100.0%	6.15
常盤地区	54.1%	28.7%	8.9%	1.9%	1.3%	1.3%	3.8%	100.0%	6.98
三須地区	46.3%	23.9%	17.9%	3.0%	1.5%	1.5%	6.0%	100.0%	5.97
服部地区	40.5%	38.1%	11.9%	2.4%	7.1%	-	-	100.0%	5.12
阿曾地区	35.2%	35.2%	18.5%	5.6%	1.9%	3.7%	-	100.0%	5.00
池田地区	38.7%	38.7%	16.1%	-	-	3.2%	3.2%	100.0%	6.21
秦地区	40.0%	31.1%	22.2%	4.4%	-	-	2.2%	100.0%	5.45
神在地区	29.5%	45.5%	11.4%	6.8%	2.3%	-	4.5%	100.0%	4.88
久代地区	24.6%	37.7%	21.7%	8.7%	4.3%	-	2.9%	100.0%	3.58
山田地区	13.3%	33.3%	20.0%	26.7%	-	-	6.7%	100.0%	1.79
新本地区	24.2%	24.2%	21.2%	15.2%	6.1%	9.1%	-	100.0%	2.50
昭和地区	35.3%	25.9%	25.9%	10.6%	-	-	2.4%	100.0%	4.40
山手地区	40.0%	31.0%	17.0%	3.0%	2.0%	1.0%	6.0%	100.0%	5.59
清音地区	32.1%	44.3%	9.2%	4.6%	6.1%	3.1%	0.8%	100.0%	4.76

◆「住みよさ」の指標化について

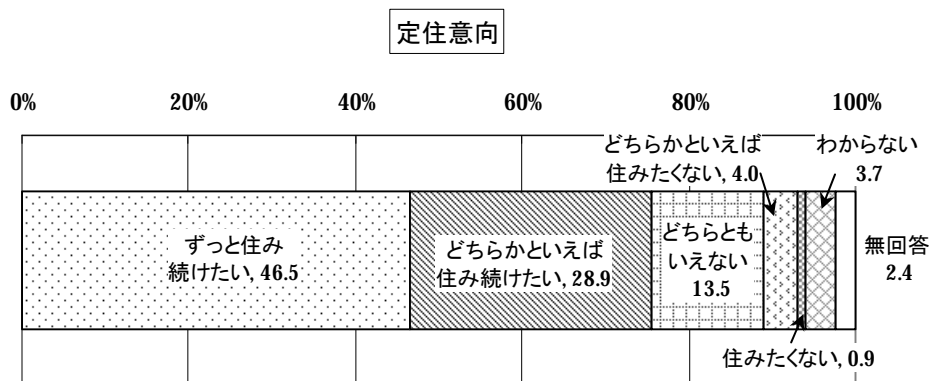
- ・「住みよい」の回答数 × 10点
- ・「どちらかといえば住みよい」の回答数 × 5点
- ・「どちらともいえない」の回答数 × 0点
- ・「どちらかといえば住みにくい」の回答数 × -5点
- ・「住みにくい」の回答数 × -10点

合計
「わからない」、「無回答」
を除く回答数

したがって、住みよさの実感度の指数は上限「10」（住みよい）、下限「-10」（住みにくい）で、中間値は「0」となります。

(3) 定住意向

定住意向については、「ずっと住み続けたい」が46.5%を占め最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が28.9%となっており、合わせて75.4%が定住の意向を示しています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
ずっと住み続けたい	658	46.5	47.6
どちらかといえば住み続けたい	409	28.9	29.6
どちらともいえない	191	13.5	13.8
どちらかといえば住みたくない	57	4.0	4.1
住みたくない	13	0.9	0.9
わからない	53	3.7	3.8
無回答	34	2.4	
合計	1,415	100.0	1,381

年代別の回答をみると、「18・19歳」は、「どちらともいえない」が最も多く、「20歳代」は「どちらかといえば住み続けたい」が最も多くなっています。定住意向度では、「18・19歳」が2.63点と極端に低くなっています。

■年代別の定住意向度

	ずっと住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	わからない	無回答	合計	定住意向度
18・19歳	15.4%	23.1%	26.9%	-	7.7%	23.1%	3.8%	100.0%	2.63
20歳代	28.6%	32.1%	27.1%	2.9%	-	6.4%	2.9%	100.0%	4.76
30歳代	37.7%	33.5%	16.3%	4.7%	0.9%	5.6%	1.4%	100.0%	5.50
40歳代	45.0%	30.0%	15.5%	6.0%	0.5%	2.0%	1.0%	100.0%	5.82
50歳代	41.5%	33.9%	13.4%	4.0%	1.8%	3.2%	2.2%	100.0%	5.78
60歳代	59.4%	22.1%	8.4%	3.9%	0.3%	2.8%	3.1%	100.0%	7.25
70歳以上	58.6%	26.5%	6.8%	1.9%	0.6%	1.9%	3.7%	100.0%	7.45

次に、居住年数別の回答をみると、いずれの年数も「ずっと住み続けたい」が最も多くなっており、定住意向度では、“30年以上”が7.30点で最も高い意向度を示しています。

■ 居住年数別の定住意向

	ずっと 住み続けたい	どちらかといえば 住み続けたい	どちらとも いえない	どちらかといえば 住みたくない	住みたくない	わからない	無回答	合計	定住意向度
1年未満	46.0%	20.0%	16.0%	8.0%	2.0%	6.0%	2.0%	100.0%	5.43
1年～5年未満	39.2%	29.5%	18.1%	4.8%	-	5.4%	3.0%	100.0%	5.63
5年～10年未満	40.8%	35.0%	15.0%	2.5%	1.7%	3.3%	1.7%	100.0%	5.83
10年～20年未満	37.5%	31.6%	18.2%	7.1%	0.4%	4.5%	0.7%	100.0%	5.22
20年～30年未満	36.3%	35.6%	16.5%	2.2%	1.9%	4.5%	3.0%	100.0%	5.53
30年以上	59.6%	23.4%	7.9%	3.0%	0.7%	2.4%	3.0%	100.0%	7.30

◆ 「定住意向」の指標化について

・ 「ずっと住み続けたい」の回答数	×	10点	} 合計 「わからない」、「無回答」 を除く回答数
・ 「どちらかといえば住み続けたい」の回答数	×	5点	
・ 「どちらともいえない」の回答数	×	0点	
・ 「どちらかといえば住みたくない」の回答数	×	-5点	
・ 「住みたくない」の回答数	×	-10点	

したがって、定住意向度の指数は上限「10」（ずっと住み続けたい）、下限「-10」（住みたくない）で、中間値は「0」となります。

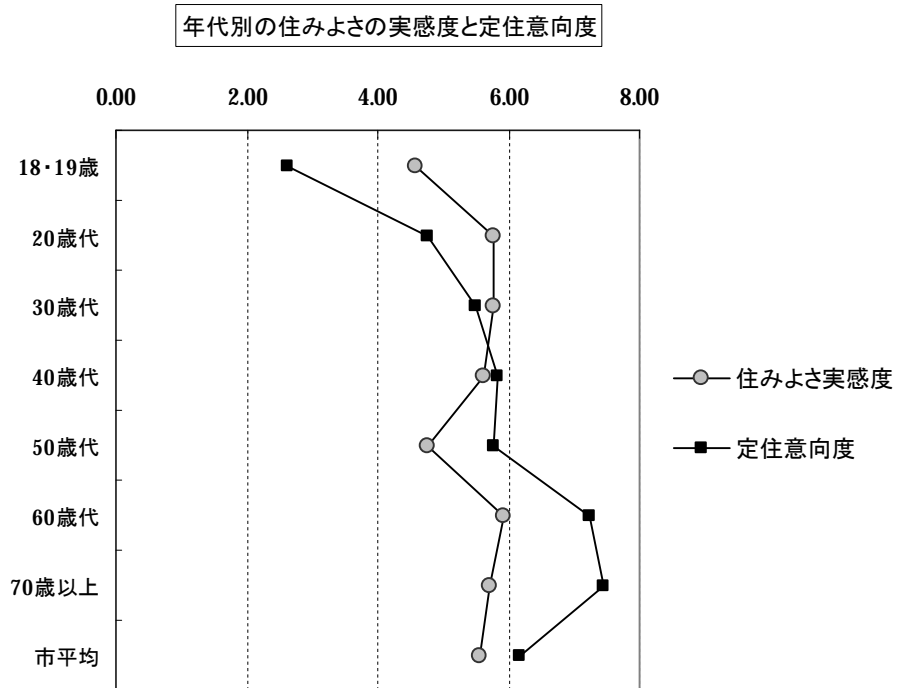
また、地区別では、いずれの地区も「ずっと住みたい」が最も多くなっており、定住意向度でみると、“池田地区”が7.17点で最も高く、“新本地区”が4.52点で最も低くなっています。

■地区別の定住意向

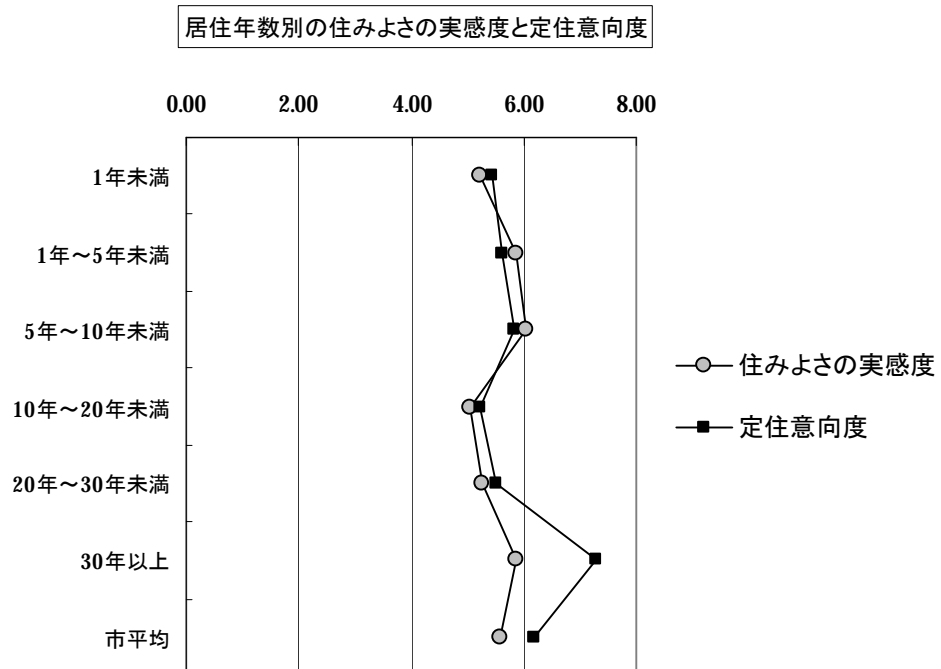
	ずっと 住みたい	どちらかといえ ば 住みたい	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば 住みた くない	住 みた くない	わ か ら な い	無 回 答	合 計	定 住 意 向 度
総社地区	43.9%	30.4%	14.7%	3.2%	0.9%	4.3%	2.5%	100.0%	6.06
常盤地区	48.4%	30.6%	11.5%	1.9%	0.6%	4.5%	2.5%	100.0%	6.68
三須地区	53.7%	20.9%	16.4%	4.5%	1.5%	-	3.0%	100.0%	6.23
服部地区	40.5%	33.3%	9.5%	9.5%	-	2.4%	4.8%	100.0%	5.64
阿曾地区	51.9%	25.9%	11.1%	3.7%	-	3.7%	3.7%	100.0%	6.80
池田地区	54.8%	29.0%	12.9%	-	-	3.2%	-	100.0%	7.17
秦地区	55.6%	26.7%	8.9%	4.4%	-	4.4%	-	100.0%	6.98
神在地区	50.0%	29.5%	13.6%	6.8%	-	-	-	100.0%	6.14
久代地区	43.5%	30.4%	10.1%	7.2%	-	5.8%	2.9%	100.0%	6.03
山田地区	53.3%	20.0%	13.3%	13.3%	-	-	-	100.0%	5.67
新本地区	36.4%	30.3%	15.2%	6.1%	6.1%	6.1%	-	100.0%	4.52
昭和地区	51.8%	22.4%	15.3%	5.9%	-	2.4%	2.4%	100.0%	6.30
山手地区	47.0%	27.0%	15.0%	8.0%	-	-	3.0%	100.0%	5.82
清音地区	43.5%	31.3%	12.2%	0.8%	3.1%	6.1%	3.1%	100.0%	6.13

(4) 住みよさの実感度と定住意向度

住みよさの実感度と定住意向度の関係についてみると、年代別では、住みよさの実感度が低い“18・19歳”、“50歳代”で定住意向度も低下していることがうかがえます。



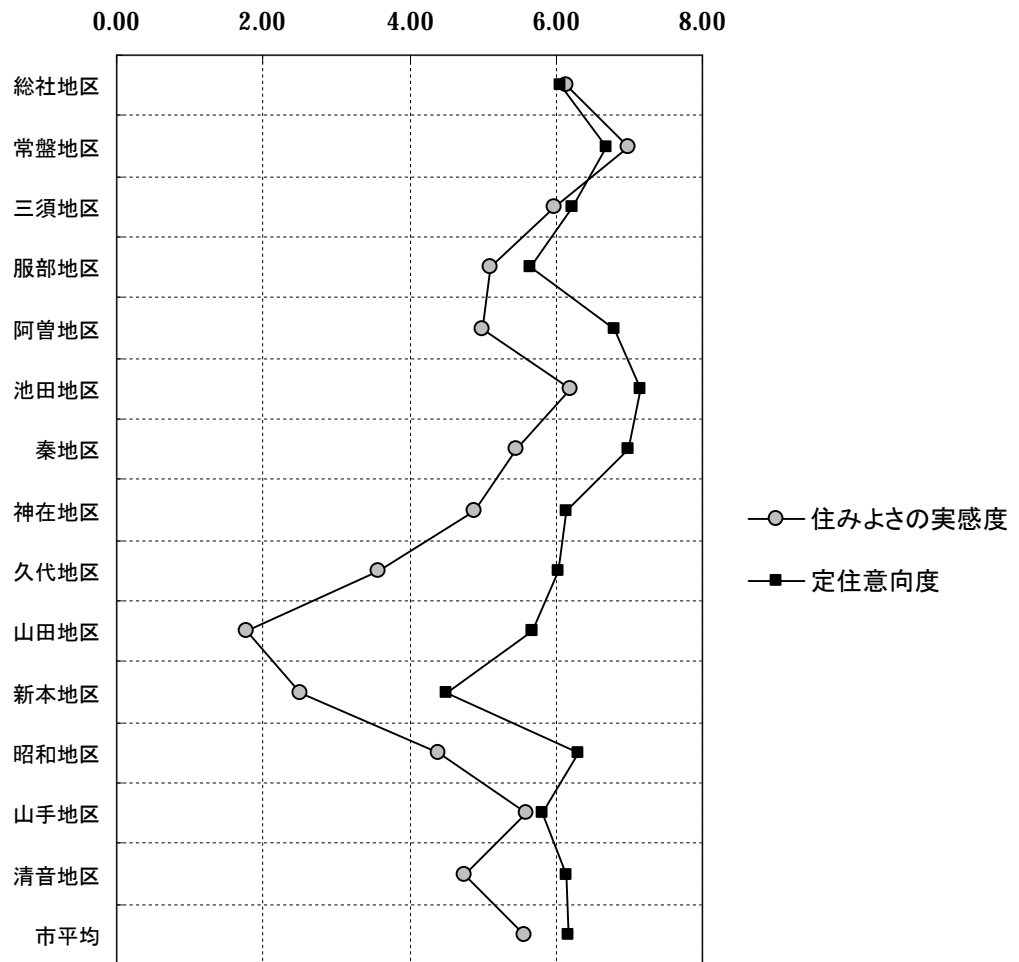
居住年数別では、“30年以上”が、住みよさの実感度を大きく上回る定住意向度を示しています。



地区別では、住みよさの実感度が低い“山田地区”や“新本地区”等において、定住意向度も低くなっています。

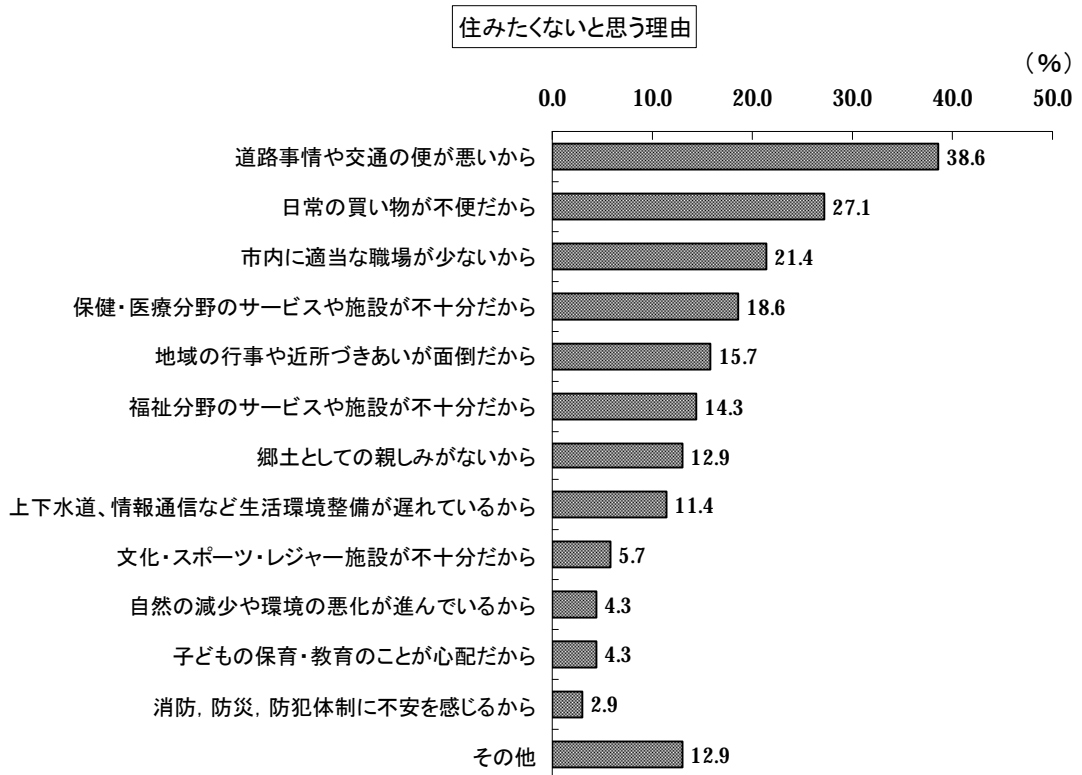
また、“総社地区”、“常盤地区”のみ、定住意向度が住みよさの実感度よりも低い値となっています。

地区別の住みよさの実感度と定住意向度



(5) 住みたくない理由

(3) で「どちらかといえば住みたくない」又は「住みたくない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「道路事情や交通の便が悪いから」が38.6%を占め最も多く、次いで「日常の買い物が不便だから」、「市内に適当な職場が少ないから」となっています。

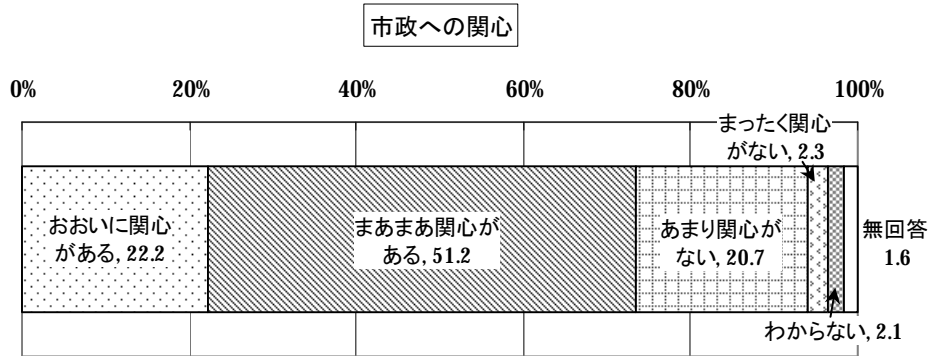


回答項目	回答数	構成比(%)
道路事情や交通の便が悪いから	27	38.6
日常の買い物が不便だから	19	27.1
市内に適当な職場が少ないから	15	21.4
保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	13	18.6
地域の行事や近所づきあいが面倒だから	11	15.7
福祉分野のサービスや施設が不十分だから	10	14.3
郷土としての親しみがないから	9	12.9
上下水道、高速インターネットなどの生活環境整備が遅れているから	8	11.4
文化・スポーツ・レジャー施設が不十分だから	4	5.7
自然の減少や環境の悪化が進んでいるから	3	4.3
子どもの保育・教育のことが心配だから	3	4.3
消防、防災、防犯体制に不安を感じるから	2	2.9
その他	9	12.9
合計	70	100.0

3. 市政や市の将来像等について

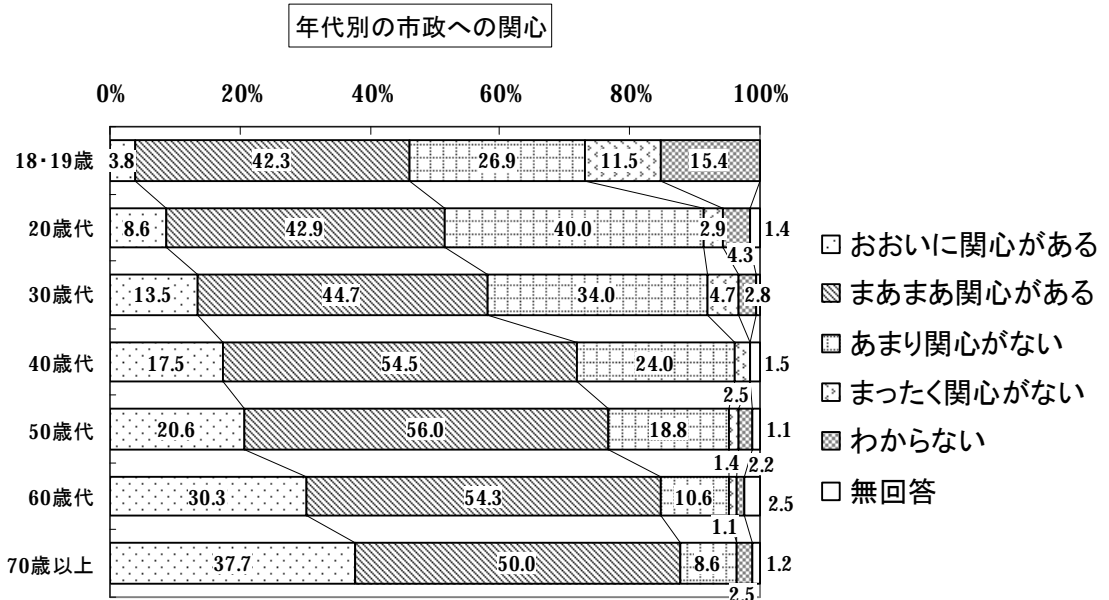
(1) 市政への関心

市政への関心については、「おおいに関心がある」が22.2%、「まあまあ関心がある」が51.2%となっており、合わせて73.4%の人がおおむね市政に関心があることがうかがえます。



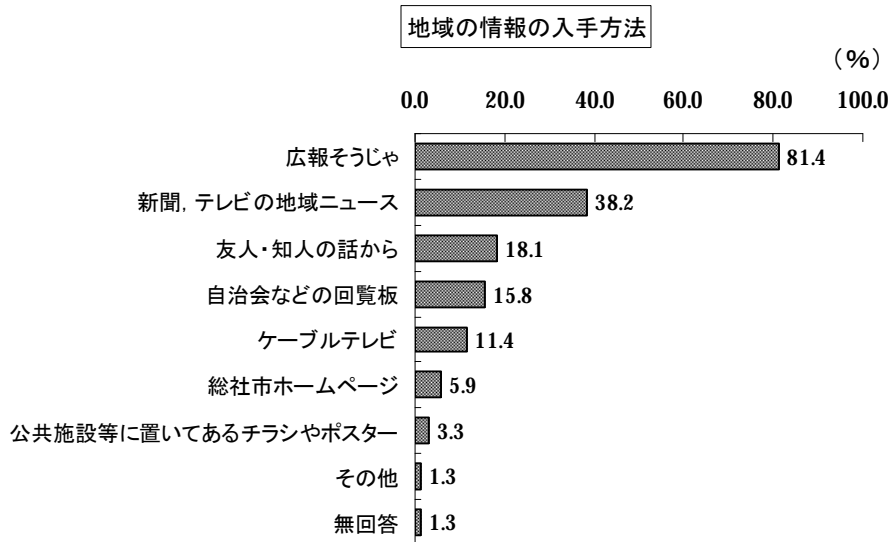
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
おおいに関心がある	314	22.2	22.5
まあまあ関心がある	724	51.2	52.0
あまり関心がない	293	20.7	21.0
まったく関心がない	32	2.3	2.3
わからない	30	2.1	2.2
無回答	22	1.6	
合計	1,415	100.0	1,393

また、年代別の関心度をみると、年代が高いほど、市政への関心が高いことが示されています。



(2) 地域の情報の入手方法

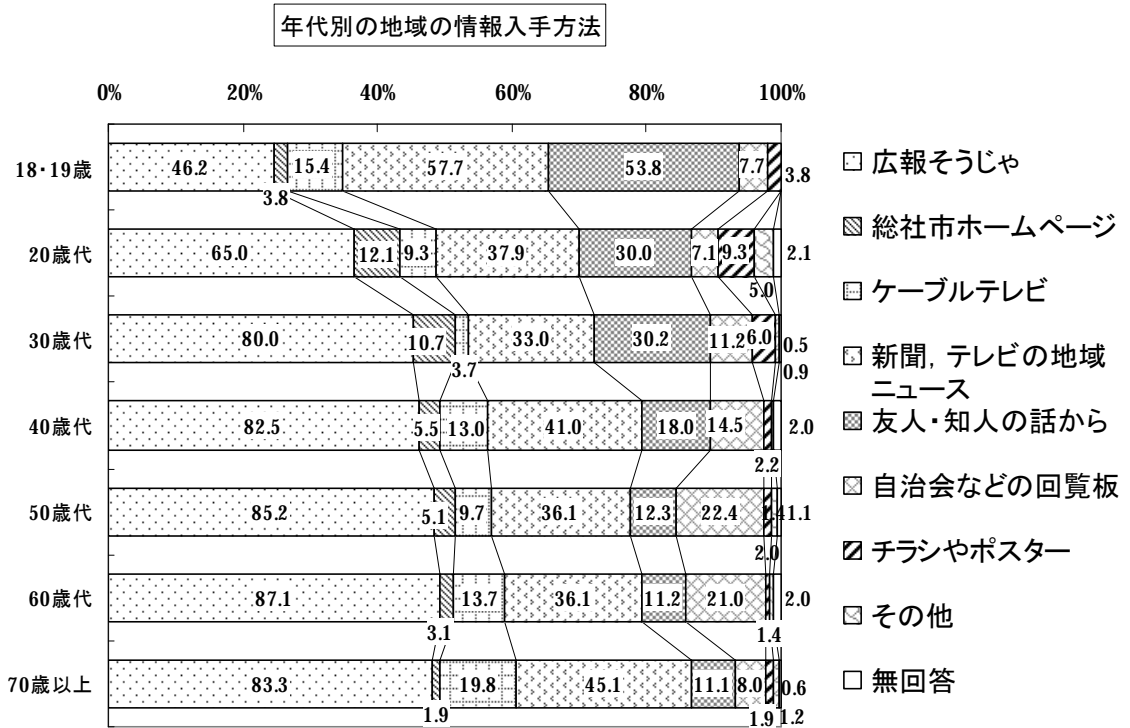
市民生活に必要な地域情報の入手は、「広報そうじゃ」が81.4%を占め圧倒的に多く、次いで「新聞、テレビの地域ニュース」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
広報そうじゃ	1,152	81.4	82.5
新聞, テレビの地域ニュース	540	38.2	38.7
友人・知人の話から	256	18.1	18.3
自治会などの回覧板	223	15.8	16.0
ケーブルテレビ	161	11.4	11.5
総社市ホームページ	83	5.9	5.9
公共施設などの窓口に置いてあるチラシやポスター	46	3.3	3.3
その他	19	1.3	1.4
無回答	19	1.3	
合計	1,415	100.0	1,396

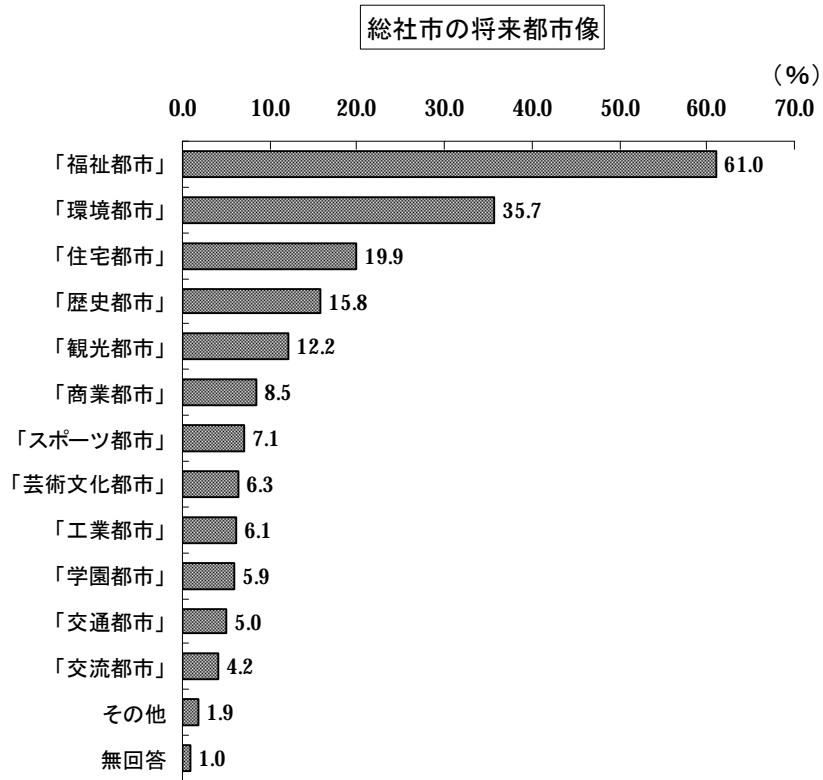
その他回答	回答数(人)
家族	2
特に情報を知ろうと思わないし、情報も入ってこない	2
市役所などに問い合わせている	1
地域情報について関心ない	1
今住んでいる所は回覧板が来ないので何もわからない	1
ラジオ	1
無回答	11
合計	19

年代別の回答をみると、“20歳代”から上の年代においては、「広報そうじゃ」が圧倒的に高い割合を占めています。“18・19歳”については、「新聞、テレビの地域ニュース」と「友人・知人の話から」の占める割合が高くなっています。



(3) 総都市の将来都市像

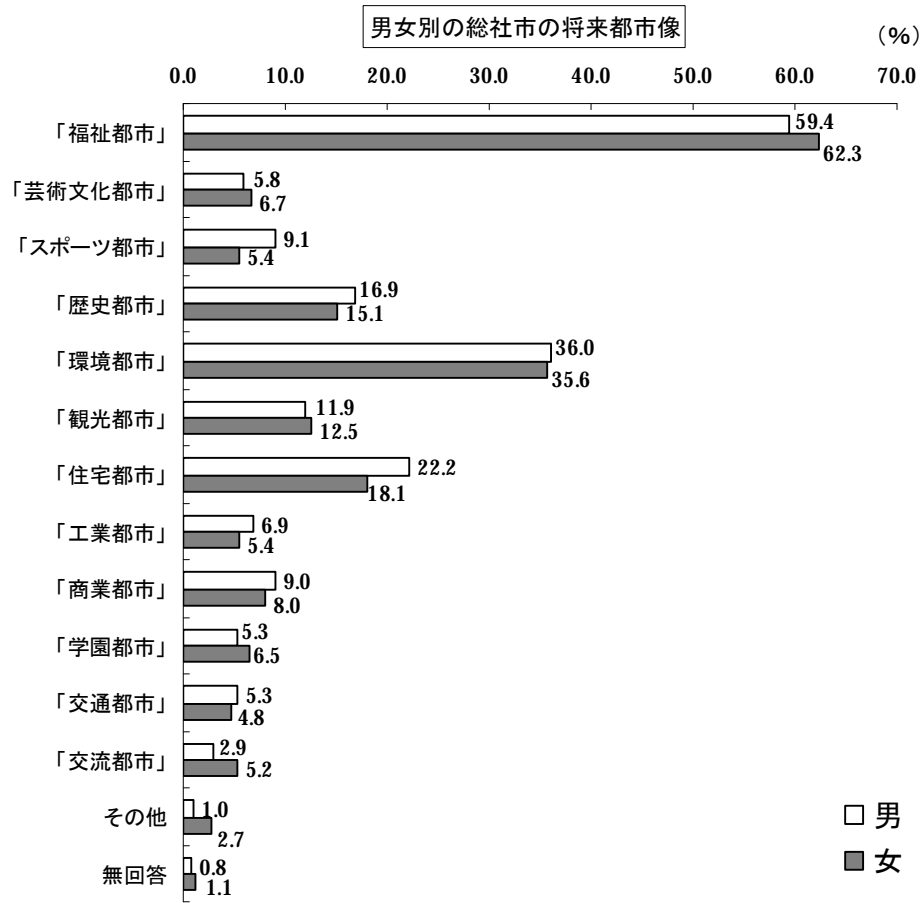
総都市の将来都市像については、「福祉都市・・・福祉施設や制度が充実しているまち」が61.0%を占め最も多く、次いで「環境都市・・・田園が広がり、自然環境を大切にしたいまち」、「住宅都市・・・都市基盤が充実し、優れた居住環境を持つまち」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
「福祉都市」	863	61.0	61.6
「環境都市」	505	35.7	36.0
「住宅都市」	282	19.9	20.1
「歴史都市」	224	15.8	16.0
「観光都市」	173	12.2	12.3
「商業都市」	120	8.5	8.6
「スポーツ都市」	101	7.1	7.2
「芸術文化都市」	89	6.3	6.4
「工業都市」	86	6.1	6.1
「学園都市」	84	5.9	6.0
「交通都市」	71	5.0	5.1
「交流都市」	59	4.2	4.2
その他	27	1.9	1.9
無回答	14	1.0	
合計	1,415	100.0	1,401

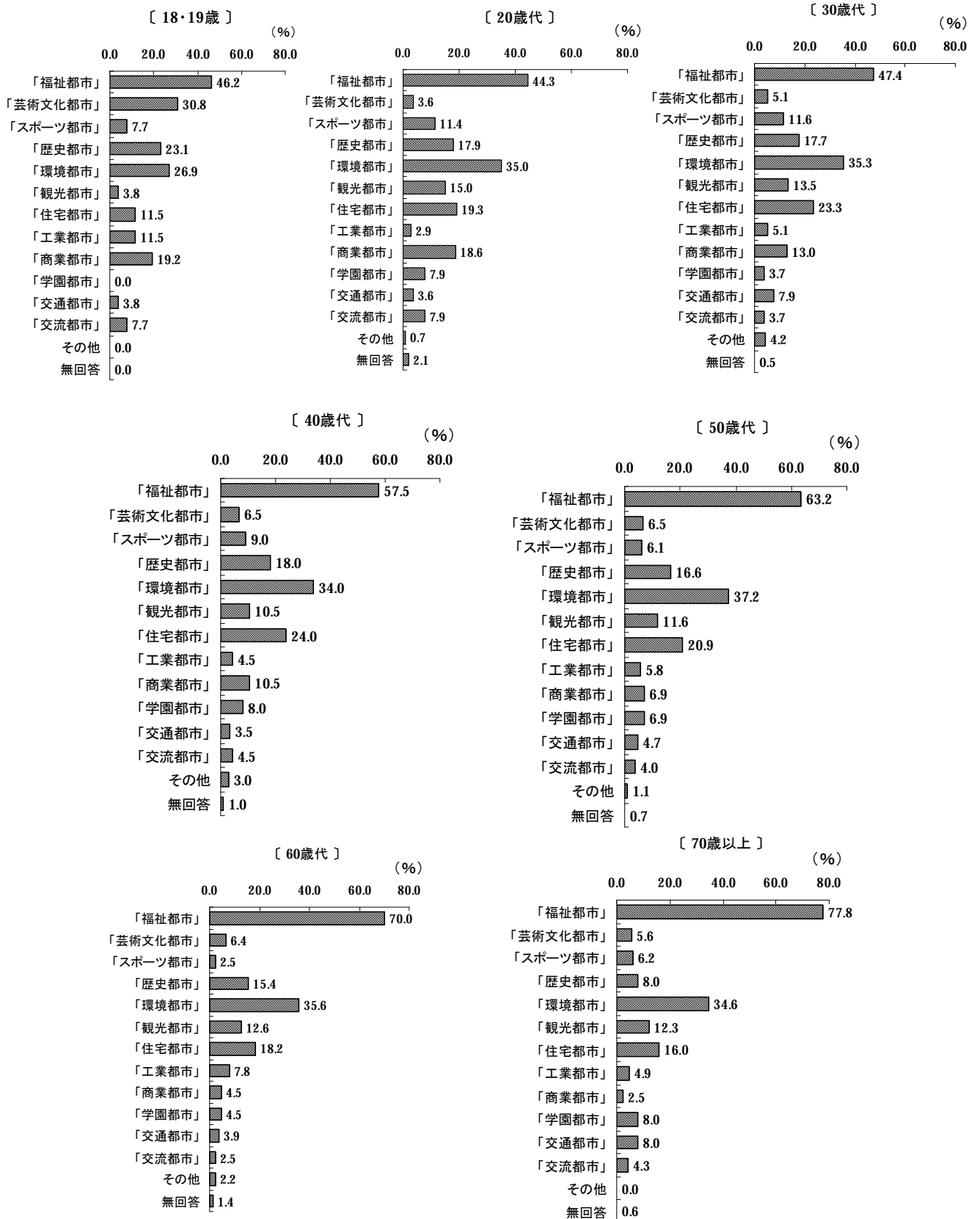
※「その他」については、無記載が多数を占める。

また、男女別の回答をみると、男女ともに「福祉都市」が最も多く、次いで「環境都市」となっており、男女間で回答傾向に特に相違はみられません。



Ⅲ アンケートの集計結果

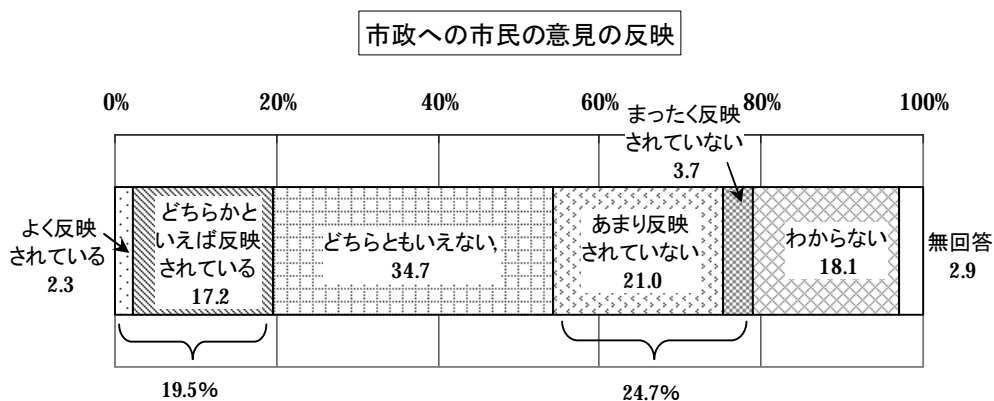
年代別の回答をみると、いずれの年代も「福祉都市」が最も高い割合を占めており、年代が高いほどその傾向が顕著となっています。次に高い割合を占めている都市像は、“18・19歳”のみ「芸術・文化都市」で、他の年代は「環境都市」となっています。



(4) 市政への市民の意見の反映

市政への市民の意見の反映については、「どちらともいえない」が34.7%を占め最も多く、次いで「あまり反映されていない」、「どちらかといえば反映されている」となっています。

「よく反映されている」と「どちらかといえば反映されている」を合わせた割合は19.5%であるのに対し、「まったく反映されていない」と「あまり反映されていない」を合わせた割合は24.7%となっており、反映されていないと実感している人のほうが多いことがうかがえます。



回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
よく反映されている	33	2.3	2.4
どちらかといえば反映されている	244	17.2	17.8
どちらともいえない	491	34.7	35.7
あまり反映されていない	297	21.0	21.6
まったく反映されていない	53	3.7	3.9
わからない	256	18.1	18.6
無回答	41	2.9	
合計	1,415	100.0	1,374

次に、男女別、年代別、地区別の回答傾向を把握するために、回答結果をそれぞれ指標化し、表並びにグラフに示します。指標化については以下の算出に基づきます。

◆「市政への市民の意見の反映」の指標化について

<ul style="list-style-type: none"> ・「よく反映されている」の回答数 × 10点 ・「どちらかといえば反映されている」の回答数 × 5点 ・「どちらともいえない」の回答数 × 0点 ・「あまり反映されていない」の回答数 × -5点 ・「まったく反映されていない」の回答数 × -10点 	}	<p style="text-align: center;">合計</p> <hr/> <p>「わからない」、「無回答」を除く回答数</p>
--	---	--

したがって、反映実感度の指数は上限「10」（よく反映されている）、下限「-10」（まったく反映されていない）で、中間値は「0」となります。

Ⅲ アンケートの集計結果

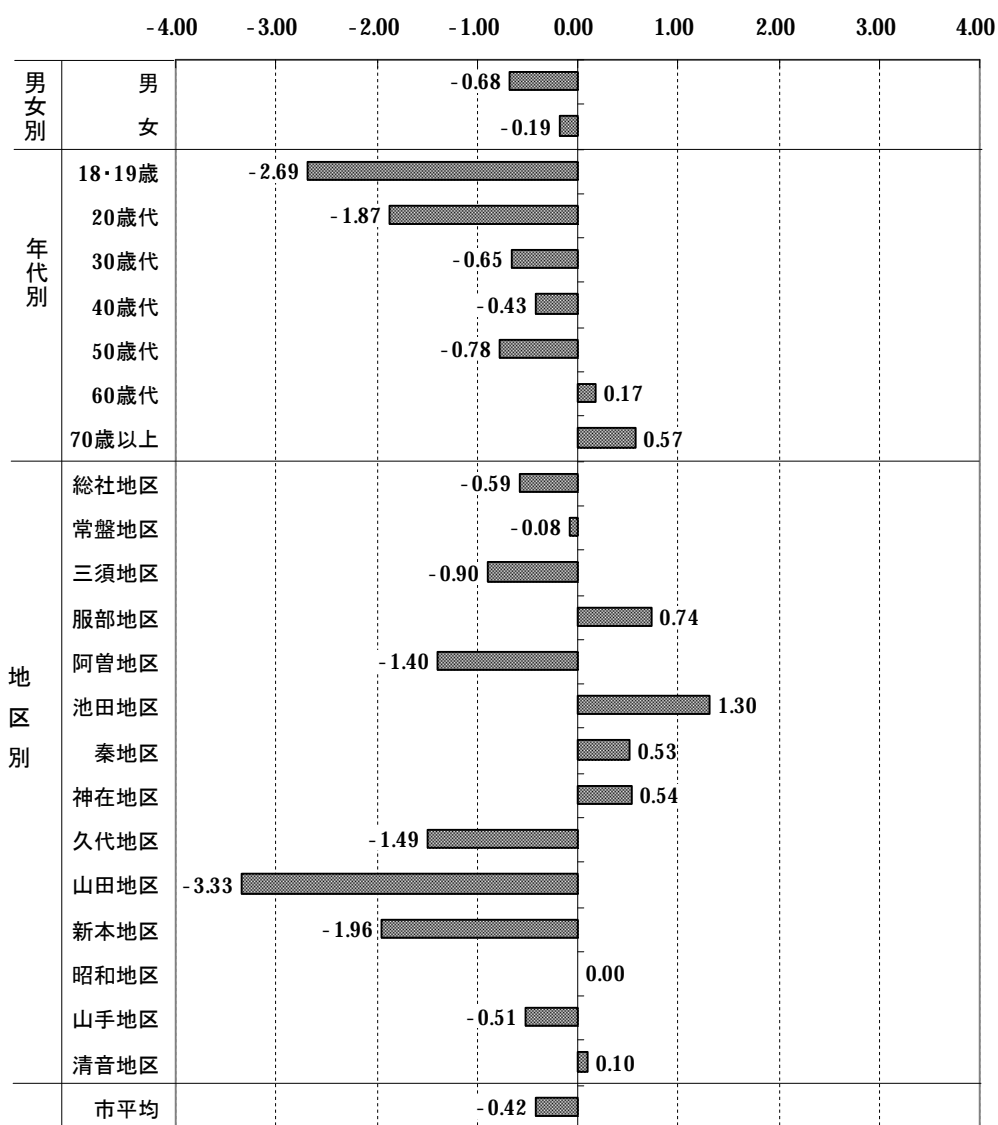
反映実感度からみると、男女別では、“男性”のほうが反映されていないと実感している人が多く、年代別では“18・19歳”、“20歳代”の反映実感度が低くなっています。

また、地区別では、反映実感度がプラスとマイナスの地区が混在しており、地区間で相違がみられます。

■性別・年代別・地区別の反映実感度

		よく反映 されている	どちらかといえば 反映されている	どちらとも いえない	あまり反映 されていない	まったく反映 されていない	わからない	無回答	合計	反映実感度
性別	男	2.6%	16.2%	37.9%	23.9%	4.5%	13.0%	1.9%	100.0%	-0.68
	女	2.2%	18.0%	32.2%	18.7%	3.2%	22.2%	3.7%	100.0%	-0.19
年代別	18・19歳	-	-	26.9%	19.2%	3.8%	50.0%	-	100.0%	-2.69
	20歳代	-	9.3%	32.9%	21.4%	7.1%	27.9%	1.4%	100.0%	-1.87
	30歳代	0.9%	14.4%	39.1%	14.9%	5.6%	23.3%	1.9%	100.0%	-0.65
	40歳代	1.5%	19.5%	34.0%	24.5%	2.5%	16.0%	2.0%	100.0%	-0.43
	50歳代	0.4%	15.9%	36.8%	22.4%	3.2%	17.0%	4.3%	100.0%	-0.78
	60歳代	4.8%	20.2%	33.3%	20.2%	3.4%	14.6%	3.6%	100.0%	0.17
	70歳以上	6.2%	22.2%	35.2%	21.0%	1.9%	11.1%	2.5%	100.0%	0.57
地区別	総社地区	1.3%	16.1%	37.1%	21.2%	3.4%	18.1%	2.8%	100.0%	-0.59
	常盤地区	4.5%	21.0%	24.2%	23.6%	3.8%	19.7%	3.2%	100.0%	-0.08
	三須地区	-	16.4%	32.8%	20.9%	4.5%	22.4%	3.0%	100.0%	-0.90
	服部地区	7.1%	21.4%	33.3%	14.3%	4.8%	16.7%	2.4%	100.0%	0.74
	阿曾地区	1.9%	13.0%	29.6%	31.5%	3.7%	16.7%	3.7%	100.0%	-1.40
	池田地区	9.7%	19.4%	25.8%	19.4%	-	16.1%	9.7%	100.0%	1.30
	秦地区	-	24.4%	46.7%	11.1%	2.2%	11.1%	4.4%	100.0%	0.53
	神在地区	2.3%	25.0%	36.4%	20.5%	-	15.9%	-	100.0%	0.54
	久代地区	1.4%	11.6%	37.7%	24.6%	7.2%	15.9%	1.4%	100.0%	-1.49
	山田地区	-	-	40.0%	26.7%	13.3%	20.0%	-	100.0%	-3.33
	新本地区	-	6.1%	36.4%	21.2%	6.1%	24.2%	6.1%	100.0%	-1.96
	昭和地区	4.7%	21.2%	32.9%	21.2%	4.7%	12.9%	2.4%	100.0%	0.00
	山手地区	2.0%	15.0%	37.0%	21.0%	3.0%	19.0%	3.0%	100.0%	-0.51
清音地区	3.1%	19.8%	35.9%	16.8%	3.8%	18.3%	2.3%	100.0%	0.10	
市平均		2.3%	17.2%	34.7%	21.0%	3.7%	18.1%	2.9%	100.0%	-0.42

市民の意見の反映実感度

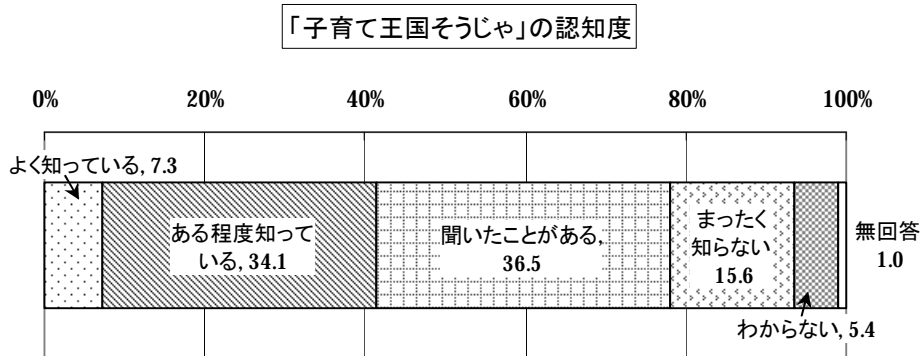


4. 総社市が進めている事業について

(1) 「子育て王国そうじゃ」について

① 「子育て王国そうじゃ」の認知度

「子育て王国そうじゃ」については、「聞いたことがある」が36.5%を占め最も多く、次いで「ある程度知っている」となっており、「よく知っている」は7.3%にとどまっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
よく知っている	104	7.3	7.4
ある程度知っている	483	34.1	34.5
聞いたことがある	517	36.5	36.9
まったく知らない	221	15.6	15.8
わからない	76	5.4	5.4
無回答	14	1.0	
合計	1,415	100.0	1,401

次に、年代別、家族構成別、地区別の回答傾向を把握するために、回答結果をそれぞれ指標化し、表並びにグラフに示します。指標化については以下の算出に基づきます。

◆ 「子育て王国そうじゃの認知度」の指標化について

$$\left. \begin{array}{l}
 \cdot \text{「よく知っている」の回答数} \quad \times \quad 10 \text{ 点} \\
 \cdot \text{「ある程度知っている」の回答数} \quad \times \quad 5 \text{ 点} \\
 \cdot \text{「聞いたことがある」の回答数} \quad \times \quad -5 \text{ 点} \\
 \cdot \text{「まったく知らない」の回答数} \quad \times \quad -10 \text{ 点} \\
 \cdot \text{「わからない」の回答数} \quad \times \quad 0 \text{ 点}
 \end{array} \right\} \frac{\text{合計}}{\text{「無回答」を除く回答数}}$$

したがって、認知度の指数は上限「10」（よく知っている）、下限「-10」（まったく知らない）で、中間値は「0」となります。

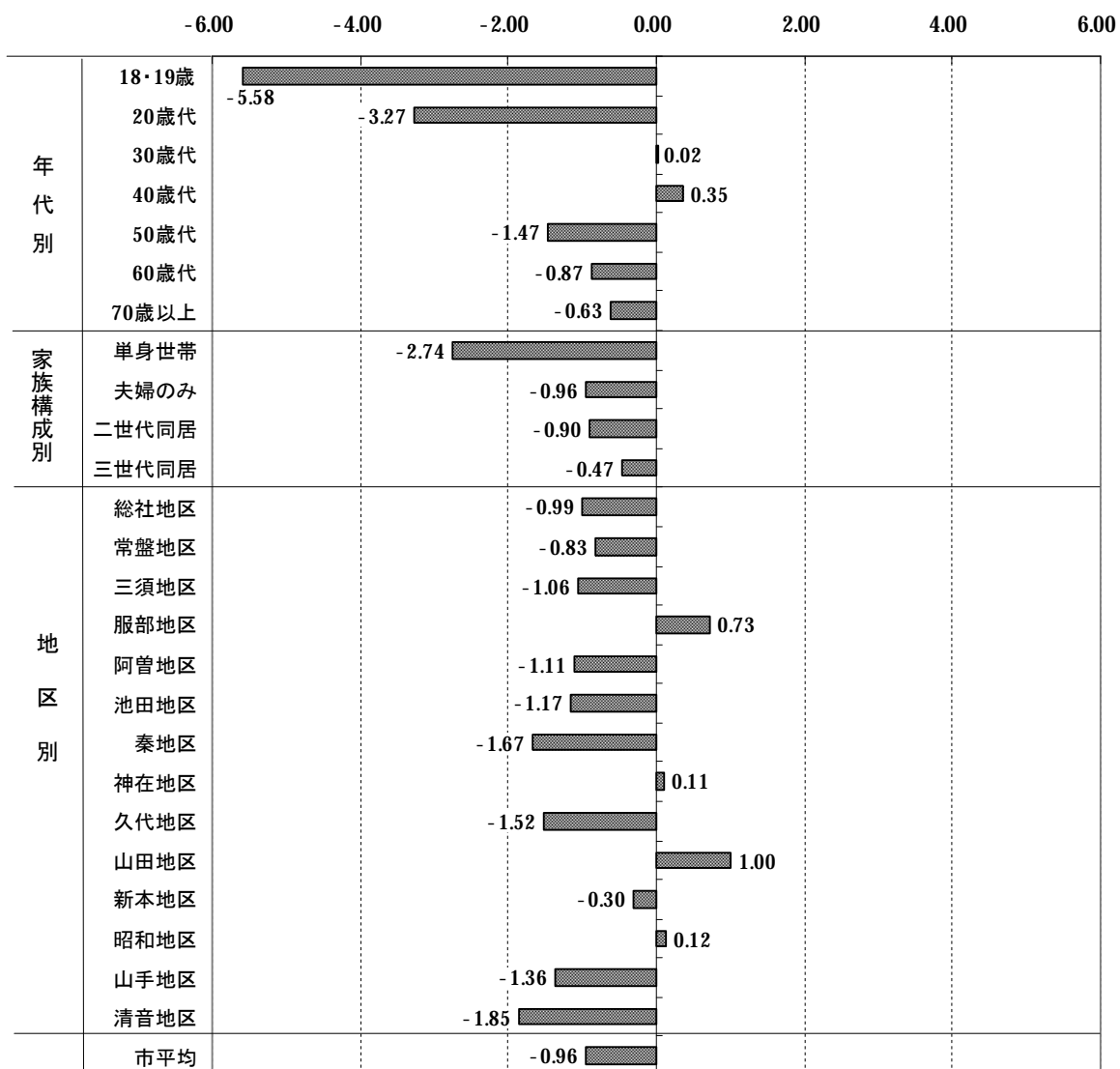
認知度の点数からみると、年代別では“30歳代”、“40歳代”の認知度が唯一プラスの値になっており、家族構成別では“単身世帯”の認知度が最も低くなっています。

また、地区別では、“山田地区”の認知度が最も高く、“清音地区”の認知度が最も低い状況にあります。

■年代別・家族構成別・地区別の認知度

		よく知っている	ある程度知っている	聞いたことがある	まったく知らない	わからない	無回答	合計	認知度
年代別	18・19歳	0.0%	11.5%	38.5%	42.3%	7.7%	-	100.0%	-5.58
	20歳代	3.6%	25.0%	32.9%	32.1%	5.7%	0.7%	100.0%	-3.27
	30歳代	13.0%	34.0%	37.2%	11.2%	4.2%	0.5%	100.0%	0.02
	40歳代	7.0%	47.0%	31.0%	11.5%	2.5%	1.0%	100.0%	0.35
	50歳代	5.1%	31.0%	45.1%	12.6%	5.8%	0.4%	100.0%	-1.47
	60歳代	6.7%	35.9%	34.5%	16.0%	5.3%	1.7%	100.0%	-0.87
	70歳以上	8.6%	31.5%	36.4%	12.3%	9.3%	1.9%	100.0%	-0.63
家族構成別	単身世帯	6.0%	22.9%	41.0%	24.1%	4.8%	1.2%	100.0%	-2.74
	夫婦のみ	7.1%	32.8%	39.0%	13.5%	6.4%	1.2%	100.0%	-0.96
	二世帯同居	7.5%	34.9%	36.5%	15.6%	4.9%	0.6%	100.0%	-0.90
	三世帯同居	5.8%	39.9%	33.7%	13.6%	5.0%	1.9%	100.0%	-0.47
地区別	総社地区	8.7%	32.3%	35.0%	17.2%	5.7%	1.1%	100.0%	-0.99
	常盤地区	5.1%	38.9%	41.4%	12.1%	2.5%	-	100.0%	-0.83
	三須地区	7.5%	32.8%	41.8%	13.4%	3.0%	1.5%	100.0%	-1.06
	服部地区	9.5%	45.2%	35.7%	7.1%	-	2.4%	100.0%	0.73
	阿曾地区	13.0%	24.1%	42.6%	14.8%	5.6%	-	100.0%	-1.11
	池田地区	6.5%	32.3%	35.5%	16.1%	6.5%	3.2%	100.0%	-1.17
	秦地区	2.2%	33.3%	53.3%	8.9%	2.2%	-	100.0%	-1.67
	神在地区	6.8%	45.5%	34.1%	11.4%	2.3%	-	100.0%	0.11
	久代地区	2.9%	34.8%	36.2%	17.4%	8.7%	-	100.0%	-1.52
	山田地区	6.7%	46.7%	26.7%	6.7%	13.3%	-	100.0%	1.00
	新本地区	9.1%	30.3%	36.4%	9.1%	15.2%	-	100.0%	-0.30
	昭和地区	11.8%	37.6%	25.9%	16.5%	4.7%	3.5%	100.0%	0.12
	山手地区	6.0%	31.0%	42.0%	14.0%	6.0%	1.0%	100.0%	-1.36
清音地区	4.6%	32.1%	32.1%	22.9%	7.6%	0.8%	100.0%	-1.85	
市平均		7.3%	34.1%	36.5%	15.6%	5.4%	1.0%	100.0%	-0.96

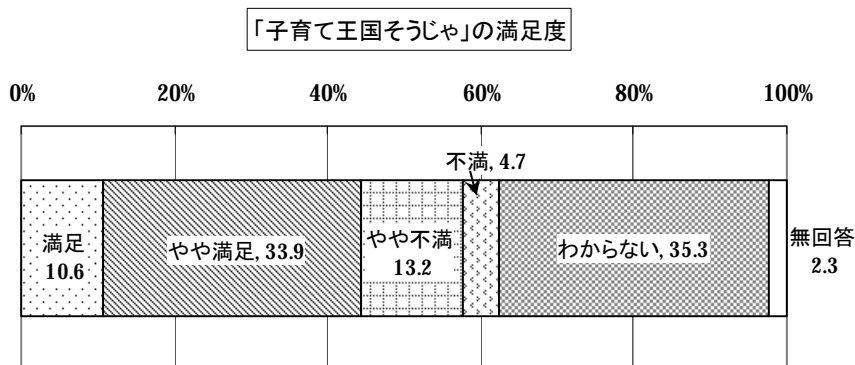
「子育て王国そうじゃ」の認知度



② 「子育て王国そうじゃ」の取組みについて

「子育て王国そうじゃ」の取組みについては、「わからない」が35.3%を占め最も多く、次いで「やや満足」となっています。

また、「満足」と「やや満足」を合わせた割合が44.5%であるのに対し、「不満」と「やや不満」を合わせた割合は17.9%となっており、満足している人のほうが多いことがうかがえます。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
満足	117	10.6	10.8
やや満足	374	33.9	34.7
やや不満	146	13.2	13.5
不満	52	4.7	4.8
わからない	390	35.3	36.1
無回答	25	2.3	
合計	1,104	100.0	1,079

次に、年代別、家族構成別、地区別の回答傾向を把握するために、回答結果をそれぞれ指標化し、表並びにグラフに示します。指標化については以下の算出に基づきます。

◆ 「子育て王国そうじゃの満足度」の指標化について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「満足」の回答数 × 10点 ・ 「やや満足」の回答数 × 5点 ・ 「やや不満」の回答数 × -5点 ・ 「不満」の回答数 × -10点 ・ 「わからない」の回答数 × 0点 	}	<p style="text-align: center;">合計</p> <hr style="width: 100%;"/> <p style="text-align: center;">「無回答」を除く回答数</p>
--	---	---

したがって、満足度の指数は上限「10」（満足）、下限「-10」（不満）で、中間値は「0」となります。

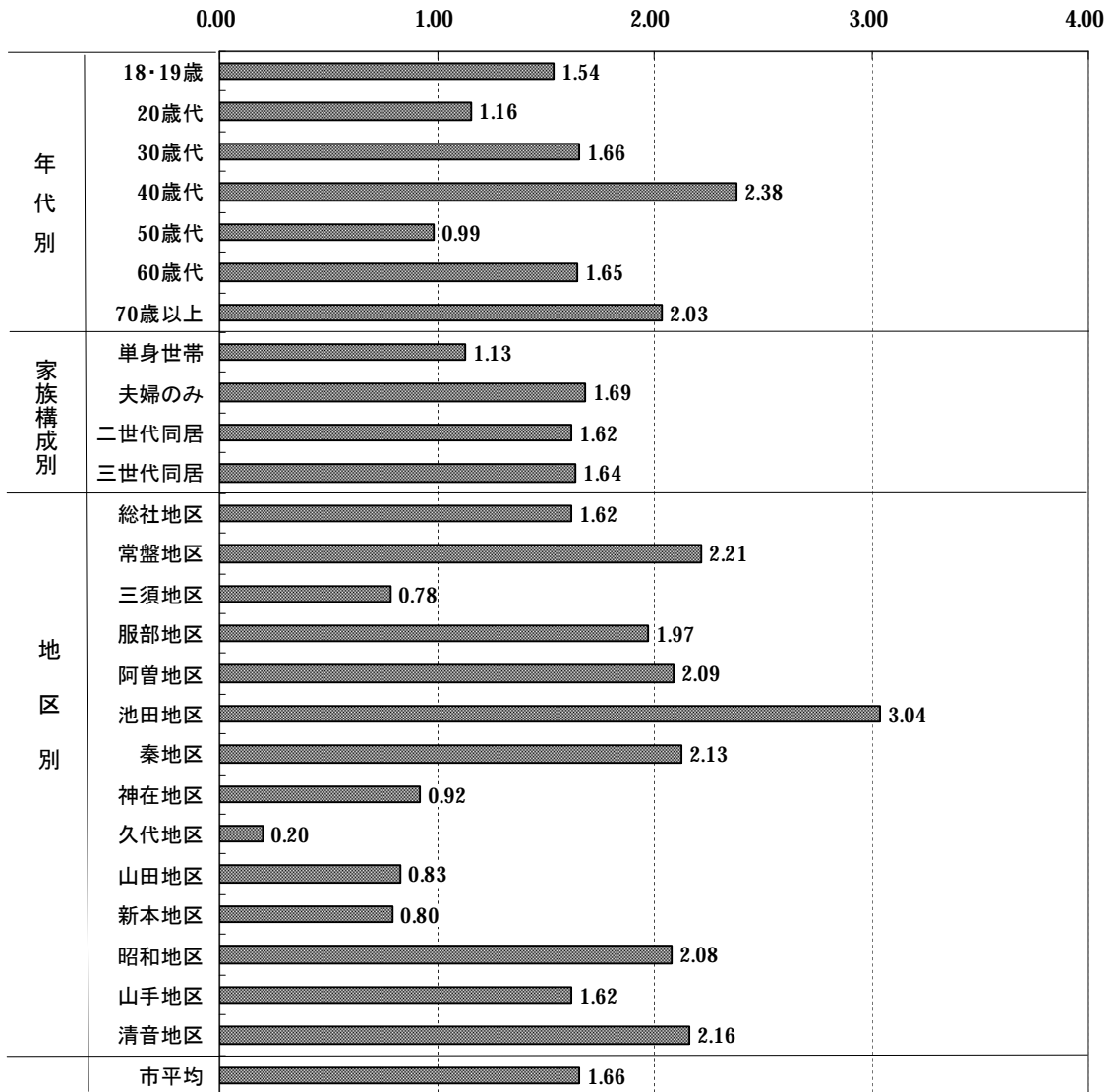
満足度の点数からみると、年代別では“40歳代”の満足度が最も高く、家族構成別では“単身世帯”の満足度が他の世帯に比べて低くなっています。

また、地区別では、“池田地区”の満足度が最も高く、“久代地区”の満足度が最も低い状況にあります。

■年代別・家族構成別・地区別の満足度

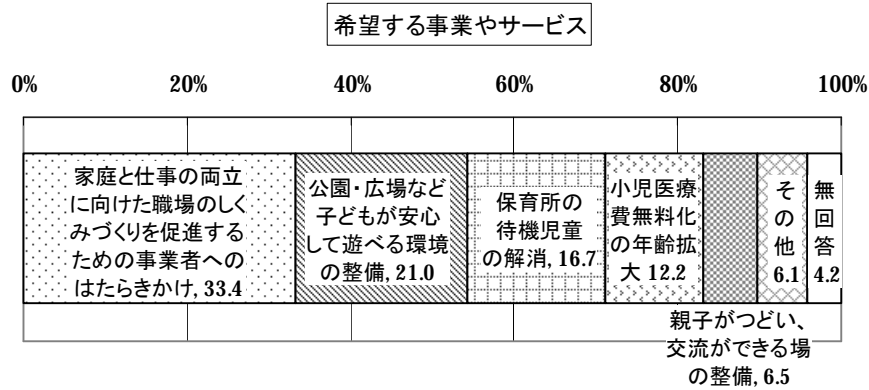
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	合計	満足度
年代別	18・19歳	7.7%	15.4%	-	-	76.9%	-	100.0%	1.54
	20歳代	10.5%	23.3%	14.0%	3.5%	48.8%	-	100.0%	1.16
	30歳代	12.2%	37.0%	15.5%	6.6%	27.1%	1.7%	100.0%	1.66
	40歳代	14.7%	38.2%	12.9%	4.1%	27.6%	2.4%	100.0%	2.38
	50歳代	6.7%	29.3%	12.0%	5.8%	43.1%	3.1%	100.0%	0.99
	60歳代	10.2%	34.9%	14.9%	4.0%	34.2%	1.8%	100.0%	1.65
	70歳以上	8.1%	38.7%	9.7%	3.2%	35.5%	4.8%	100.0%	2.03
家族構成別	単身世帯	8.6%	22.4%	12.1%	3.4%	44.8%	8.6%	100.0%	1.13
	夫婦のみ	8.9%	35.8%	8.9%	5.8%	38.5%	1.9%	100.0%	1.69
	二世帯同居	11.3%	33.6%	15.0%	4.6%	33.4%	2.1%	100.0%	1.62
	三世帯同居	11.2%	34.1%	15.1%	4.4%	34.6%	0.5%	100.0%	1.64
地区別	総社地区	10.2%	34.6%	15.4%	4.0%	33.6%	2.2%	100.0%	1.62
	常盤地区	10.4%	40.3%	10.4%	3.7%	32.8%	2.2%	100.0%	2.21
	三須地区	5.5%	34.5%	12.7%	9.1%	30.9%	7.3%	100.0%	0.78
	服部地区	15.8%	34.2%	15.8%	5.3%	28.9%	-	100.0%	1.97
	阿曾地区	20.9%	20.9%	16.3%	2.3%	39.5%	-	100.0%	2.09
	池田地区	17.4%	30.4%	4.3%	-	47.8%	-	100.0%	3.04
	秦地区	7.5%	40.0%	7.5%	2.5%	42.5%	-	100.0%	2.13
	神在地区	10.5%	28.9%	15.8%	7.9%	36.8%	-	100.0%	0.92
	久代地区	5.9%	25.5%	5.9%	13.7%	47.1%	2.0%	100.0%	0.20
	山田地区	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	-	100.0%	0.83
	新本地区	8.0%	24.0%	16.0%	4.0%	48.0%	-	100.0%	0.80
	昭和地区	14.1%	39.1%	18.8%	4.7%	17.2%	6.3%	100.0%	2.08
	山手地区	10.1%	30.4%	13.9%	2.5%	40.5%	2.5%	100.0%	1.62
清音地区	10.0%	36.7%	5.6%	4.4%	41.1%	2.2%	100.0%	2.16	
市平均		10.6%	33.9%	13.2%	4.7%	35.3%	2.3%	100.0%	1.66

「子育て王国そうじゃ」の満足度



③ 「子育て王国そうじゃ」に対して希望する事業やサービス

希望する事業やサービスについては、「家庭と仕事の両立に向けた職場のしくみづくりを促進するための事業者へのはたらきかけ」が33.4%を占め最も多く、次いで「公園・広場など子どもが安心して遊べる環境の整備」、「保育所の待機児童の解消」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
家庭と仕事の両立に向けた職場のしくみづくりを促進するための事業者へのはたらきかけ	472	33.4	34.8
公園・広場など子どもが安心して遊べる環境の整備	297	21.0	21.9
保育所の待機児童の解消	236	16.7	17.4
小児医療費無料化の年齢拡大	172	12.2	12.7
乳幼児を連れてた親子がつどい、親子での交流ができる場の整備	92	6.5	6.8
その他	86	6.1	6.3
無回答	60	4.2	
合計	1,415	100.0	1,355

その他の回答	回答数(人)
わからない。	10
学童保育の充実、延長。	6
小児の夜間救急医療体制の整備。	5
現在子育て中の人にとっては良い施策であるが、子育ての終わっている家庭にとっては不平等なことではないか。中年・老年のみの家庭も何か良い元気の出る施策はないのか。	4
障害を持っている子どもへの支援。	2
任意となっている予防接種の無料化など。(水疱瘡、おたふくなど)	2
特に希望することはない。	2
障害のある児童をもつ家庭をサポートする取り組み。	1
小児科や産婦人科などの充実	1
事業をして何が変わるのか。	1

その他の回答	回答数(人)
6・3・3 制度の廃止、もっと自由な教育を。	1
この形で質問すること自体問題である。もっと具体的に事業を周知してほしい。	1
だいたい子どもがいなくなった。	1
個々の家庭に、もっと具体的なことをしてほしい。	1
給食費の無償化。	1
何をしたいのかよくわからない。	1
幼稚園での給食の実施。毎日、午後までの保育にしてもらいたい。	1
1年のうち数回、頼る人がいなくて本当に困ることがある。そういった時、地区ごとのボランティアが必要だと思う。日頃からその地区の人たちと触れ合うことを何かつくることで、若いお母さんたちも安心して任せられる。これが必要だと思う。	1
学校の環境整備(特に人的人足の解消)。	1
学校の統廃合等、市内で子育てのできる環境整備。児童数が少なすぎる。	1
学校教育の充実。	1
子どものことより高齢者に対する 取組み のほうがよっぽど重要。	1
義務教育の間(中学三年)まで、児童手当、医療費無料化。低所得者には重大な問題。	1
義務教育無料化。	1
休日や帰宅後の小中学生の児童・生徒を安心して任せられる地域の整備。	1
子どもの医療費無料化おかし、両親がいるのに。	1
共働きをせず親子と一緒に過ごせるようにするための仕組みづくり。子ども一人の出産につき、いくらかの助成金を小学6年生まで出す等。	1
子育てだけでなく、今その子が将来、総社市に在住できる基盤整備が重要。	1
子育てできる若い人が住みたいと思う環境が整っているまちづくり。企業の誘致や福祉ビジネス拠点づくり。	1
子育てを他人に任せたり、経済的に支援することは大切だと思うが、親になる以上、子育てに責任を持ち、他人にばかり頼らず、しっかりしてほしい。責任の持てない人が親になることに、市の税金を使うことがためになることなのか。	1
子育て王国だけではだめ。高齢者の王国もまだまだ必要。	1
子育て支援に、 取組み が少々片寄りすぎである。	1
子どもは家庭、小地域で育てるもの。無料化、施設のみではダメ。親が一番。	1
子どもを産んで育てようとする時に、母親や父親など、育てる側の心が元気でなかったら、いじめや虐待、犯罪が起りかねない。子育てに関する 取組み とともに、各世代の心のケアも考えてほしい。どんな事項も一つの原因だけで起こらないのと同じように、何か一つを解決するのにはいろいろな方面からの対策をとることが必要。	1
市外に住みながら、やむを得ず市内の幼稚園に通わせなければならない場合、住所変更をして通園できるようにしてほしい。以前規則で決められているからと断られた。そういうことへの改正が行われないと、働く女性が子どもを持ってないと思う。	1
市民の周知と理解。	1
自分で住んでいる地域での遊具のある公園を希望。	1

Ⅲ アンケートの集計結果

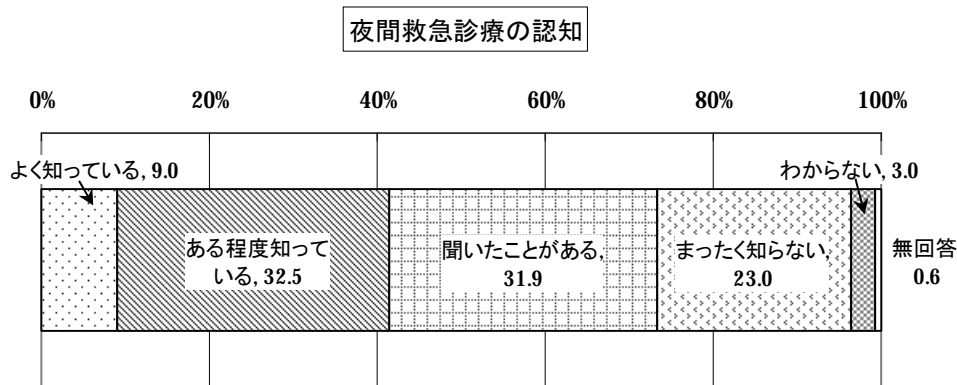
その他の回答	回答数(人)
就業できる職場そのものがないので、企業誘致を進めて、若い世代が安心して働くことのできるよう経済活動をまず見直す。	1
将来を考えると、今やるべき最優先課題がそれで良いのか。	1
親が安心して働けるまちづくり。事業全て。	1
第一子が生まれた家庭への手当、二子、三子からの手当よりは、第一子が生まれてからの手当の方がありがたい。	1
中学校への通学路が遠すぎる。	1
通学路の安全確認(道路の拡幅歩道橋の整備等)。	1
道徳教育の充実。	1
妊婦検査の完全無料化。妊娠・出産費用を公費負担。	1
不妊治療の医療費助成。	1
父子家庭に対する支援。	1
物(ハード)、親子の関係を重視した取組みより、地域社会の住人が、子どもをみなで育てる意識を持つ取組みが必要である。	1
保育所を 23 年度よりできるだけ早く。	1
母子家庭が子どもと安心して暮らせる住居の整備。	1
無料化が良いとは思えないこともある。	1
幼稚園の預かり保育を促進し、どのような幼児も幼稚園教育が受けられるようにしてほしい。	1
無回答	8
合計	84

(2) 「夜間急病診療」について

① 夜間急病診療の認知度

夜間急病診療については、「ある程度知っている」が32.5%を占め最も多く、次いで「聞いたことがある」となっています。

また、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた割合は41.5%となり、「まったく知らない」の23.0%を上回っています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
よく知っている	127	9.0	9.0
ある程度知っている	460	32.5	32.7
聞いたことがある	452	31.9	32.1
まったく知らない	325	23.0	23.1
わからない	42	3.0	3.0
無回答	9	0.6	
合計	1,415	100.0	1,406

次に、年代別、地区別の回答傾向を把握するために、回答結果をそれぞれ指標化し、表並びにグラフに示します。指標化については以下の算出に基づきます。

◆ 「夜間急病診療の認知度」の指標化について

- ・ 「よく知っている」の回答数 × 10点
 - ・ 「ある程度知っている」の回答数 × 5点
 - ・ 「聞いたことがある」の回答数 × -5点
 - ・ 「まったく知らない」の回答数 × -10点
 - ・ 「わからない」の回答数 × 0点
- $$\frac{\text{合計}}{\text{「無回答」を除く回答数}}$$

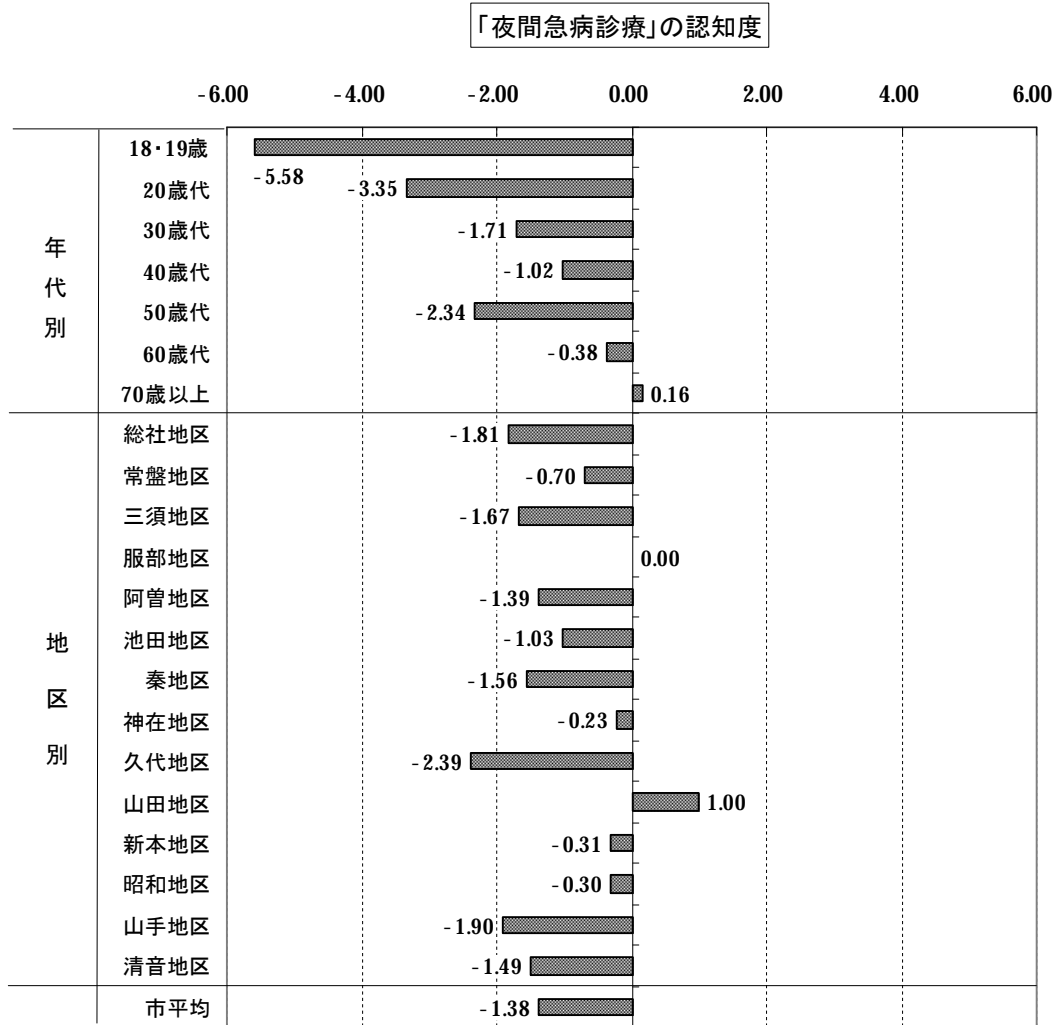
したがって、認知度の指数は上限「10」（よく知っている）、下限「-10」（まったく知らない）で、中間値は「0」となります。

認知度のポイントからみると、年代別では“70歳以上”のみが唯一プラスの値を示し、最も高くなっています。

また、地区別では、“山田地区”、“服部地区”の認知度が唯一プラスの値を示し高く、“久代地区”の認知度が最も低い状況にあります。

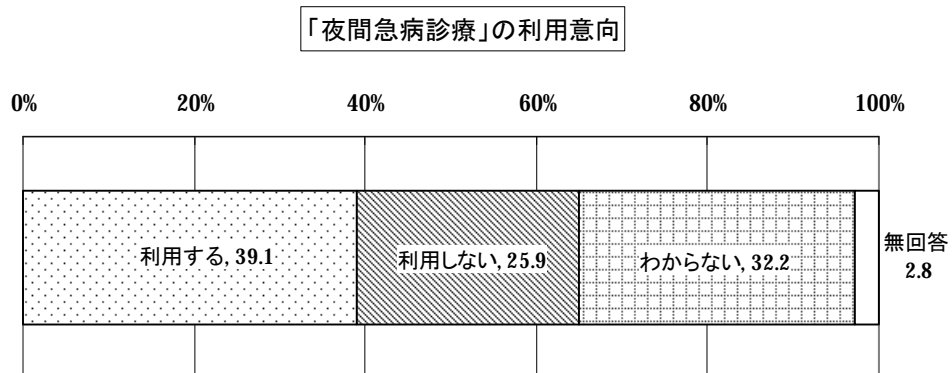
■年代別・地区別の認知度

		よく知っている	ある程度知っている	聞いたことがある	まったく知らない	わからない	無回答	合計	認知度
年代別	18・19歳	-	19.2%	30.8%	50.0%	-	-	100.0%	-5.58
	20歳代	7.1%	20.7%	32.9%	34.3%	4.3%	0.7%	100.0%	-3.35
	30歳代	10.2%	28.8%	32.1%	25.6%	2.8%	0.5%	100.0%	-1.71
	40歳代	9.0%	37.5%	27.5%	24.0%	0.5%	1.5%	100.0%	-1.02
	50歳代	5.1%	30.7%	33.2%	27.1%	3.6%	0.4%	100.0%	-2.34
	60歳代	9.2%	38.7%	33.3%	15.7%	2.8%	0.3%	100.0%	-0.38
	70歳以上	17.9%	28.4%	34.0%	13.6%	4.9%	1.2%	100.0%	0.16
地区別	総社地区	9.5%	28.9%	34.4%	24.8%	2.1%	0.4%	100.0%	-1.81
	常盤地区	12.7%	33.8%	28.7%	22.3%	2.5%	-	100.0%	-0.70
	三須地区	7.5%	31.3%	31.3%	23.9%	4.5%	1.5%	100.0%	-1.67
	服部地区	7.1%	42.9%	38.1%	9.5%	2.4%	-	100.0%	0.00
	阿曾地区	13.0%	27.8%	33.3%	24.1%	1.9%	-	100.0%	-1.39
	池田地区	9.7%	32.3%	25.8%	22.6%	3.2%	6.5%	100.0%	-1.03
	秦地区	2.2%	37.8%	37.8%	17.8%	4.4%	-	100.0%	-1.56
	神在地区	11.4%	40.9%	27.3%	20.5%	-	-	100.0%	-0.23
	久代地区	8.7%	26.1%	29.0%	30.4%	2.9%	2.9%	100.0%	-2.39
	山田地区	13.3%	40.0%	33.3%	6.7%	6.7%	-	100.0%	1.00
	新本地区	9.1%	39.4%	33.3%	15.2%	-	3.0%	100.0%	-0.31
	昭和地区	9.4%	40.0%	27.1%	18.8%	3.5%	1.2%	100.0%	-0.30
	山手地区	5.0%	34.0%	28.0%	27.0%	6.0%	-	100.0%	-1.90
清音地区	6.1%	35.1%	31.3%	22.9%	4.6%	-	100.0%	-1.49	
市平均		9.0%	32.5%	31.9%	23.0%	3.0%	0.6%	100.0%	-1.38



② 夜間急病診療の利用意向

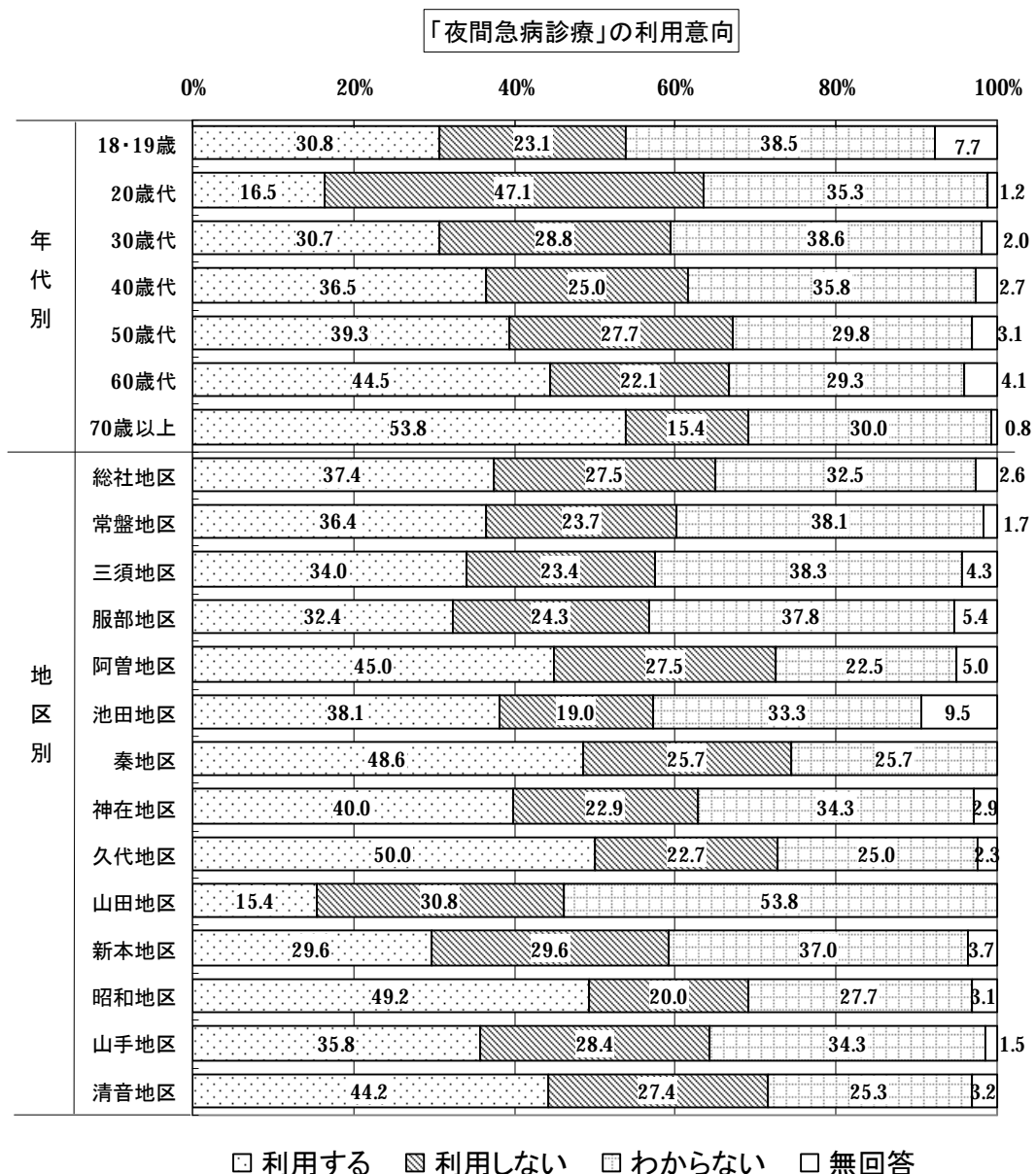
①で「よく知っていた」、「ある程度知っていた」、「聞いたことがあった」と回答した人に、利用意向を尋ねたところ、「利用する」が39.1%、「利用しない」が25.9%、「わからない」が32.2%となっています。



Ⅲ アンケートの集計結果

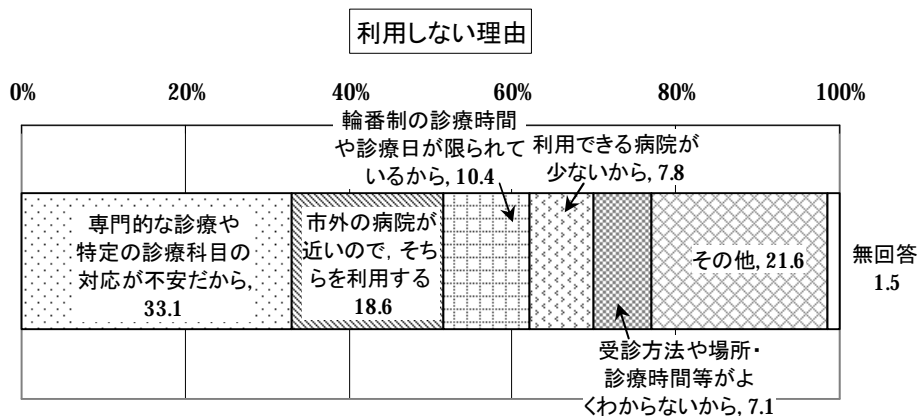
回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
利用する	406	39.1	40.2
利用しない	269	25.9	26.6
わからない	335	32.2	33.2
無回答	29	2.8	
合計	1,039	100.0	1,010

また、年代別の利用意向では、“70歳以上”の利用意向が最も高く、地区別では、“久代地区”、“昭和地区”、“秦地区”において、半数程度が利用意向を示しています。



③ 夜間急病診療を利用しない理由

②で「利用しない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「専門的な診療や特定の診療科目（小児科など）の対応が不安だから」が 33.1%を占め最も多く、次いで「その他」、「市外の病院が近いので、そちらを利用するから」となっています。



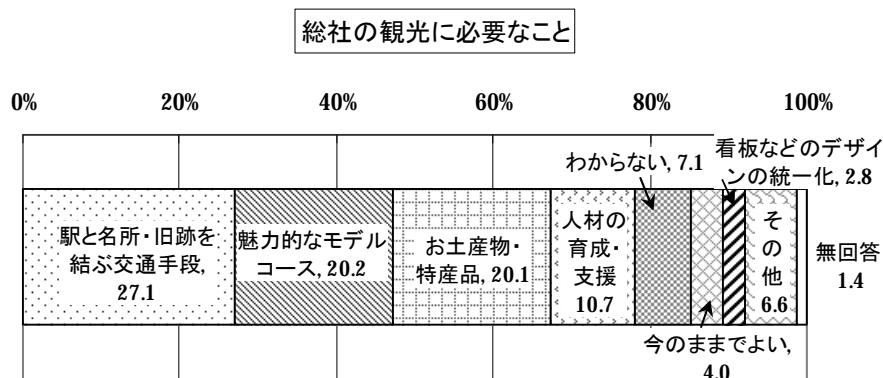
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
専門的な診療や特定の診療科目（小児科など）の対応が不安だから	89	33.1	33.6
市外の病院が近いので、そちらを利用するから	50	18.6	18.9
輪番制の診療時間（午後 7 時から 9 時まで）や診療日（週 2 日）が限られているから	28	10.4	10.6
利用できる病院が少ないから	21	7.8	7.9
受診方法や場所・診療時間等がよくわからないから	19	7.1	7.2
その他	58	21.6	21.9
無回答	4	1.5	
合計	269	100.0	265

その他の回答	回答数(人)
総社市の病院（夜間急病診療）では不安だから。	21
まだ夜間急病診療を利用するような状況になっただけではないため。	14
かかりつけ医で受診したいから。	7
利用しようと思ったら断られたから。	6
PM7:00～PM9:00 では夜間診療とはいえないのではないかと。	1
そこに行きたくないから。	1
大きな病院に行っただけが安心なので（倉中や川崎医大）。	1
なるべく通常の診療時間、曜日に受診する。	1
以前からの病院があるから。	1
健康保険証がない。	1
時間は短かったし、ちゃんとした対応をしてくれなかったから。	1
受診中の医師との連絡がとれると思えない。とってもらえない。	1

その他の回答	回答数(人)
実際に緊急を要する場合は救急車を。その他は次の日をまって受診すれば十分と思われるため。	1
通常より医療費が高いためできるだけ行かない。	1
時間外受入施設の確保。夜間病院に電話すると救急を呼んで措置してもらえと言われたり、専門外(外科医担当)でよければ来てくださいと言われる。市長の言では受入体制は確保したと公言しているが、実態はゼロだ。	1
合計	59

(3) 「総社観光プロジェクト」について

総社の観光に必要なことは、「駅と名所・旧跡を結ぶ交通手段」が27.1%を占め最も多く、次いで「魅力的なモデルコース」、「お土産物・特産品」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
駅と名所・旧跡を結ぶ交通手段	384	27.1	27.5
魅力的なモデルコース	286	20.2	20.5
お土産物・特産品	284	20.1	20.4
人材の育成・支援(住民との協働)	151	10.7	10.8
わからない	100	7.1	7.2
今のままでよい	57	4.0	4.1
看板などのデザインの統一化	40	2.8	2.9
その他	93	6.6	6.7
無回答	20	1.4	
合計	1,415	100.0	1,395

その他の回答	回答数(人)
効果的なPRや宣伝方法を考える。	16
駅前開発。ハッピータウン跡地などの再利用による喫茶・食事・土産物・特産品の店があると良い。	5
ご当地やB級グルメの開発およびPR	4
プロジェクトは不必要。	4
映画やドラマのロケを誘致して、知名度を上げる。	3
イベント等を増やす。	3
総社と言えば、「これ」という何かを。今のままでは何なのかわからない。1つ2つを厳選して、市民にアピールして全国に発信してほしい。	3
外へ向けての観光アピールより、総社市内での市民の快適な生活の充実を優先して議論してほしい。	4
「吉備路地域」として活動する。	1
「駅と名所・旧跡を結ぶ交通手段」、「魅力的なモデルコース」、「お土産物・特産品」、「人材の育成・支援(住民との協働)」、「看板などのデザインの統一化」などで知名度が上がるのか。岡山市、倉敷市など岡山県の中でもメジャーな市に人が動くのはなぜなのかを知らないといけないのではないかと。総社ではなく岡山という考えからはじめないといけないと思う。	1
「駅と名所・旧跡を結ぶ交通手段」、「魅力的なモデルコース」、「お土産物・特産品」、「人材の育成・支援(住民との協働)」、「看板などのデザインの統一化」の項目の全般を充実すべきと思う。	1
吉備路と吉備津神社、高松稲荷など、もっと広域的に考えてほしい。岡山市と連携しないのか。民間レベルで発信しないのか。年代別に整理してわかりやすくアピールしてほしい。古代史ファンは作山、造山を知っている。	1
1日3回程度、循環線のように国分寺、宝福寺、サンロード、農マル園芸など名所を回る中型バスなどで見て回るコースを設定すると、観光客が増えると思う。(真備町では東回りと、西回りがあある。)	1
知名度＝観光なのか、何か別にないのか。住み易く、暮らしやすい町、総合病院があったり、エコロジーの町とか、乗り捨て可能な共同自転車とか、高年老人ホテルとか。総社市がトップランナー的な行政を行えば知名度は上がるのではないかと。	1
TVCM 全国版。	1
アピールと、訪れたことによって得られる付加価値(知識やお土産など)。	1
アミューズメントパークの整備。	1
その土地に住む人が満足していないのに、観光客が満足なわけがない。まず、市民に喜ばれる観光地整備を考えるべき。	1
バス路線の開設。	1
ブランド&知人を連れて行くときに、地元のものを食べさせる場所がなかった。	1
まず、町全体を美しくすること。掃除をし、花を植えるなど。	1
ゆるキャラアピール。	1
岡山・倉敷・総社で協力して観光アピールする。後楽園/最上稲荷→国分寺/総社宮/宝福寺(インパクトに弱い)→美観地区/ショッピングモール 岡山・倉敷の通過点として立ち寄ってもらおう。もしくは、遊ぶところがないので、修学旅行生の宿泊場所とする。	1
それぞれの名所の魅力などアピールできるものを一冊の冊子や本にまとめるなどして、全国発信してはいいか。その価値は十分にあると思っている。	1
吉備路・古寺・古墳群・里山など、資源は数多い。これらをつなげて総社市民以外に知らしめる努力が不足している。もったいない。	1
観光には向いていないと思う。	1
観光に来ていただくという気持ちがないのでは。	1

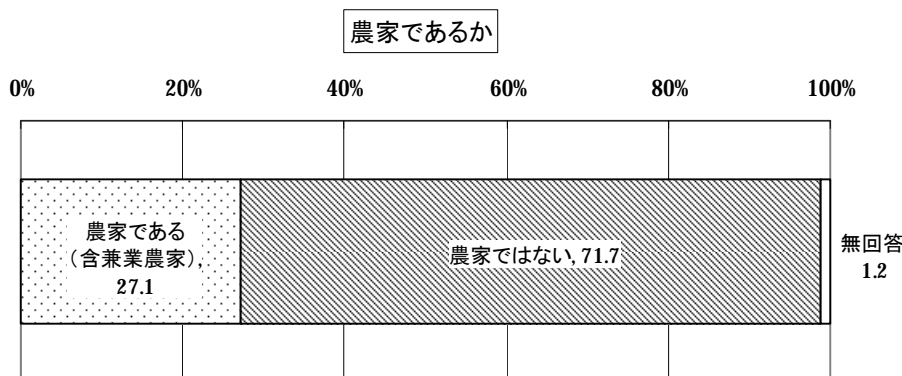
Ⅲ アンケートの集計結果

その他の回答	回答数(人)
観光や文化、歴史また産業等関連した”プロジェクト”を目指すべき。現状は各分野単独もしくは広汎な視野での検討を。そして一般市民の代表の声を聞くべき。	1
観光客を飽きさせない数多くの「うんちく」。	1
観光地そのものを磨き直し、交通網の整備。例えば観光地巡回バスや自転車道をもっとわかりやすく。	1
鬼ノ城は少し掘すぎではないか。あまりいじらない方が私が良いと思われる。	1
近隣自治体との連携(総社単独では無理)観光場所が限られている。	1
四季の風物、花でも良いので国分寺付近を統一感ある観光地にしてほしい。今はあまりに中途半端。	1
市民一人ひとりの郷土愛、市民が郷土に愛着を覚えなくて何が観光か。市民に郷土を良く知ってもらうことが最優先。	1
自然を残したまちづくり。あったかさ。	1
車社会なので、要所に市内の観光案内図をもう少し増やすこと。	1
集客効果の高い観光施設の整備。	1
宿泊、交通、その他との有機的結合。	1
宿泊し、他地域へ出かけるベースとなるような 取組み 。	1
雪舟などの芸術に関する大家が出ていながら、他市に比べて美術館や芸術作品の展覧会を開く場所が総社としてはない。また、博物館のような施設もなく、スポーツ施設についても中途半端であり、土産物、特産品もない。柱がないのに何を全国発信するつもりなのか理解できない。	1
全国にアピールするよりも、市内を充実させ、住民を増やしていく方が良いのではないか。	1
総社というよりも山手等一部である。もっと考えるべき。	1
総社観光プロジェクトがあることを知らなかった。	1
総社市内に金を落としてくれるような観光が必要。	1
総社市民の人間性を+α(物+α)。地域の住民性も 十分 観光資源である。	1
他市にはない特色のあるまちづくり。	1
大規模なレジャー施設の整備。	1
大阪出張所へ週 1 回、岡山総社産、地産物、野菜など、新しい規格品等を安く、 PR かねて産地直売活動を目指すこと。	1
単なる通過型にしない手段。サンロード吉備路を没にしないように願う。	1
知名度を上げる前にすべきことがあるのではないか。	1
地元の人がもっと地域を知ること。	1
駐車場の整備。	1
土木事業等については対費用効果を求めるのに、観光事業には対費用効果は分析はされていない。やみくもに県外で PR するのではなく、実施した PR の効果分析をしてほしい。一方、吉備路文化について就学旅行にプログラムを作ってはどうか。若いときに良いと思えば、結婚してもリピーターになり経済効果があるのでは。	1
道が狭すぎる。鬼ノ城までの道路。	1
文化財の活用。五重塔も鬼ノ城も岡山市(県)の方がうまく利用してアピールしている。	1
歩行者、自転車が通行しやすい環境	1
名所、寺院が良いものがあるが、全部受入等悪い。	1
無回答	2
合計	93

(4) 「総社新農業会議」について

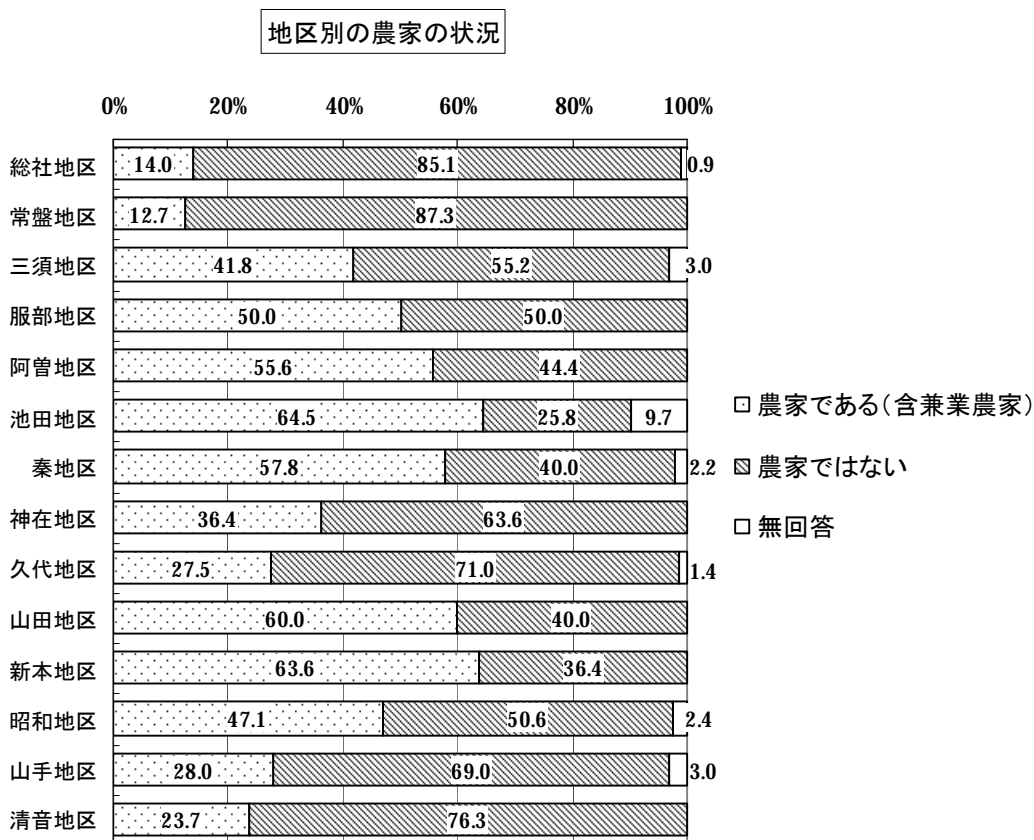
① 農家であるか

「農家（兼業農家も含む）」が27.1%、「非農家」が71.7%となっています。



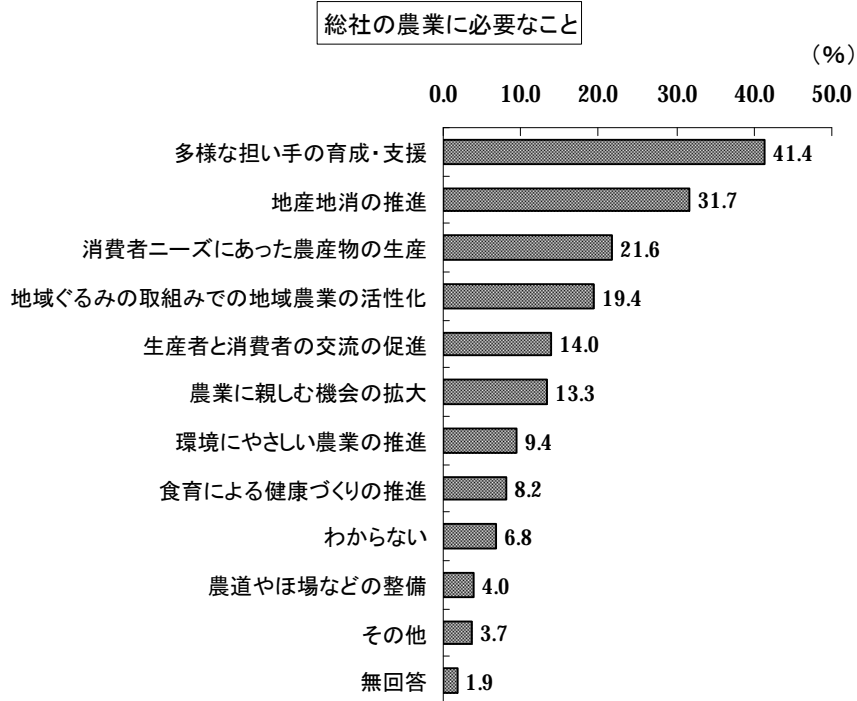
回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
農家である(兼業農家も含む)	384	27.1	27.5
農家ではない	1,014	71.7	72.5
無回答	17	1.2	
合計	1,415	100.0	1,398

また、地区別の農家・非農家については、下のグラフに示すようになっています。



② 総社の農業に必要なこと

総社の農業に必要なことは、「多様な担い手の育成・支援」が41.4%を占め最も多く、次いで「地産地消の推進」、「消費者ニーズにあった農産物の生産」となっています。

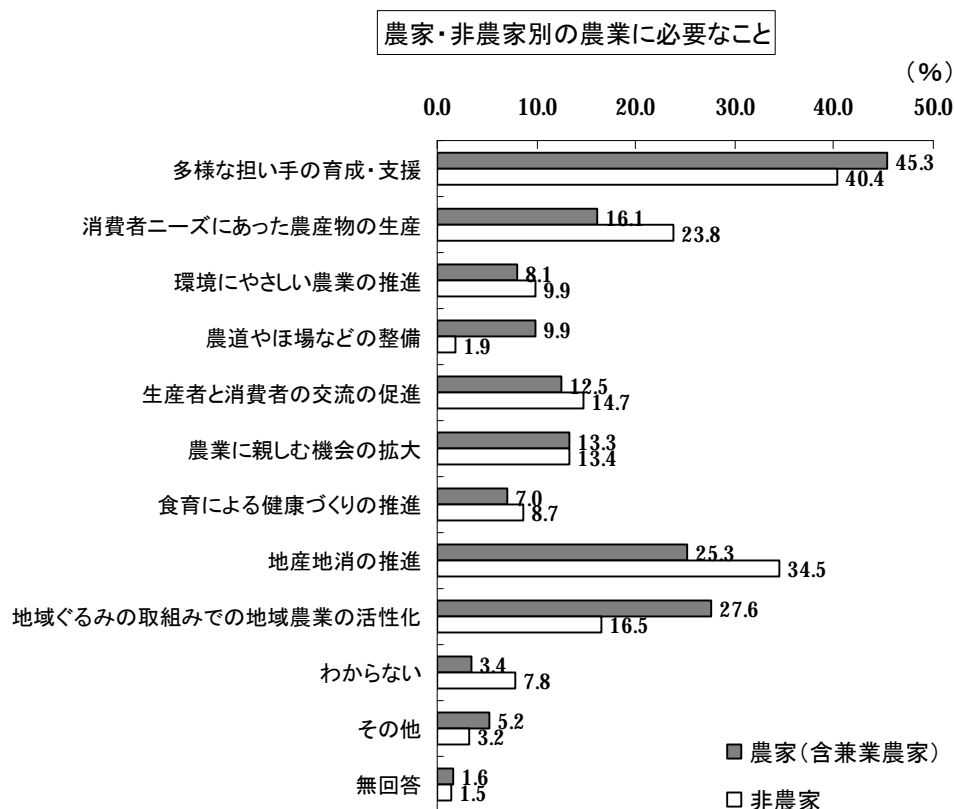


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
多様な担い手の育成・支援	586	41.4	42.2
地産地消の推進	449	31.7	32.3
消費者ニーズにあった農産物の生産	306	21.6	22.0
地域ぐるみの取組みでの地域農業の活性化	274	19.4	19.7
生産者と消費者の交流の促進	198	14.0	14.3
農業に親しむ機会の拡大	188	13.3	13.5
環境にやさしい農業の推進	133	9.4	9.6
食育による健康づくりの推進	116	8.2	8.4
わからない	96	6.8	6.9
農道やほ場などの整備	57	4.0	4.1
その他	52	3.7	3.7
無回答	27	1.9	
合計	1,415	100.0	1,388

その他の回答	回答数(人)
”農業が絶対必要”とした、政府の取組み。	1
サンロード吉備路でしているような、市場を大手スーパー(ニシナとかリブ)でもやってもらいたい。民間のスーパーと行政が協力して地産地消に取組み、周辺地域からの顧客も獲得すれば良いと思う。	1
サンロードで野菜を買うが、売手が無愛想で言葉も少ない。もっと活力のある市場で交流しながら買い物したい。	1
企業化。	1

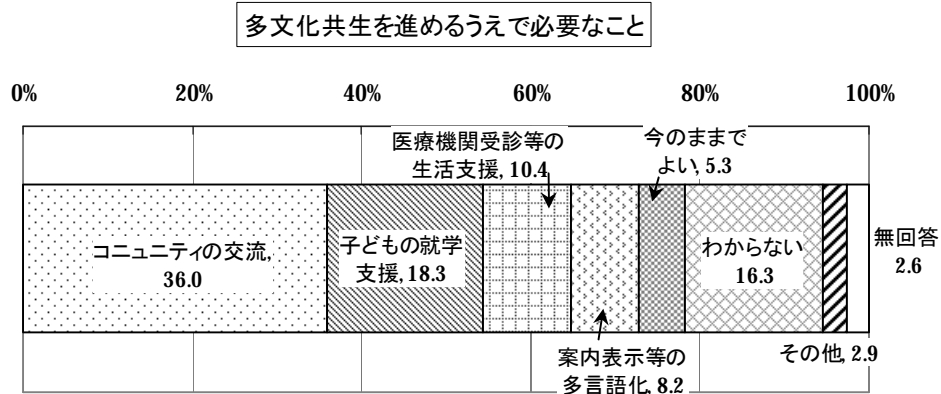
その他の回答	回答数(人)
休耕田を利用すること。	1
古い考えの撤廃。	1
国政のやる気(財政的に無理だが)。	1
自家消費規模(小規模)の農家にも補助、支援が必要。	1
自由化。	1
生産者は苦しんでいる。生産者の意見を良く聞いてほしい。	1
他の地域ではまねのできない農産物の生産。	1
貸農園。	1
調整、農振地をもっと絞込み、集中的な支援を行うこと。	1
農業で稼げる仕組み、アプローチの仕方が不十分。	1
農業の会社化。自分が作った物を売る力が必要。	1
農業所得の向上。	1
労働にあった収入。	1
回答1の補足:農業用水のガードレール及び側溝の蓋等の設置と外灯の増設	1
無回答	35
合計	53

また、農家・非農家別の回答では、どちらも「多様な担い手の育成・支援」が最も多くなっています。次いで、非農家は「地産地消」となっていますが、農家は「地域ぐるみの取り組みでの地域農業の活性化」となっています。



(5) 「多文化共生事業」について

多文化共生を進める上で必要なことは、「コミュニティの交流」が36.0%を占め最も多く、次いで「子どもの就学の支援」、「医療機関受診等の生活支援」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
コミュニティの交流	509	36.0	36.9
子どもの就学支援	259	18.3	18.8
医療機関受診等の生活支援	147	10.4	10.7
案内表示等の多言語化	116	8.2	8.4
今のままでよい	75	5.3	5.4
わからない	231	16.3	16.8
その他	41	2.9	3.0
無回答	37	2.6	
合計	1,415	100.0	1,378

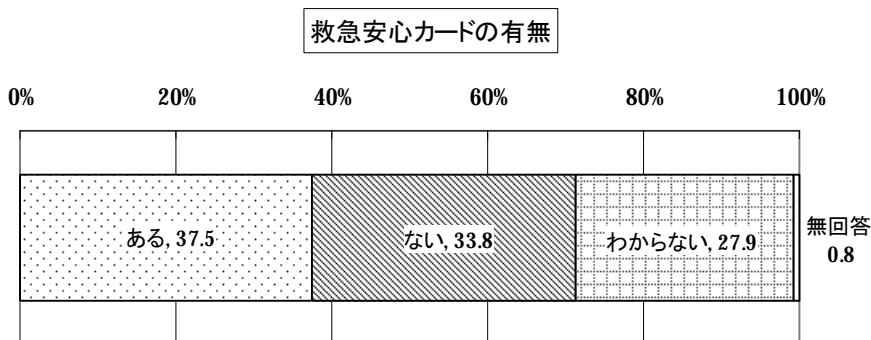
その他の回答	回答数(人)
外国人は多くない方がよい。	3
日本語習得支援。	3
多文化共生は、必要ないと思う。	3
「コミュニティの交流」、「子どもの就学支援」、「医療機関受診等の生活支援」、「案内表示等の多言語化」はすべきことだと思うが、外国人を労働力としている企業の責任と努力が必要だと感じている。	1
AMDA グループとは何か、何をやるグループか。医療、就学支援は必要。	1
トラブルが起きたとき、起きないための取り組み。	1
ハードルの高い居住規定により、外国人の質を上げる。	1
まじめにがんばっている外国人に接してみると、もっと「子どもの就学支援」、「医療機関受診等の生活支援」、「案内表示等の多言語化」は、支援がいると思う。	1
無料で外国語を学べる学習会(日本語を含め)。	1
外国人がその特性を活かせる状況活路の場を作ること。ポルトガル語が適用する都市づくり等の仕掛けづくりをするべき。	1
外国人への地域文化や風習の学習化。	1

その他の回答	回答数(人)
鉄工団地等外人を使い捨てにした。これでは外国の人を呼んではいけない。	1
外国人の居住目的が永住であれば、日本人に対して多文化共生社会実現のための教育。短期滞在なら外国人に対して生活支援を行う。	1
外国人を差別しない環境づくり。	1
近所に外国の方がいないのでピンとこない。	1
言葉の問題はとても大きいと思うが、日本語と外国語両方が記述されている冊子等があるか。また、家族への支援も大切だと思う。	1
古い人たちの考え方を改善しないと始まらないと思う。	1
考え方が違うので、外国人とは交流したくない。	1
姉妹都市提携。	1
子どもから大人までの文化・言語の学習。	1
市が意図する共生事業とは何か。時々マスコミに報じられる表面的な事業では、本当の意味での共生にはならないと思う。	1
支援するばかりでなく、外国人がもっと積極的なコミュニケーションをとる。例えば、ボランティアに参加するとか、そうやって外国人たちのことを地域の人にわかってもらおうこと。外国人というと悪いイメージが定着しているので、悪くないということを教えることが必要。	1
自国(日本)の文化を愛することで、外国人がそれぞれの国の文化を大切にする気持ちを知ること。そのための教育。	1
自国地域文化、伝統芸能等を身につけたり、親しむことが大切。	1
受入れは良が、日本で生活する上でのルールを教えるべき。	1
就職支援。	1
食の交流。	1
総社に住んでいる日本人でも貧しい暮らしをしている人がいるのに、外国人にそこまでするのはかわからない。外国人の方が良い暮らしをしていると思う。	1
沢山ありすぎて1~4まで全て必要。	1
地元の近くで、外国人が幼児を殺害する事件が起こったことがあるので、正直あまり言いイメージがなく、最初、引っ越してきたときは総社市の治安は大丈夫なのかと心配になった。このため、イメージが良くなるような何かがあれば良いと思う。	1
日本語を理解したうえで来日してもらおう。	1
年に一度、その国の料理、特産等をイベントで出店し、交流が深まれば良いと思う。	1
排他主義ではないが、多文化共生は文化の継承に障りあり。	1
多文化共生事業を推進することは良いことだと思うが、治安が悪くなるのではないかと心配である。そういう方面の強化をお願いしたい。	1
防犯対策。	1
合計	41

(6) 「救急安心カード」について

① 「救急安心カード」の有無

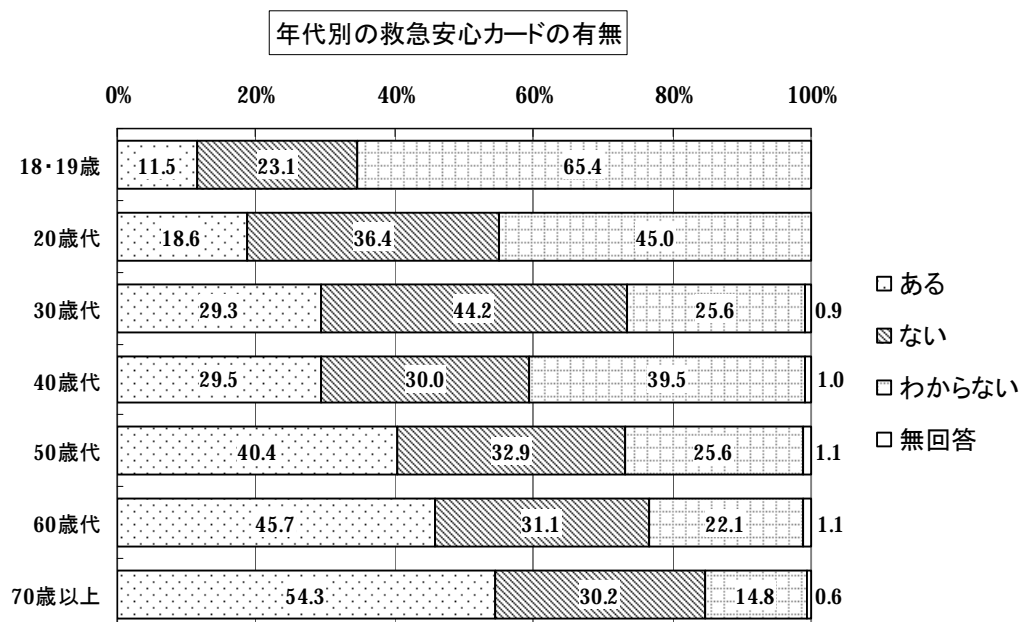
「救急安心カード」については、「ある」が37.5%、「ない」が33.8%、「わからない」が27.9%となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
ある	530	37.5	37.8
ない	478	33.8	34.1
わからない	395	27.9	28.2
無回答	12	0.8	
合計	1,415	100.0	1,403

年代別の所有の有無をみると、“70歳以上”の所有率が最も高く、54.3%が「ある」と回答しています。

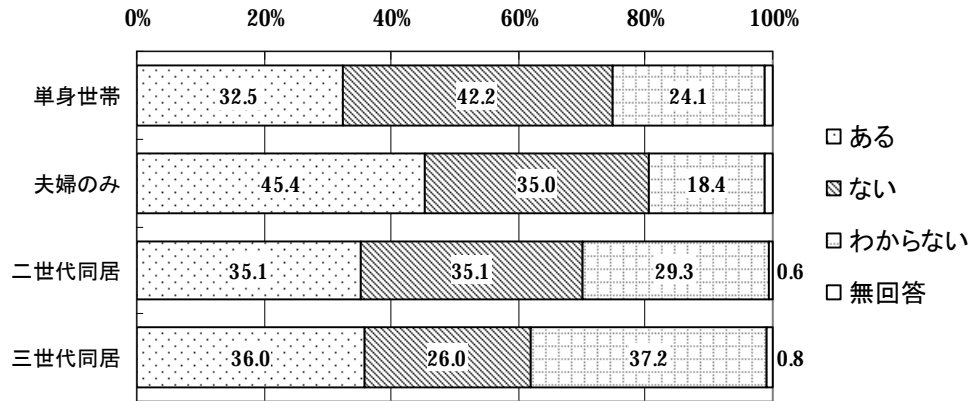
また、年代が下がるにつれて、所有率が低くなっています。



次に、家族構成別の所有率をみると、“夫婦のみ世帯”の所有率が45.4%を占め最も高いものの、所有していない人も35.0%を占めています。

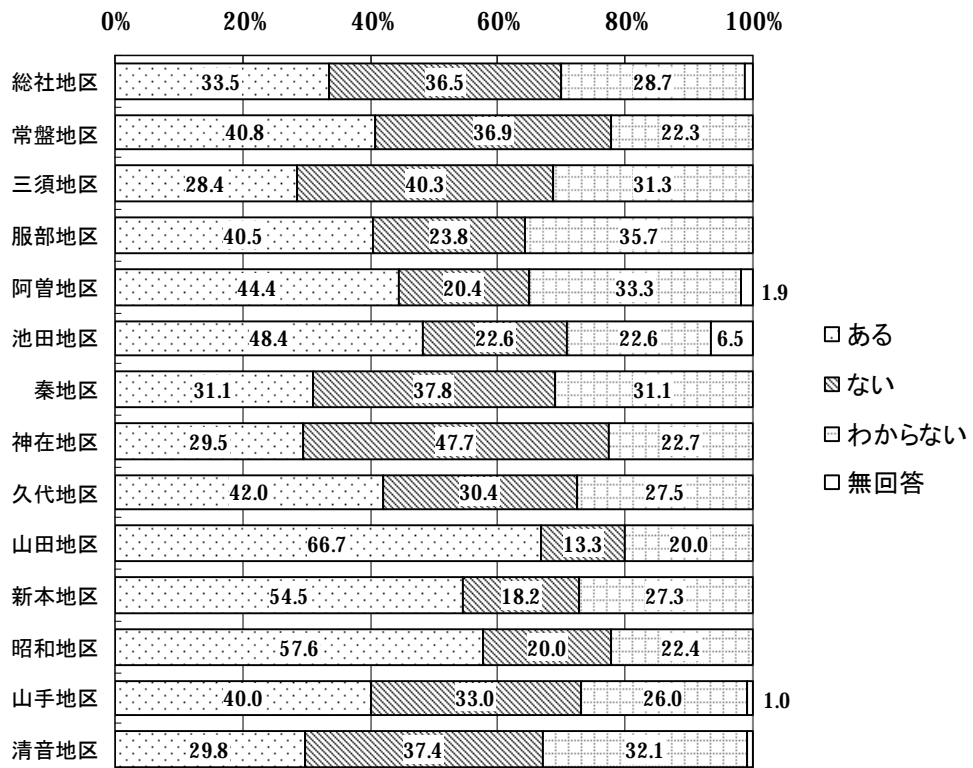
また、“単身世帯”においては、所有している人よりも所有していない人の割合のほうが高くなっています。

家族構成別の救急安心カードの有無



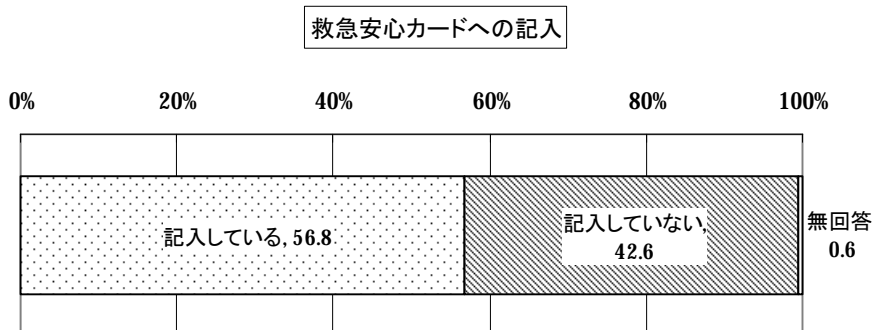
地区別の所有率では、“山田地区”が66.7%で最も高く、“三須地区”が28.4%で最も低くなっています。

地区別の救急安心カードの有無



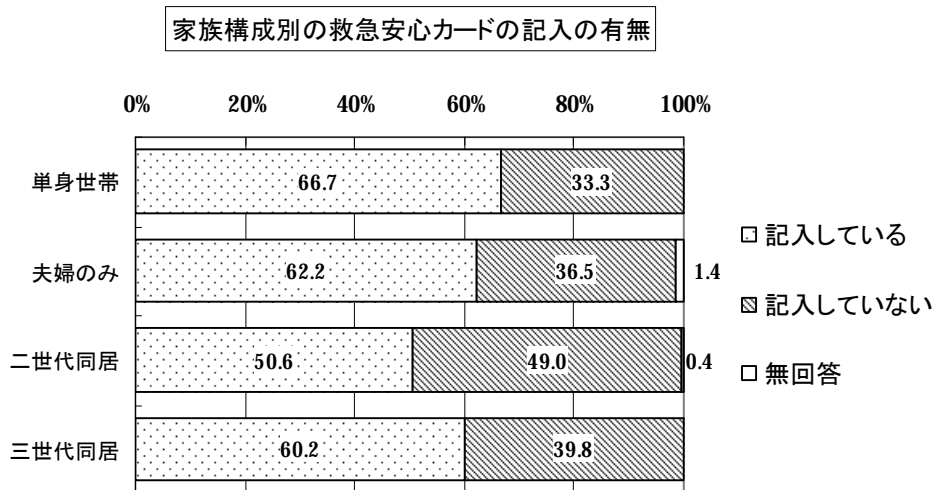
② 「救急安心カード」への記入

「救急安心カード」を所有している人のうち、カードへの記入については、「記入している」が56.8%、「記入していない」が42.6%となっています。

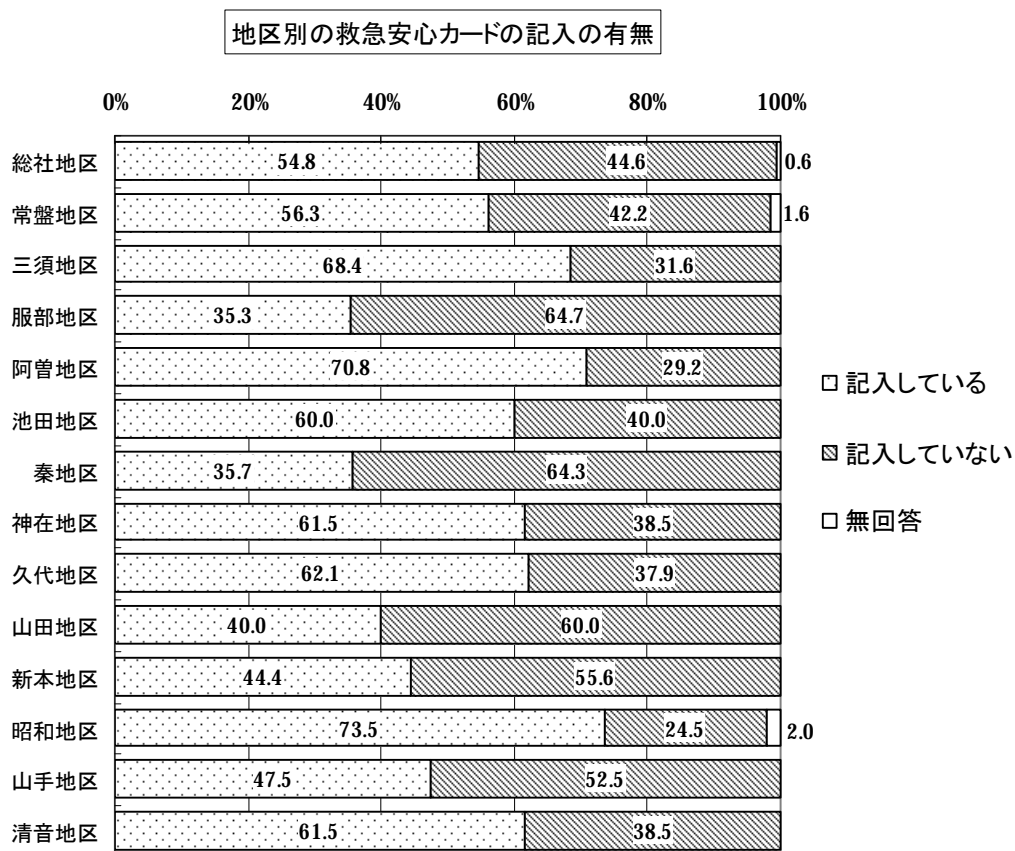


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
記入している	301	56.8	57.1
記入していない	226	42.6	42.9
無回答	3	0.6	
合計	530	100.0	527

家族構成別の記入の有無をみると、いずれの世帯も半数以上が記入しています。



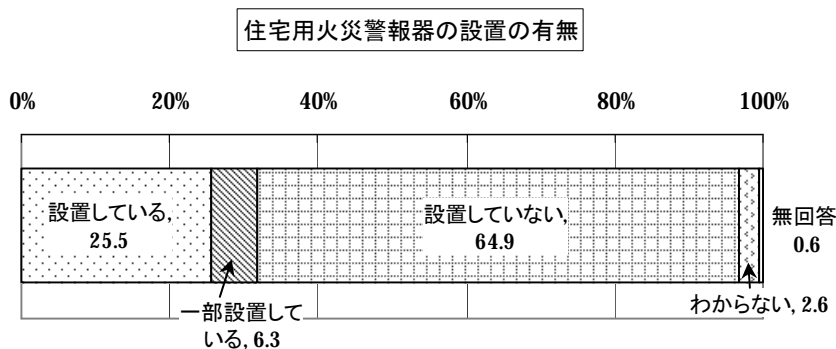
地区別の記入状況では、“阿曾地区”、“昭和地区”で70%以上が記入している状況にある一方で、“服部地区”、“秦地区”では30%台にとどまっており、地区間で記入状況に相違がみられます。



(7) 「住宅用火災警報器」の設置について

① 住宅用火災警報器の設置の有無

住宅用火災警報器の設置については、「設置している」が25.5%、「一部設置している」が6.3%、「設置していない」が64.9%となっています。



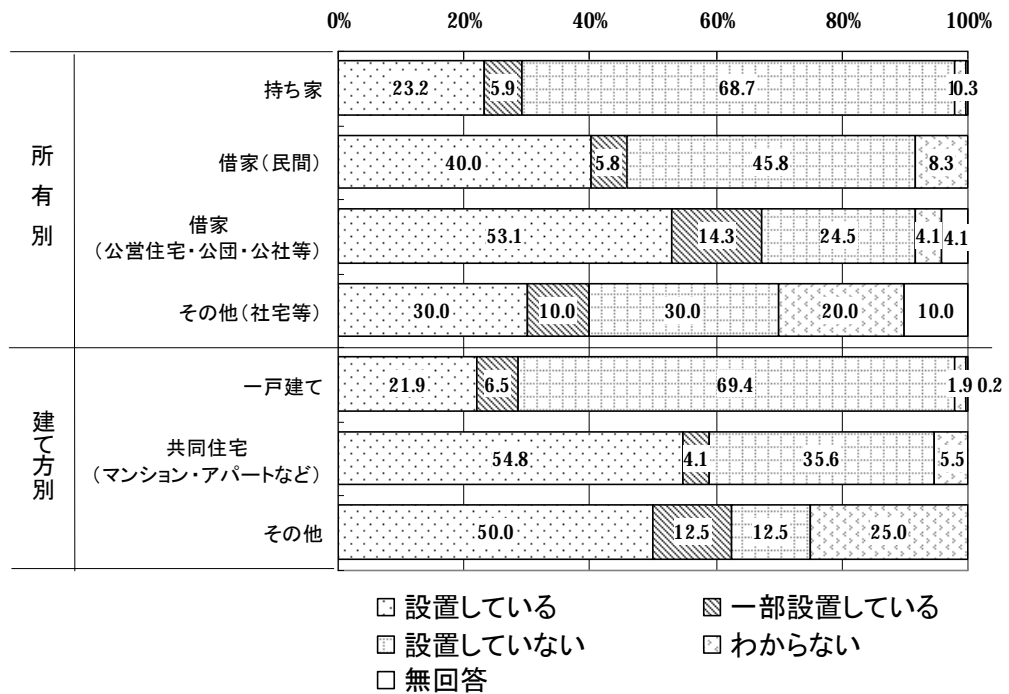
Ⅲ アンケートの集計結果

回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
設置している	361	25.5	25.7
一部設置している	89	6.3	6.3
設置していない	919	64.9	65.4
わからない	37	2.6	2.6
無回答	9	0.6	
合計	1,415	100.0	1,406

また、住宅の所有別の設置状況をみると、“持ち家”の設置率は29.1%にとどまっており、“借家”の設置率のほうが高くなっています。

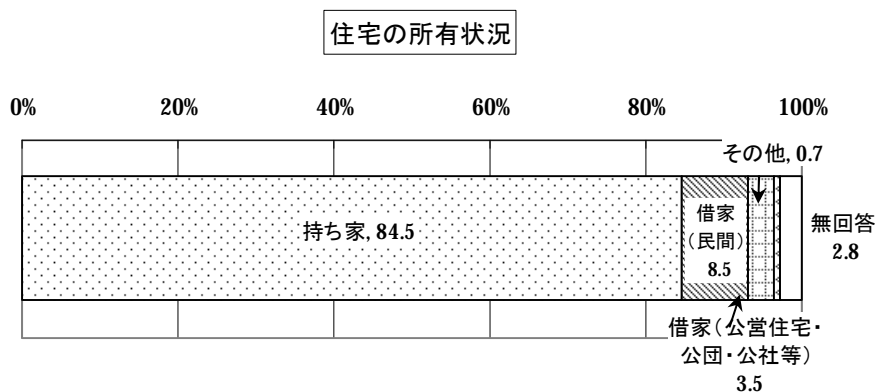
一方、住宅の建て方別の設置状況では、“一戸建て”の設置率は28.4%であるのに対し、“共同住宅”の設置率は58.9%と、倍以上の設置率となっています。

住宅の所有別・建て方別の住宅用火災警報器の設置の有無



② 住宅の所有状況

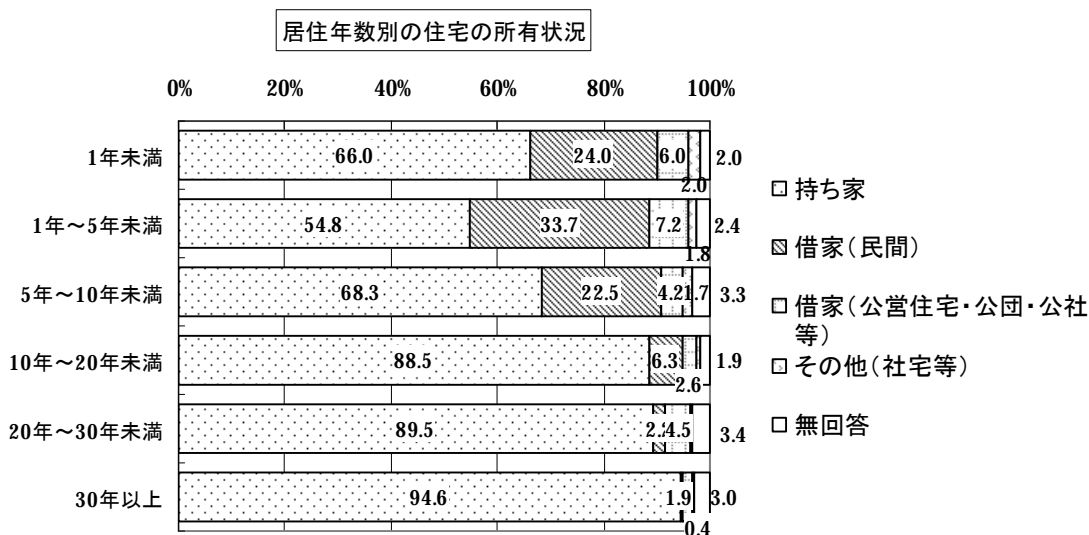
住宅の所有状況については、「持ち家」が84.5%と圧倒的に高い割合を占めています。



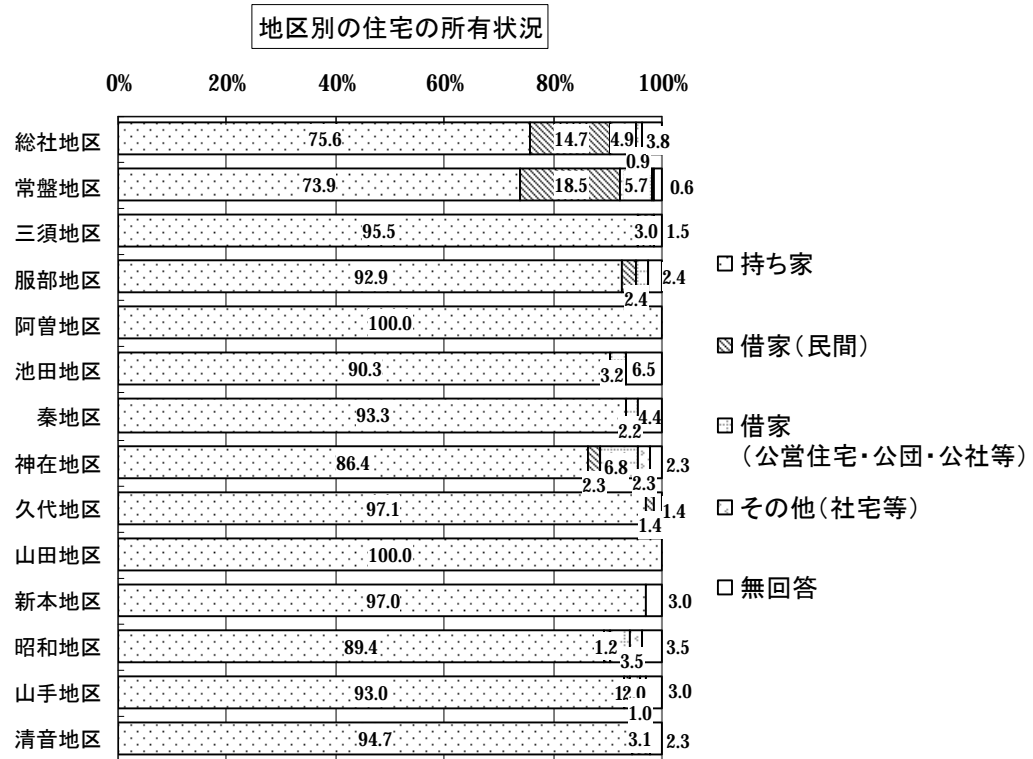
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
持ち家	1,196	84.5	87.0
借家(民間)	120	8.5	8.7
借家(公営住宅・公団住宅・公社住宅など)	49	3.5	3.6
その他(社宅など)	10	0.7	0.7
無回答	40	2.8	
合計	1,415	100.0	1,375

また、居住年数別の所有状況をみると、持ち家率は、居住年数が10年以上において90～95%と高い割合を示しています。

また、居住年数が1年未満の持ち家率は66%となっています。

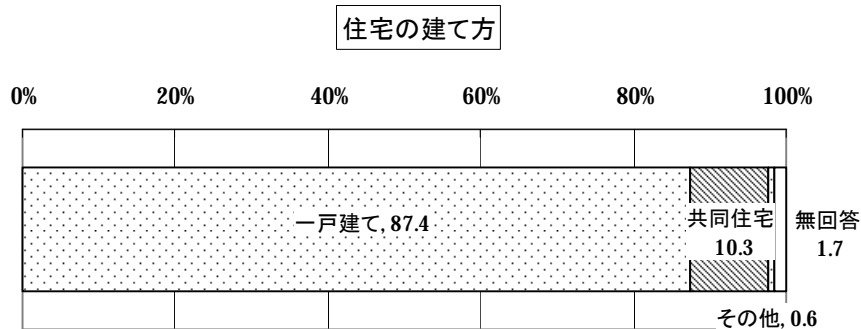


地区別の所有状況では、持ち家率は、“総社地区”と“常盤地区”が70%台である以外は、90～100%台を示しています。



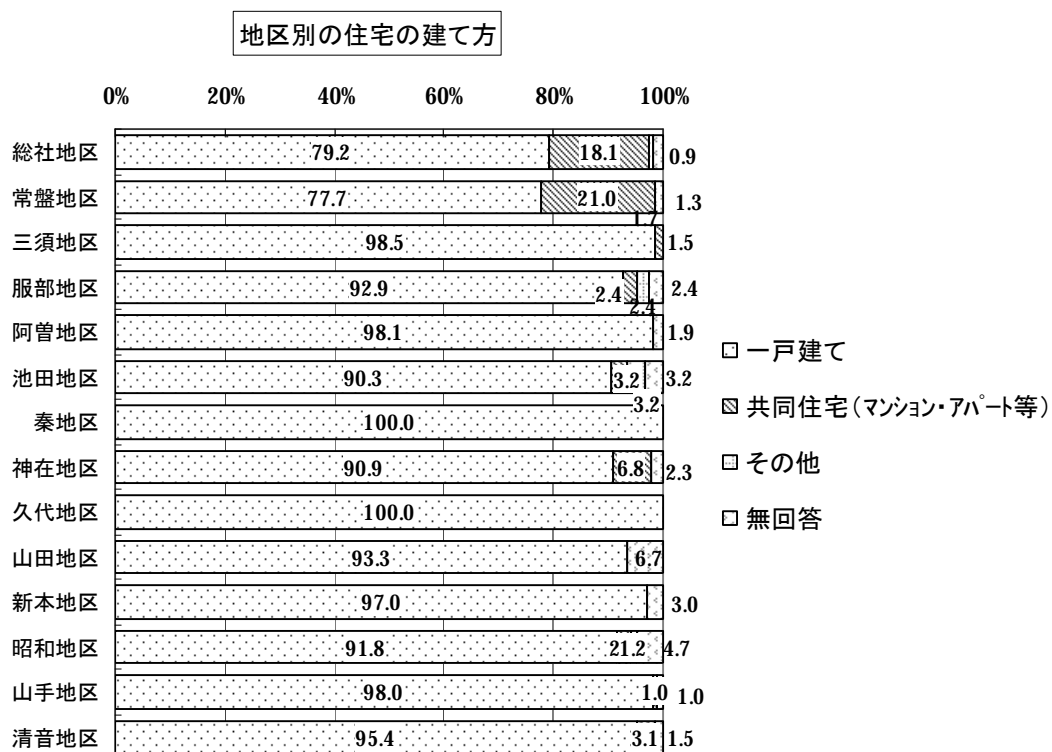
② 住宅の建て方の状況

住宅の建て方については、「一戸建て」が87.4%を占め、圧倒的に高い割合を示しています。



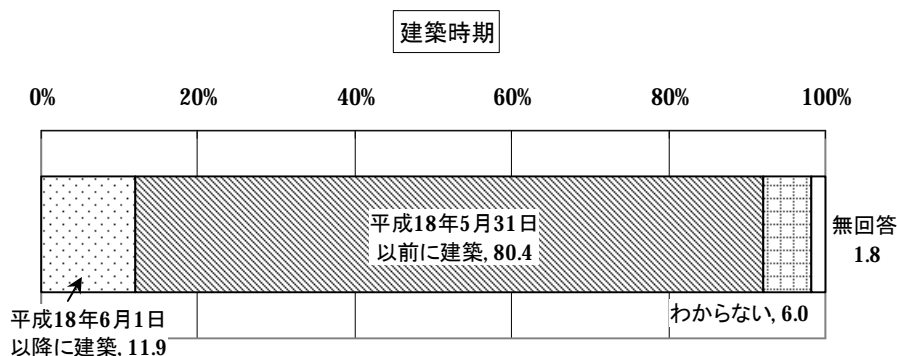
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除いた構成比 (%)
一戸建て	1,237	87.4	88.9
共同住宅(マンション・アパートなど)	146	10.3	10.5
その他	8	0.6	0.6
無回答	24	1.7	
合計	1,415	100.0	1,391

また、地区別の住宅の建て方をみると、一戸建ては、“総社地区”、“常盤地区”が70%台である以外は90~100%台を示しています。



③ 建築時期

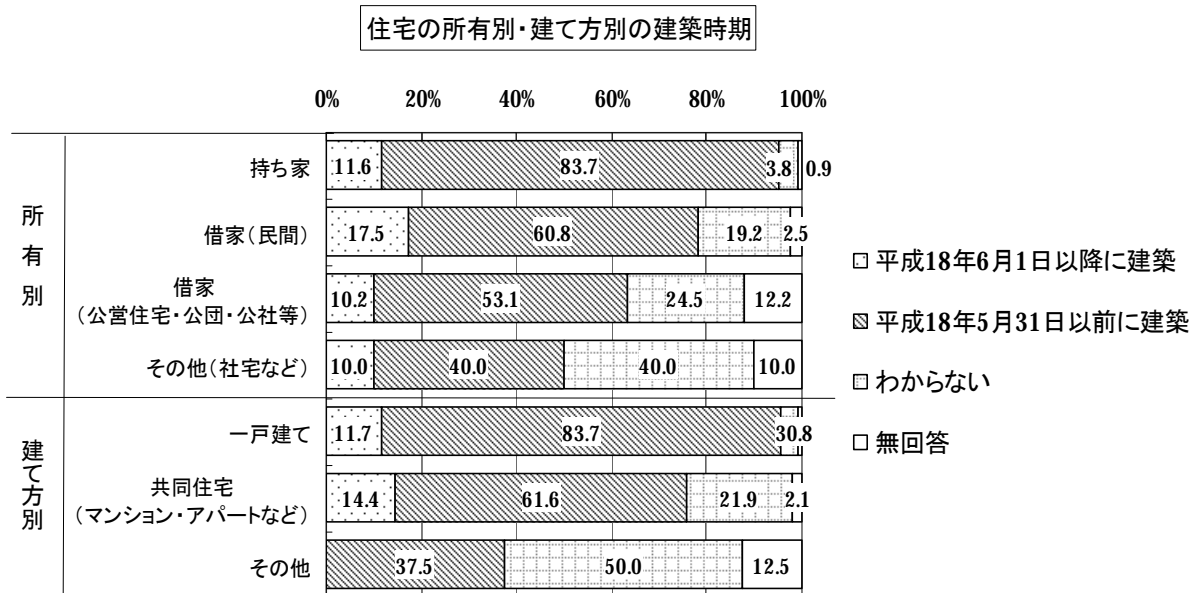
自宅の建築時期は、「平成18年6月1日以降に建築」が11.9%、「平成18年5月31日以前に建築」が80.4%、「わからない」が6.0%となっており、「平成18年5月31日以前に建築」が圧倒的に高い割合を示しています。



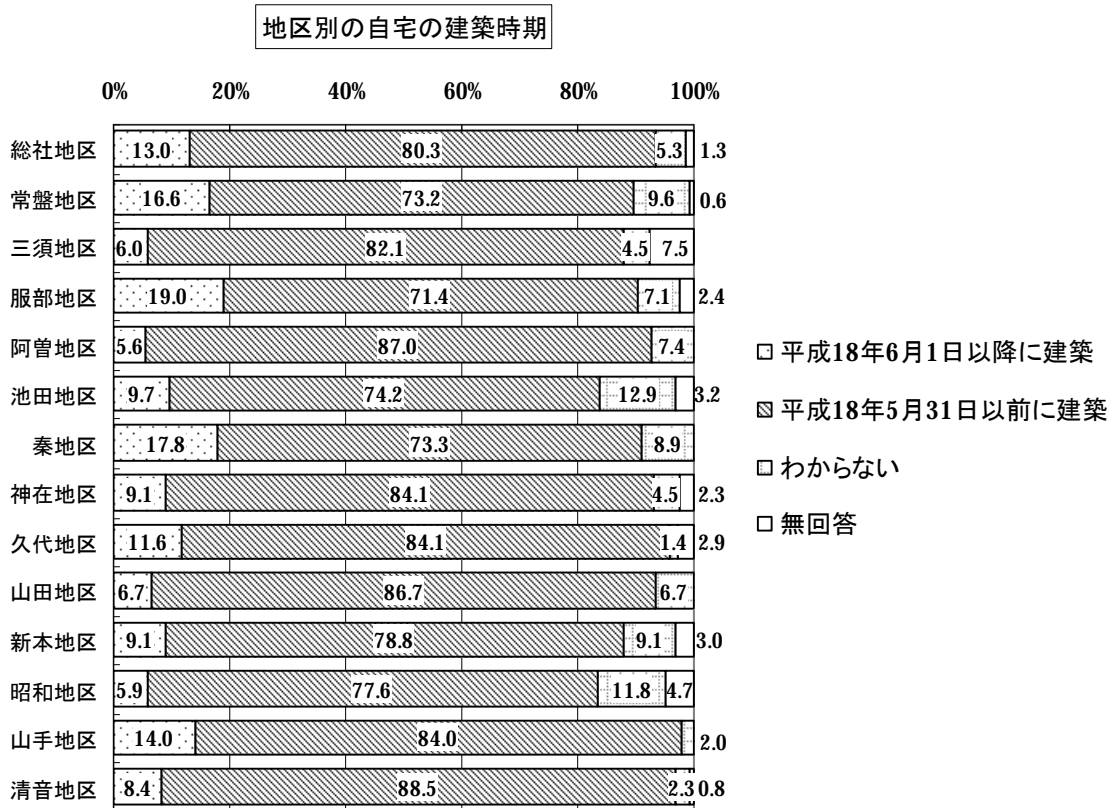
回答項目	回答数	構成比(%)	無回答を除いた構成比(%)
平成18年6月1日以降に建築	168	11.9	12.1
平成18年5月31日以前に建築	1,137	80.4	81.8
わからない	85	6.0	6.1
無回答	25	1.8	
合計	1,415	100.0	1,390

Ⅲ アンケートの集計結果

また、住宅の所有別・建て方別の建築時期については、下のグラフに示すように、いずれも「平成18年5月31日以前に建築」が圧倒的に高い割合を示しています。



地区別の自宅の建築時期では、いずれの地区においても「平成18年5月31日以前に建築」の占める割合が圧倒的に高い割合を示しています。



5. 生活環境や行政サービスの満足度・重要度について

(1) 生活環境や行政サービスの満足度について

「健康・医療・福祉」分野や「教育・文化・スポーツ」分野、「産業」分野等の各施策項目に関する満足度の回答結果は、以下のようになっています。

	上段・実数 下段：%	満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
1 健康・医療・福祉	保健・医療	53 (3.7)	525 (37.1)	423 (29.9)	243 (17.2)	133 (9.4)	38 (2.7)	1,415 (100.0)
	地域福祉	30 (2.1)	324 (22.9)	783 (55.3)	163 (11.5)	47 (3.3)	68 (4.8)	1,415 (100.0)
	高齢者福祉	24 (1.7)	251 (17.7)	742 (52.4)	244 (17.2)	106 (7.5)	48 (3.4)	1,415 (100.0)
	障がい者福祉	24 (1.7)	151 (10.7)	898 (63.5)	198 (14.0)	72 (5.1)	72 (5.1)	1,415 (100.0)
	子育て支援	43 (3.0)	392 (27.7)	688 (48.6)	162 (11.4)	53 (3.7)	77 (5.4)	1,415 (100.0)
	社会保障	33 (2.3)	262 (18.5)	813 (57.5)	156 (11.0)	77 (5.4)	74 (5.2)	1,415 (100.0)
2 教育・文化・スポーツ	生涯学習	42 (3.0)	364 (25.7)	785 (55.5)	131 (9.3)	31 (2.2)	62 (4.4)	1,415 (100.0)
	学校教育・幼児教育	37 (2.6)	369 (26.1)	719 (50.8)	157 (11.1)	40 (2.8)	93 (6.6)	1,415 (100.0)
	青少年の健全育成	21 (1.5)	229 (16.2)	933 (65.9)	125 (8.8)	25 (1.8)	82 (5.8)	1,415 (100.0)
	スポーツ・レクリエーション	66 (4.7)	436 (30.8)	702 (49.6)	104 (7.3)	35 (2.5)	72 (5.1)	1,415 (100.0)
	芸術・文化	37 (2.6)	307 (21.7)	800 (56.5)	141 (10.0)	58 (4.1)	72 (5.1)	1,415 (100.0)
	文化財	50 (3.5)	376 (26.6)	716 (50.6)	162 (11.4)	50 (3.5)	61 (4.3)	1,415 (100.0)
	人権意識	40 (2.8)	240 (17.0)	918 (64.9)	119 (8.4)	32 (2.3)	66 (4.7)	1,415 (100.0)
3 快適環境	自然環境・歴史的景観	99 (7.0)	622 (44.0)	480 (33.9)	115 (8.1)	41 (2.9)	58 (4.1)	1,415 (100.0)
	住宅	63 (4.5)	350 (24.7)	764 (54.0)	99 (7.0)	44 (3.1)	95 (6.7)	1,415 (100.0)
	上水道・水資源	221 (15.6)	684 (48.3)	319 (22.5)	97 (6.9)	32 (2.3)	62 (4.4)	1,415 (100.0)
	下水道	205 (14.5)	490 (34.6)	356 (25.2)	172 (12.2)	138 (9.8)	54 (3.8)	1,415 (100.0)
	公園・緑地	86 (6.1)	436 (30.8)	556 (39.3)	202 (14.3)	72 (5.1)	63 (4.5)	1,415 (100.0)
	資源循環型社会	91 (6.4)	514 (36.3)	518 (36.6)	161 (11.4)	71 (5.0)	60 (4.2)	1,415 (100.0)
	環境保全	40 (2.8)	364 (25.7)	760 (53.7)	143 (10.1)	36 (2.5)	72 (5.1)	1,415 (100.0)
4 都市基盤、安全・安心	土地利用・市街地整備	30 (2.1)	267 (18.9)	770 (54.4)	193 (13.6)	78 (5.5)	77 (5.4)	1,415 (100.0)
	道路・交通網	58 (4.1)	374 (26.4)	506 (35.8)	285 (20.1)	119 (8.4)	73 (5.2)	1,415 (100.0)
	情報通信	77 (5.4)	369 (26.1)	668 (47.2)	161 (11.4)	73 (5.2)	67 (4.7)	1,415 (100.0)
	治山・治水・砂防	47 (3.3)	338 (23.9)	806 (57.0)	119 (8.4)	39 (2.8)	66 (4.7)	1,415 (100.0)
	消防・防災など	66 (4.7)	494 (34.9)	666 (47.1)	93 (6.6)	27 (1.9)	69 (4.9)	1,415 (100.0)
	防犯・交通安全	46 (3.3)	370 (26.1)	710 (50.2)	166 (11.7)	59 (4.2)	64 (4.5)	1,415 (100.0)
	辺地対策	26 (1.8)	147 (10.4)	912 (64.5)	187 (13.2)	77 (5.4)	66 (4.7)	1,415 (100.0)

Ⅲ アンケートの集計結果

上段・実数 下段：%		満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
5 産 業	農林業	33 (2.3)	325 (23.0)	823 (58.2)	115 (8.1)	38 (2.7)	81 (5.7)	1,415 (100.0)
	商業	12 (0.8)	145 (10.2)	934 (66.0)	161 (11.4)	57 (4.0)	106 (7.5)	1,415 (100.0)
	工業	15 (1.1)	198 (14.0)	896 (63.3)	155 (11.0)	46 (3.3)	105 (7.4)	1,415 (100.0)
	観光	24 (1.7)	243 (17.2)	759 (53.6)	243 (17.2)	59 (4.2)	87 (6.1)	1,415 (100.0)
	勤労者福祉・雇用対策	12 (0.8)	108 (7.6)	828 (58.5)	280 (19.8)	90 (6.4)	97 (6.9)	1,415 (100.0)
	消費者対策	15 (1.1)	150 (10.6)	958 (67.7)	148 (10.5)	47 (3.3)	97 (6.9)	1,415 (100.0)
6 市民 参 画	市民のまちづくり意識	15 (1.1)	190 (13.4)	982 (69.4)	111 (7.8)	31 (2.2)	86 (6.1)	1,415 (100.0)
	地域コミュニティ	26 (1.8)	270 (19.1)	876 (61.9)	116 (8.2)	29 (2.0)	98 (6.9)	1,415 (100.0)
	ボランティア	24 (1.7)	199 (14.1)	954 (67.4)	110 (7.8)	40 (2.8)	88 (6.2)	1,415 (100.0)
	男女共同参画社会	27 (1.9)	154 (10.9)	1055 (74.6)	66 (4.7)	26 (1.8)	87 (6.1)	1,415 (100.0)
	ふれあい交流	19 (1.3)	162 (11.4)	1052 (74.3)	78 (5.5)	19 (1.3)	85 (6.0)	1,415 (100.0)
	岡山県立大学との交流	27 (1.9)	189 (13.4)	1020 (72.1)	76 (5.4)	19 (1.3)	84 (5.9)	1,415 (100.0)
7 行 財 政	市民参加の推進	50 (3.5)	294 (20.8)	818 (57.8)	132 (9.3)	43 (3.0)	78 (5.5)	1,415 (100.0)
	行政改革の推進	32 (2.3)	189 (13.4)	820 (58.0)	201 (14.2)	91 (6.4)	82 (5.8)	1,415 (100.0)
	自立した財政運営の推進	21 (1.5)	133 (9.4)	911 (64.4)	183 (12.9)	72 (5.1)	95 (6.7)	1,415 (100.0)
	広域連携の推進	19 (1.3)	143 (10.1)	986 (69.7)	132 (9.3)	42 (3.0)	93 (6.6)	1,415 (100.0)

満足度の指標化

上記の回答結果をもとに、各項目の満足度について設問間の差や全体の水準を図るため、重みづけを行い指標化しました。重みづけの評点については、以下の方法で計算しています。

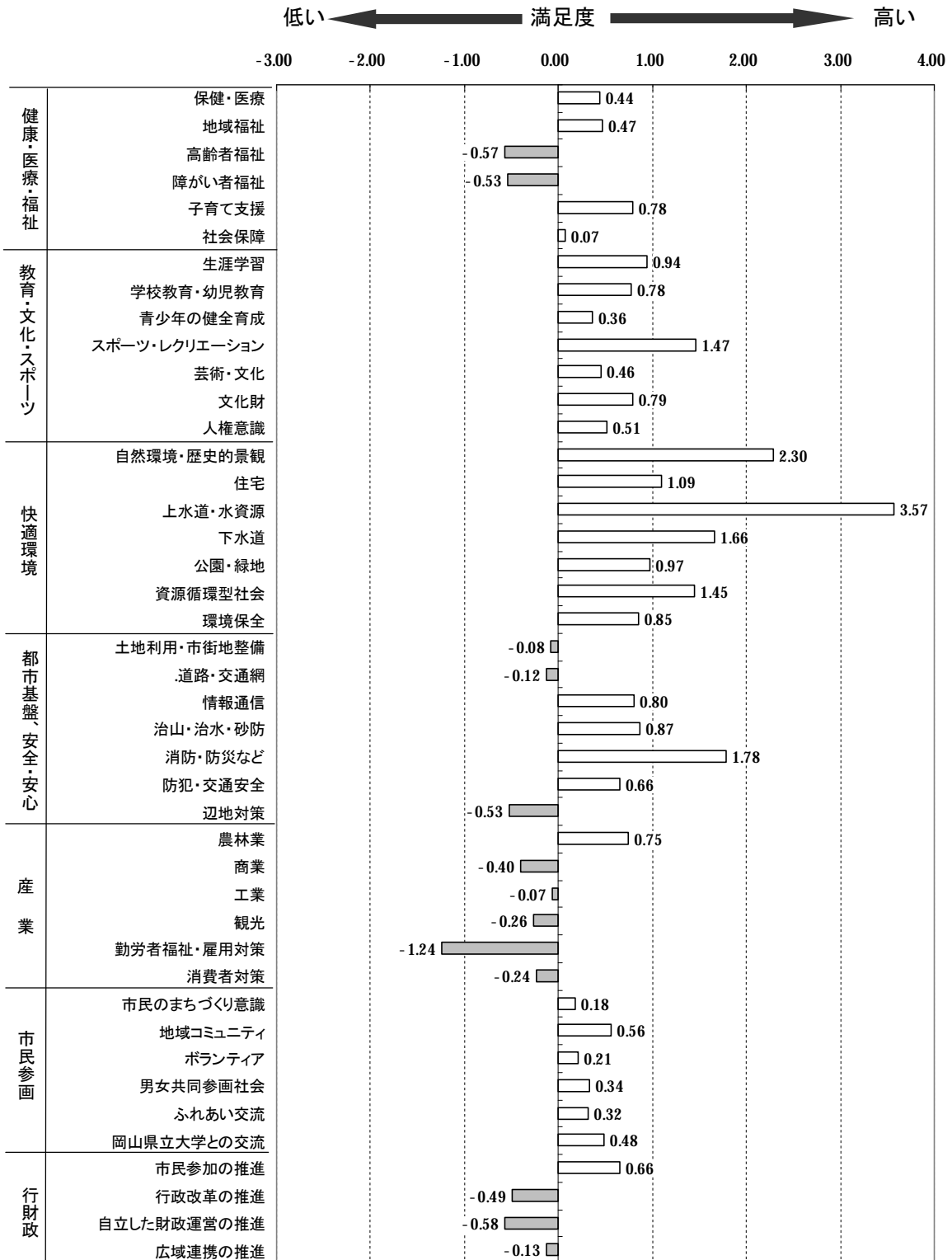
◆ 「満足度」の指標化について

・ 「満足」の回答数	× 10点	} $\frac{\text{合計}}{\text{「無回答」を除く回答数}}$
・ 「まあ満足」の回答数	× 5点	
・ 「どちらともいえない」の回答数	× 0点	
・ 「やや不満」の回答数	× -5点	
・ 「不満」の回答数	× -10点	

したがって、満足度指数は上限「10」（満足）、下限「-10」（不満）で、中間値は「0」となります。

前ページの計算により、各項目の満足度を算出すると、下のグラフに示すように、最も満足度が高い項目は「上水道・水資源」の3.57点で、次いで「自然環境・歴史的環境」、「消防・防災など」が上位3項目となっています。

一方、最も満足度が低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」の-1.24点で、次いで「自立した財政運営の推進」、「高齢者福祉」が下位3項目となっています。



(2) 生活環境や行政サービスの今後の重要度について

「健康・医療・福祉」分野や「教育・文化・スポーツ」分野、「産業」分野等の各施策項目に関する今後の重要度の回答結果は、以下のようになっています。

	上段・実数 下段：%	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	無回答	合計
1 健康・医療・福祉	保健・医療	804 (56.8)	382 (27.0)	144 (10.2)	10 (0.7)	4 (0.3)	71 (5.0)	1,415 (100.0)
	地域福祉	504 (35.6)	503 (35.5)	291 (20.6)	9 (0.6)	8 (0.6)	100 (7.1)	1,415 (100.0)
	高齢者福祉	743 (52.5)	395 (27.9)	175 (12.4)	16 (1.1)	5 (0.4)	81 (5.7)	1,415 (100.0)
	障がい者福祉	552 (39.0)	414 (29.3)	332 (23.5)	17 (1.2)	3 (0.2)	97 (6.9)	1,415 (100.0)
	子育て支援	657 (46.4)	391 (27.6)	243 (17.2)	20 (1.4)	9 (0.6)	95 (6.7)	1,415 (100.0)
	社会保障	557 (39.4)	398 (28.1)	344 (24.3)	16 (1.1)	15 (1.1)	85 (6.0)	1,415 (100.0)
2 教育・文化・スポーツ	生涯学習	208 (14.7)	501 (35.4)	553 (39.1)	41 (2.9)	15 (1.1)	97 (6.9)	1,415 (100.0)
	学校教育・幼児教育	522 (36.9)	439 (31.0)	325 (23.0)	13 (0.9)	5 (0.4)	111 (7.8)	1,415 (100.0)
	青少年の健全育成	366 (25.9)	426 (30.1)	476 (33.6)	31 (2.2)	10 (0.7)	106 (7.5)	1,415 (100.0)
	スポーツ・レクリエーション	179 (12.7)	472 (33.4)	560 (39.6)	76 (5.4)	26 (1.8)	102 (7.2)	1,415 (100.0)
	芸術・文化	181 (12.8)	416 (29.4)	625 (44.2)	65 (4.6)	28 (2.0)	100 (7.1)	1,415 (100.0)
	文化財	268 (18.9)	493 (34.8)	497 (35.1)	53 (3.7)	17 (1.2)	87 (6.1)	1,415 (100.0)
	人権意識	324 (22.9)	403 (28.5)	553 (39.1)	31 (2.2)	18 (1.3)	86 (6.1)	1,415 (100.0)
	自然環境・歴史的景観	389 (27.5)	568 (40.1)	332 (23.5)	30 (2.1)	3 (0.2)	93 (6.6)	1,415 (100.0)
3 快適環境	住宅	215 (15.2)	410 (29.0)	583 (41.2)	56 (4.0)	14 (1.0)	137 (9.7)	1,415 (100.0)
	上水道・水資源	562 (39.7)	458 (32.4)	253 (17.9)	23 (1.6)	10 (0.7)	109 (7.7)	1,415 (100.0)
	下水道	575 (40.6)	458 (32.4)	250 (17.7)	19 (1.3)	16 (1.1)	97 (6.9)	1,415 (100.0)
	公園・緑地	266 (18.8)	559 (39.5)	407 (28.8)	58 (4.1)	26 (1.8)	99 (7.0)	1,415 (100.0)
	資源循環型社会	515 (36.4)	535 (37.8)	237 (16.7)	20 (1.4)	8 (0.6)	100 (7.1)	1,415 (100.0)
	環境保全	450 (31.8)	493 (34.8)	354 (25.0)	15 (1.1)	3 (0.2)	100 (7.1)	1,415 (100.0)
	土地利用・市街地整備	258 (18.2)	474 (33.5)	526 (37.2)	41 (2.9)	13 (0.9)	103 (7.3)	1,415 (100.0)
4 都市基盤、安全・安心	道路・交通網	356 (25.2)	523 (37.0)	367 (25.9)	38 (2.7)	24 (1.7)	107 (7.6)	1,415 (100.0)
	情報通信	265 (18.7)	453 (32.0)	518 (36.6)	57 (4.0)	24 (1.7)	98 (6.9)	1,415 (100.0)
	治山・治水・砂防	370 (26.1)	461 (32.6)	442 (31.2)	35 (2.5)	12 (0.8)	95 (6.7)	1,415 (100.0)
	消防・防災など	530 (37.5)	491 (34.7)	296 (20.9)	9 (0.6)	1 (0.1)	88 (6.2)	1,415 (100.0)
	防犯・交通安全	516 (36.5)	506 (35.8)	292 (20.6)	11 (0.8)	5 (0.4)	85 (6.0)	1,415 (100.0)
	辺地対策	296 (20.9)	434 (30.7)	547 (38.7)	36 (2.5)	14 (1.0)	88 (6.2)	1,415 (100.0)

上段・実数 下段：%		重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	無回答	合計
5 産 業	農林業	341 (24.1)	500 (35.3)	444 (31.4)	12 (0.8)	6 (0.4)	112 (7.9)	1,415 (100.0)
	商業	211 (14.9)	429 (30.3)	601 (42.5)	27 (1.9)	9 (0.6)	138 (9.8)	1,415 (100.0)
	工業	260 (18.4)	460 (32.5)	520 (36.7)	29 (2.0)	10 (0.7)	136 (9.6)	1,415 (100.0)
	観光	284 (20.1)	512 (36.2)	435 (30.7)	47 (3.3)	13 (0.9)	124 (8.8)	1,415 (100.0)
	勤労者福祉・雇用対策	445 (31.4)	498 (35.2)	333 (23.5)	9 (0.6)	6 (0.4)	124 (8.8)	1,415 (100.0)
	消費者対策	293 (20.7)	441 (31.2)	523 (37.0)	30 (2.1)	4 (0.3)	124 (8.8)	1,415 (100.0)
6 市民 参 画	市民のまちづくり意識	159 (11.2)	436 (30.8)	630 (44.5)	57 (4.0)	21 (1.5)	112 (7.9)	1,415 (100.0)
	地域コミュニティ	181 (12.8)	468 (33.1)	580 (41.0)	49 (3.5)	18 (1.3)	119 (8.4)	1,415 (100.0)
	ボランティア	207 (14.6)	441 (31.2)	582 (41.1)	51 (3.6)	18 (1.3)	116 (8.2)	1,415 (100.0)
	男女共同参画社会	130 (9.2)	318 (22.5)	751 (53.1)	62 (4.4)	33 (2.3)	121 (8.6)	1,415 (100.0)
	ふれあい交流	109 (7.7)	388 (27.4)	707 (50.0)	66 (4.7)	33 (2.3)	112 (7.9)	1,415 (100.0)
	岡山県立大学との交流	121 (8.6)	313 (22.1)	724 (51.2)	102 (7.2)	42 (3.0)	113 (8.0)	1,415 (100.0)
7 行 財 政	市民参加の推進	316 (22.3)	494 (34.9)	468 (33.1)	20 (1.4)	7 (0.5)	110 (7.8)	1,415 (100.0)
	行政改革の推進	415 (29.3)	445 (31.4)	426 (30.1)	11 (0.8)	8 (0.6)	110 (7.8)	1,415 (100.0)
	自立した財政運営の推進	440 (31.1)	392 (27.7)	454 (32.1)	8 (0.6)	3 (0.2)	118 (8.3)	1,415 (100.0)
	広域連携の推進	275 (19.4)	427 (30.2)	567 (40.1)	24 (1.7)	6 (0.4)	116 (8.2)	1,415 (100.0)

重要度の指標化

上記の回答結果をもとに、各項目の重要度について設問間の差や全体の水準を図るため、重みづけを行い指標化しました。重みづけの評点については、以下の方法で計算しています。

◆「重要度」の指標化について

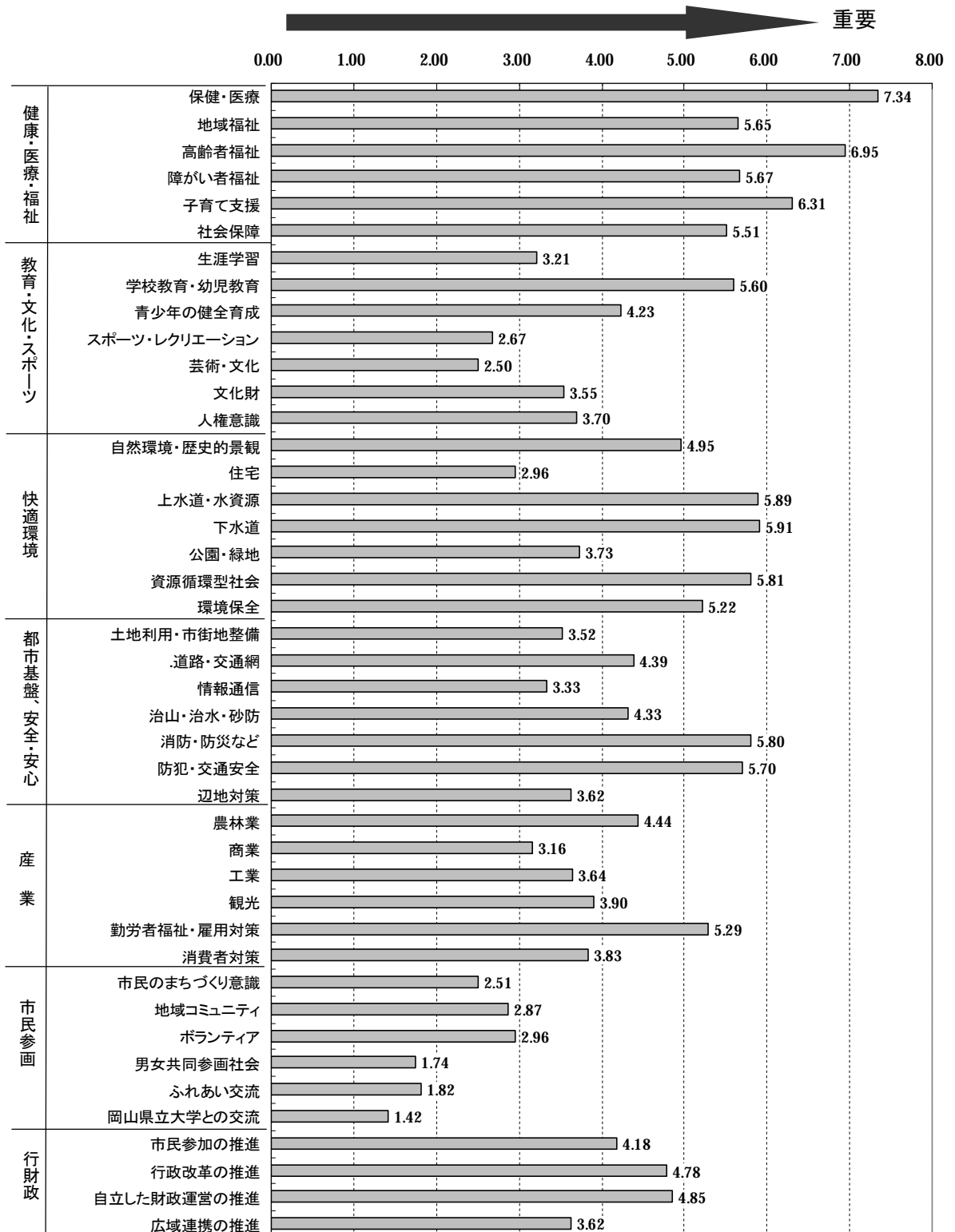
・「重要」の回答数	×	10点	} 合計 「無回答」を除く回答数
・「やや重要」の回答数	×	5点	
・「どちらともいえない」の回答数	×	0点	
・「あまり重要でない」の回答数	×	-5点	
・「重要でない」の回答数	×	-10点	

したがって、重要度指数は上限「10」（重要）、下限「-10」（重要でない）で、中間値は「0」となります。

Ⅲ アンケートの集計結果

前ページの計算により、各項目の重要度を算出すると、下のグラフに示すように、最も重要度が高い項目は「保健・医療」の7.34点で、次いで「高齢者福祉」、「子育て支援」が上位3項目となっています。

一方、最も重要度が低い項目は「岡山県立大学との交流」の1.42点で、次いで「男女共同参画社会」、「ふれあい交流」が下位3項目となっています。

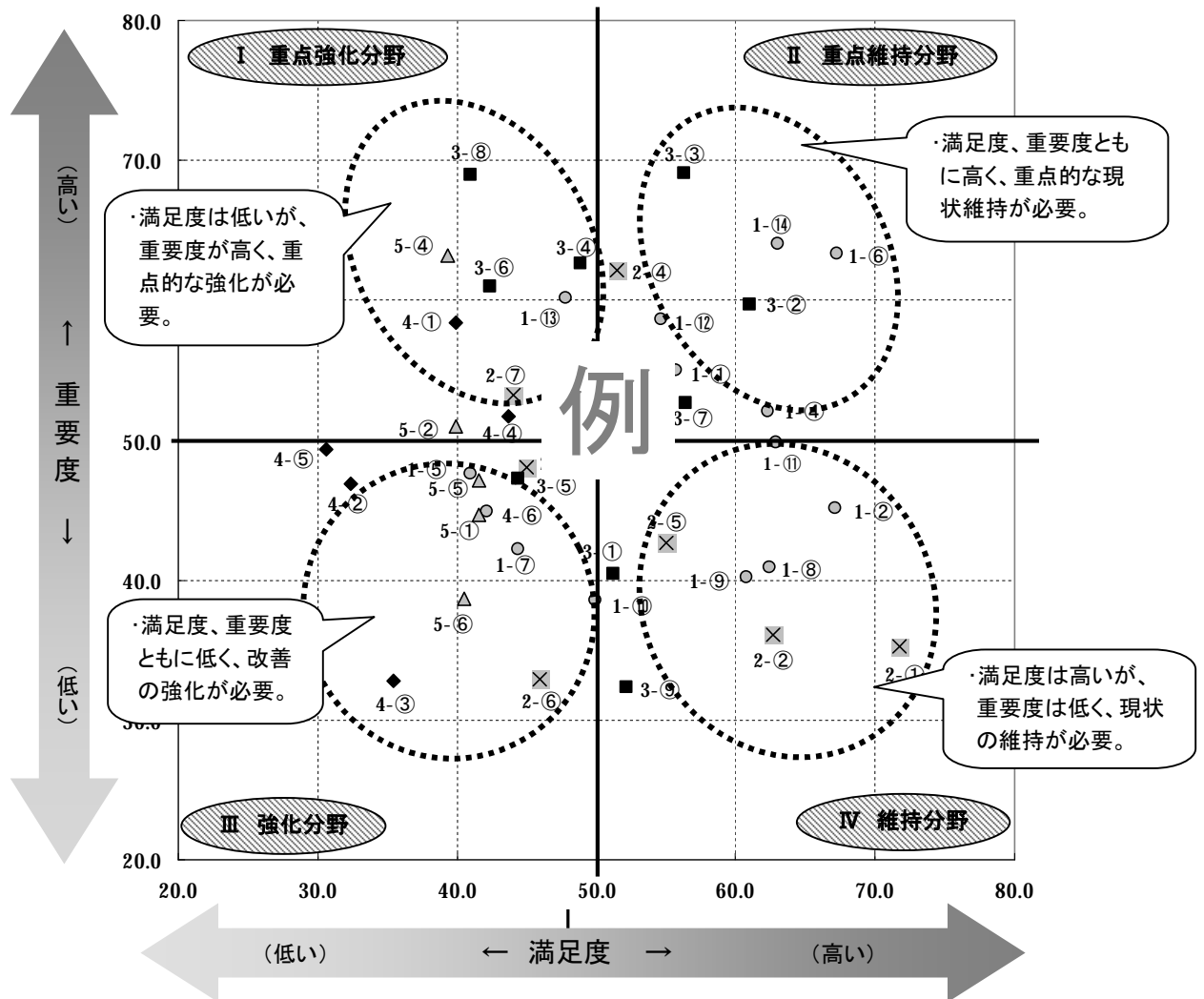


(3) 満足度と重要度の相関

今回、生活環境・行政サービスの満足度と重要度を分析するにあたり、項目ごとの満足度と重要度（加重平均値）の相関関係を明確にするために、加重平均値を偏差値に換算し、横軸を満足度、縦軸を重要度として相関図を作成し、分析することとしました。

なお、次のように4つの領域に分類しました。

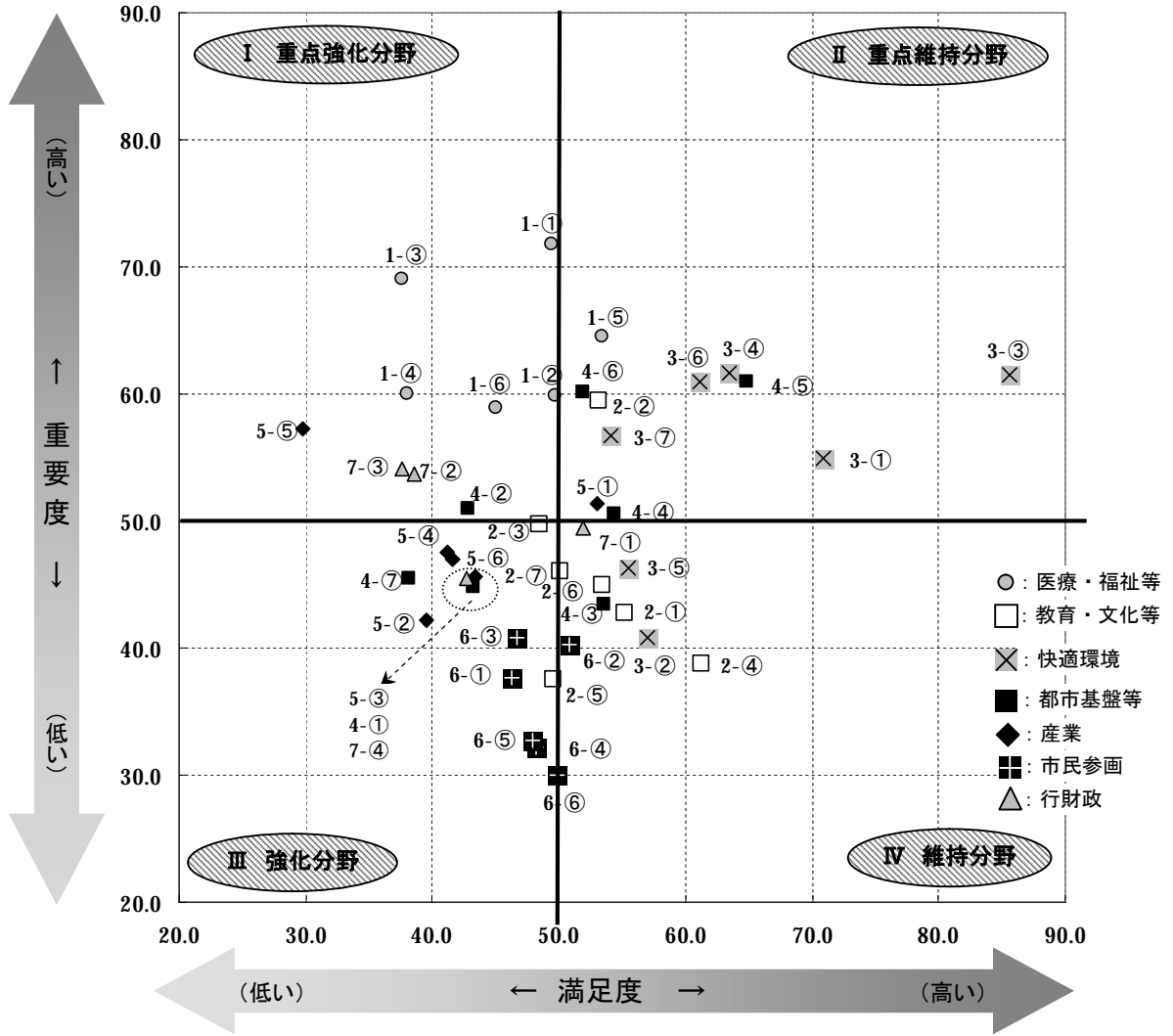
I	満足度が低く、重要度が高い傾向を示す	→ 「重点強化分野」
II	満足度、重要度ともに高い傾向を示す	→ 「重点維持分野」
III	満足度、重要度ともに低い傾向を示す	→ 「強化分野」
IV	満足度が高く、重要度が低い傾向を示す	→ 「維持分野」



この結果をみると、次頁の相関図に示すように、本市では「保健・医療」、「高齢者福祉」、「地域福祉」、「障がい者福祉」等の保健・医療・福祉分野や「勤労者福祉・雇用対策」、「行政改革の推進」、「自立した財政運営の推進」等が重点強化施策と考えられます。

Ⅲ アンケートの集計結果

満足度・重要度評価



■各項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値

項目		満足度	重要度	項目		満足度	重要度
1 医療・福祉等	① 保健・医療	49.4	71.7	4 都市基盤等	① 土地利用・市街地整備	43.3	44.8
	② 地域福祉	49.7	59.8		② 道路・交通網	42.8	50.9
	③ 高齢者福祉	37.6	69.0		③ 情報通信	53.5	43.5
	④ 障がい者福祉	38.1	60.0		④ 治山・治水・砂防	54.4	50.5
	⑤ 子育て支援	53.4	64.5		⑤ 消防・防災など	64.9	60.9
	⑥ 社会保障	45.0	58.8		⑥ 防犯・交通安全	51.9	60.2
2 教育・文化等	① 生涯学習	55.2	42.8		⑦ 辺地対策	38.1	45.5
	② 学校教育・幼児教育	53.1	59.5	5 産業	① 農林業	52.9	51.3
	③ 青少年の健全育成	48.4	49.8		② 商業	39.6	42.2
	④ スポーツ・レクリエーション	61.3	38.8		③ 工業	43.4	45.6
	⑤ 芸術・文化	49.6	37.6		④ 観光	41.2	47.5
	⑥ 文化財	53.4	45.0		⑤ 勤労者福祉・雇用対策	29.8	57.3
	⑦ 人権意識	50.1	46.1		⑥ 消費者対策	41.5	47.0
3 快適環境	① 自然環境・歴史的景観	70.9	54.9		6 市民参画	① 市民のまちづくり意識	46.3
	② 住宅	56.9	40.8	② 地域コミュニティ		50.8	40.2
	③ 上水道・水資源	85.6	61.5	③ ボランティア		46.7	40.8
	④ 下水道	63.5	61.6	④ 男女共同参画社会		48.2	32.2
	⑤ 公園・緑地	55.5	46.3	⑤ ふれあい交流		47.9	32.8
	⑥ 資源循環型社会	61.1	61.0	⑥ 岡山県立大学との交流		49.9	30.0
	⑦ 環境保全	54.1	56.8	7 行財政		① 市民参加の推進	51.9
			② 行政改革の推進		38.6	53.7	
			③ 自立した財政運営の推進		37.6	54.2	
			④ 広域連携の推進		42.7	45.5	

また、「満足度偏差値」と「重要度偏差値」の差を『改善度』と位置づけ、各項目の改善度を算出すると、下表に示すようになり、「保健・医療」、「高齢者福祉」、「障がい者福祉」、「勤労者福祉・雇用対策」について、“とりわけ改善が必要”として挙げられ、前ページと同様の結果となっています。

		満足度偏差値	重要度偏差値	改善度
1 健康・医療・福祉	保健・医療	49.4	71.7	22.3
	地域福祉	49.7	59.8	10.1
	高齢者福祉	37.6	69.0	31.4
	障がい者福祉	38.1	60.0	21.9
	子育て支援	53.4	64.5	11.2
	社会保障	45.0	58.8	13.8
	2 教育・文化・スポーツ	生涯学習	55.2	42.8
学校教育・幼児教育		53.1	59.5	6.4
青少年の健全育成		48.4	49.8	1.4
スポーツ・レクリエーション		61.3	38.8	-22.4
芸術・文化		49.6	37.6	-12.0
文化財		53.4	45.0	-8.4
人権意識		50.1	46.1	-4.1
3 快適環境		自然環境・歴史的景観	70.9	54.9
	住宅	56.9	40.8	-16.1
	上水道・水資源	85.6	61.5	-24.1
	下水道	63.5	61.6	-1.9
	公園・緑地	55.5	46.3	-9.2
	資源循環型社会	61.1	61.0	-0.1
	環境保全	54.1	56.8	2.6
4 都市基盤、安全・安心	土地利用・市街地整備	43.3	44.8	1.5
	道路・交通網	42.8	50.9	8.1
	情報通信	53.5	43.5	-10.1
	治山・治水・砂防	54.4	50.5	-3.9
	消防・防災など	64.9	60.9	-4.0
	防犯・交通安全	51.9	60.2	8.3
	辺地対策	38.1	45.5	7.4
5 産業	農林業	52.9	51.3	-1.6
	商業	39.6	42.2	2.7
	工業	43.4	45.6	2.2
	観光	41.2	47.5	6.3
	勤労者福祉・雇用対策	29.8	57.3	27.5
	消費者対策	41.5	47.0	5.5
6 市民参加	市民のまちづくり意識	46.3	37.7	-8.6
	地域コミュニティ	50.8	40.2	-10.5
	ボランティア	46.7	40.8	-5.9
	男女共同参画社会	48.2	32.2	-16.0
	ふれあい交流	47.9	32.8	-15.1
	岡山県立大学との交流	49.9	30.0	-19.9
7 行財政	市民参加の推進	51.9	49.5	-2.4
	行政改革の推進	38.6	53.7	15.1
	自立した財政運営の推進	37.6	54.2	16.6
	広域連携の推進	42.7	45.5	2.8

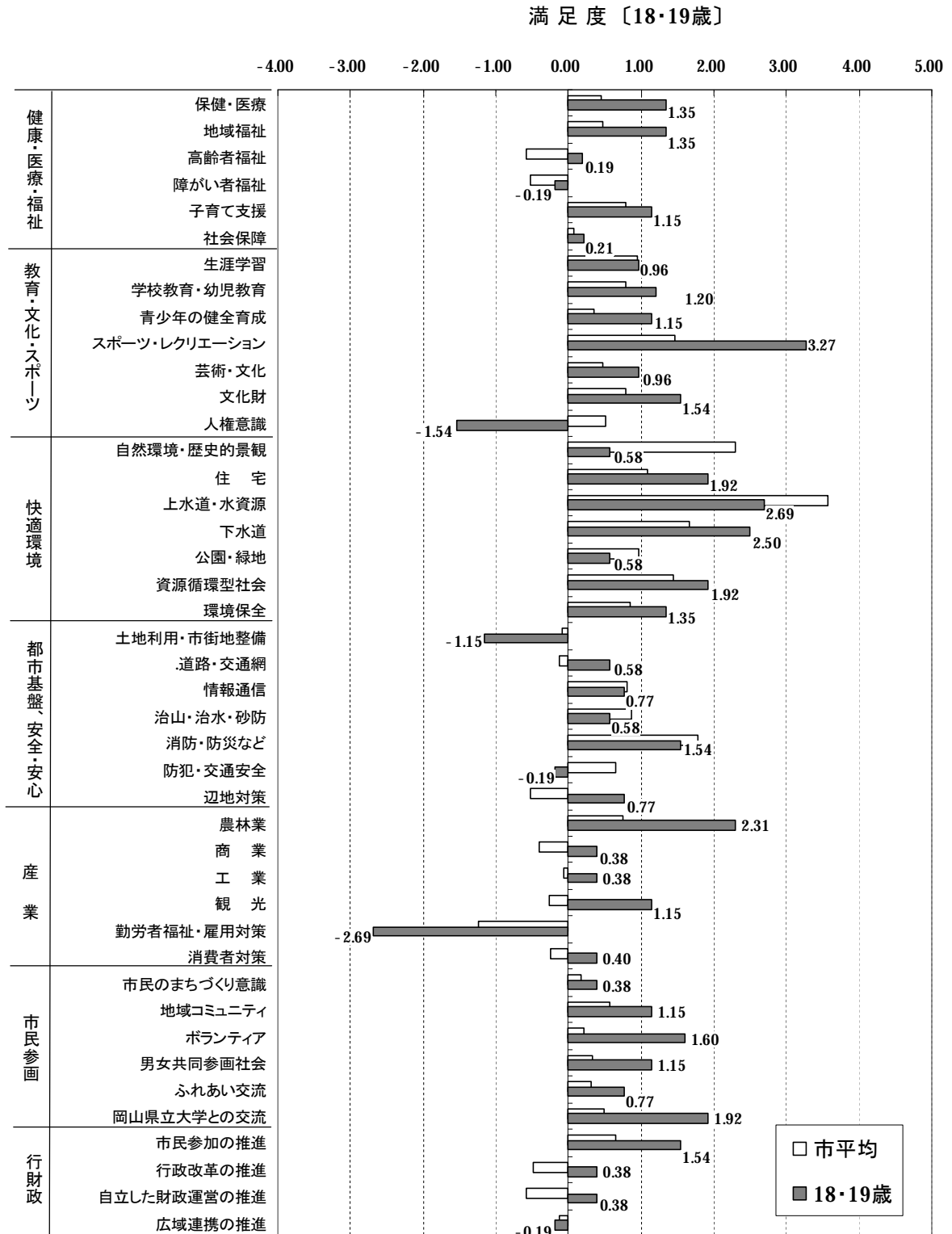
※改善度は、マイナスであればあるほど改善の必要性が低く、プラスであればあるほど改善の必要性が高い。

(4) 年代別の生活環境や行政サービスの満足度について

年代別の生活環境や行政サービスの満足度について、項目ごとの回答結果を指標化し、市平均と比較したグラフを以下に示します。

① 18・19歳

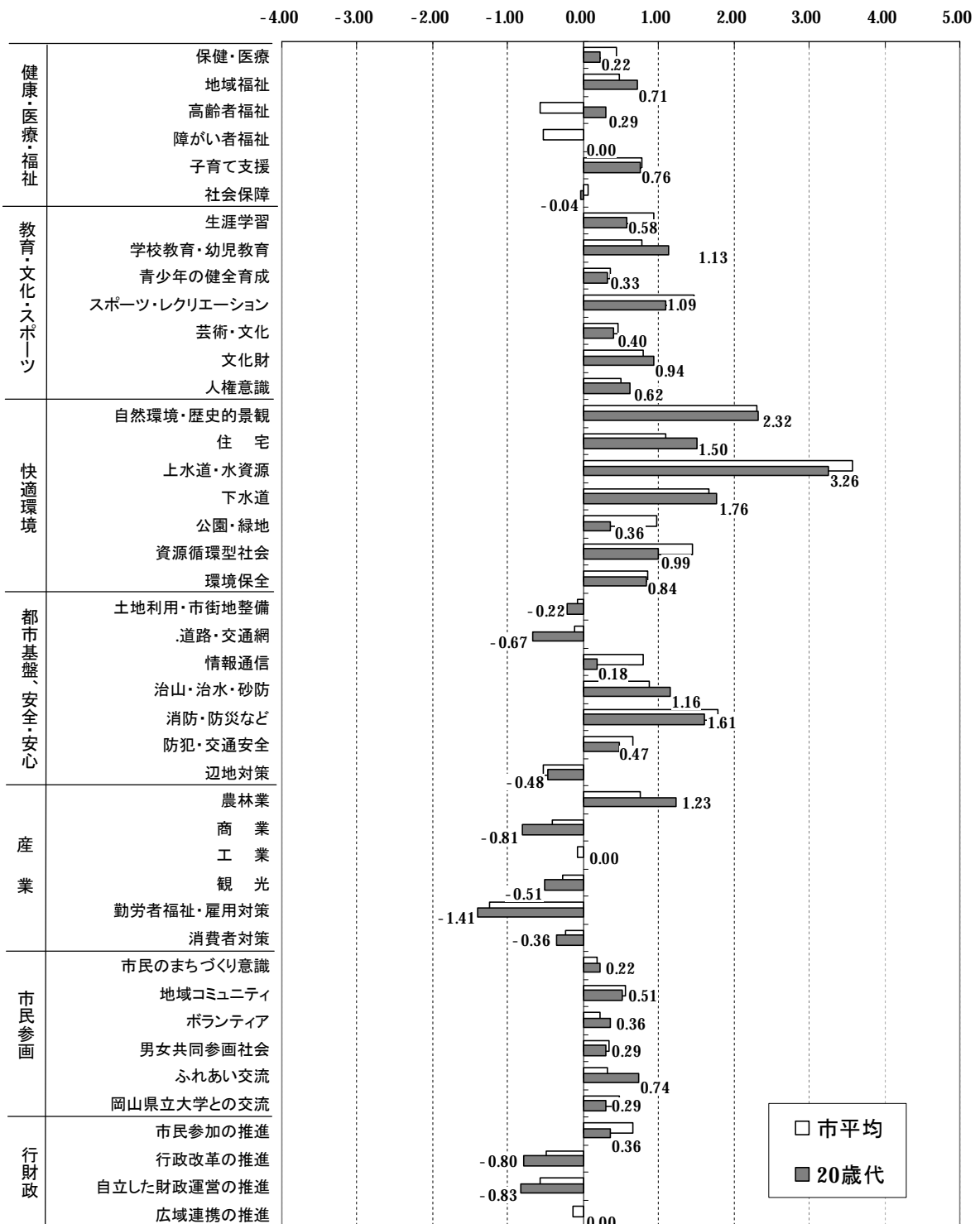
満足度が最も高い項目は、「スポーツ・レクリエーション」で、最も低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」となっています。



② 20 歳代

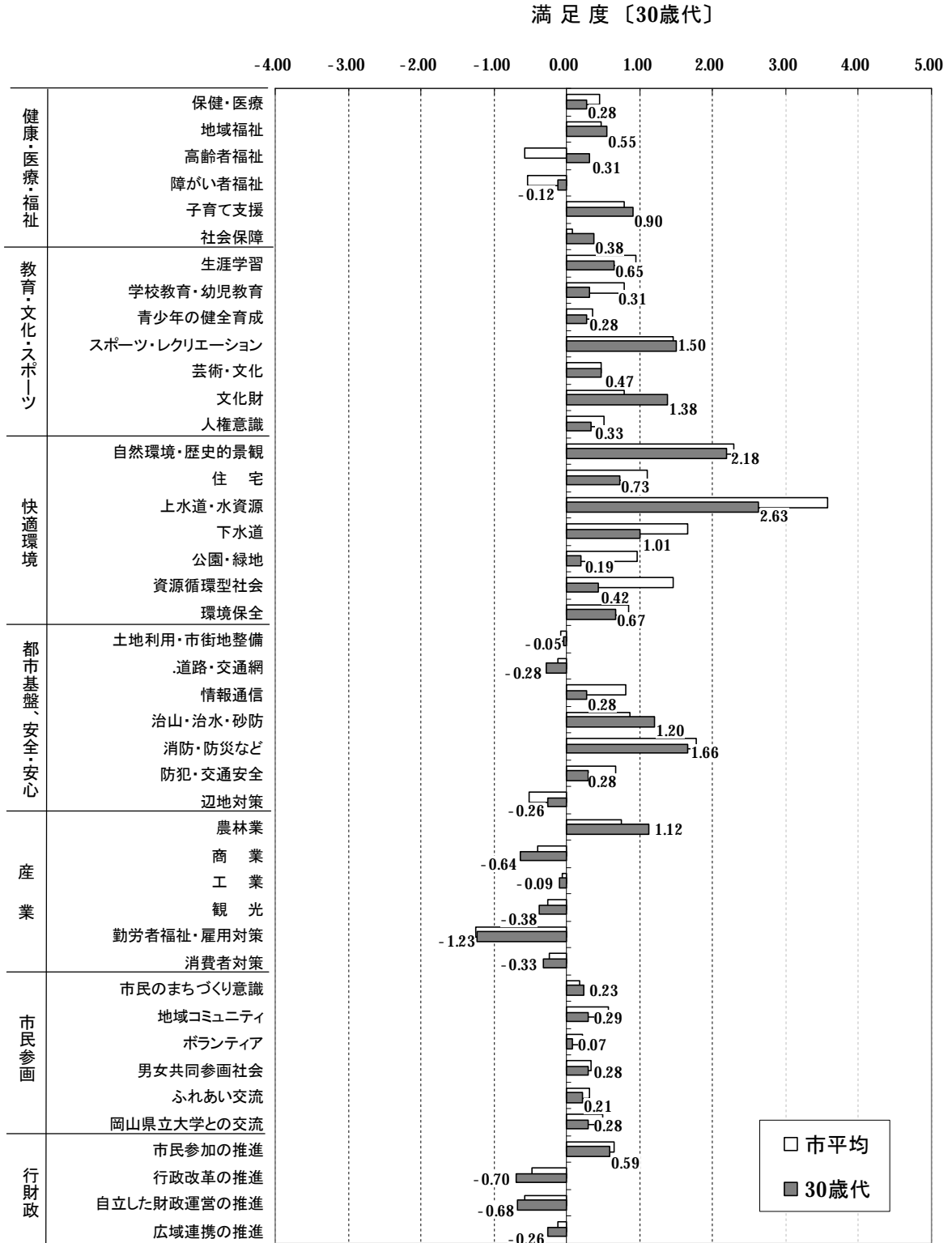
満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」となっています。

満足度〔20歳代〕



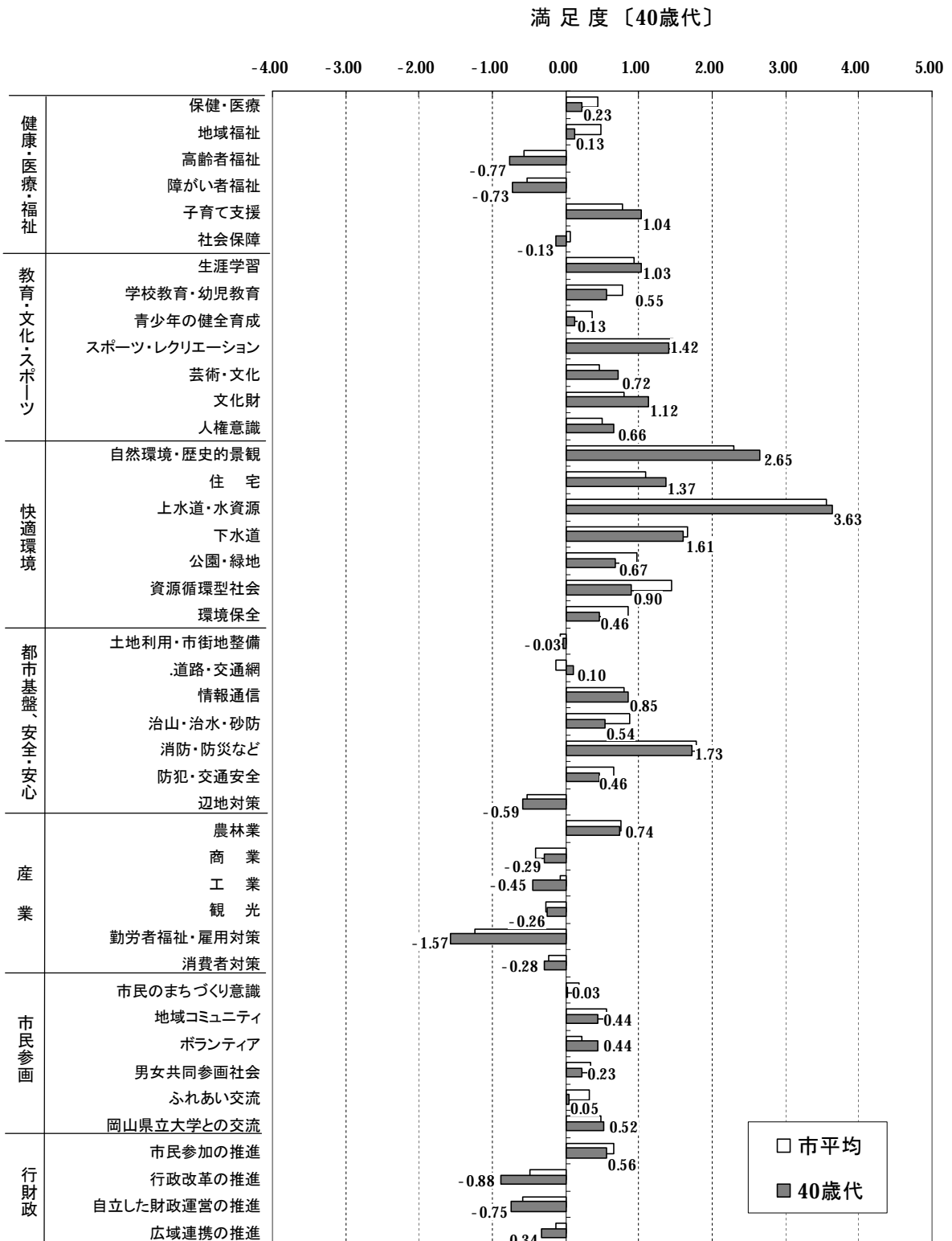
③ 30歳代

満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」となっています。



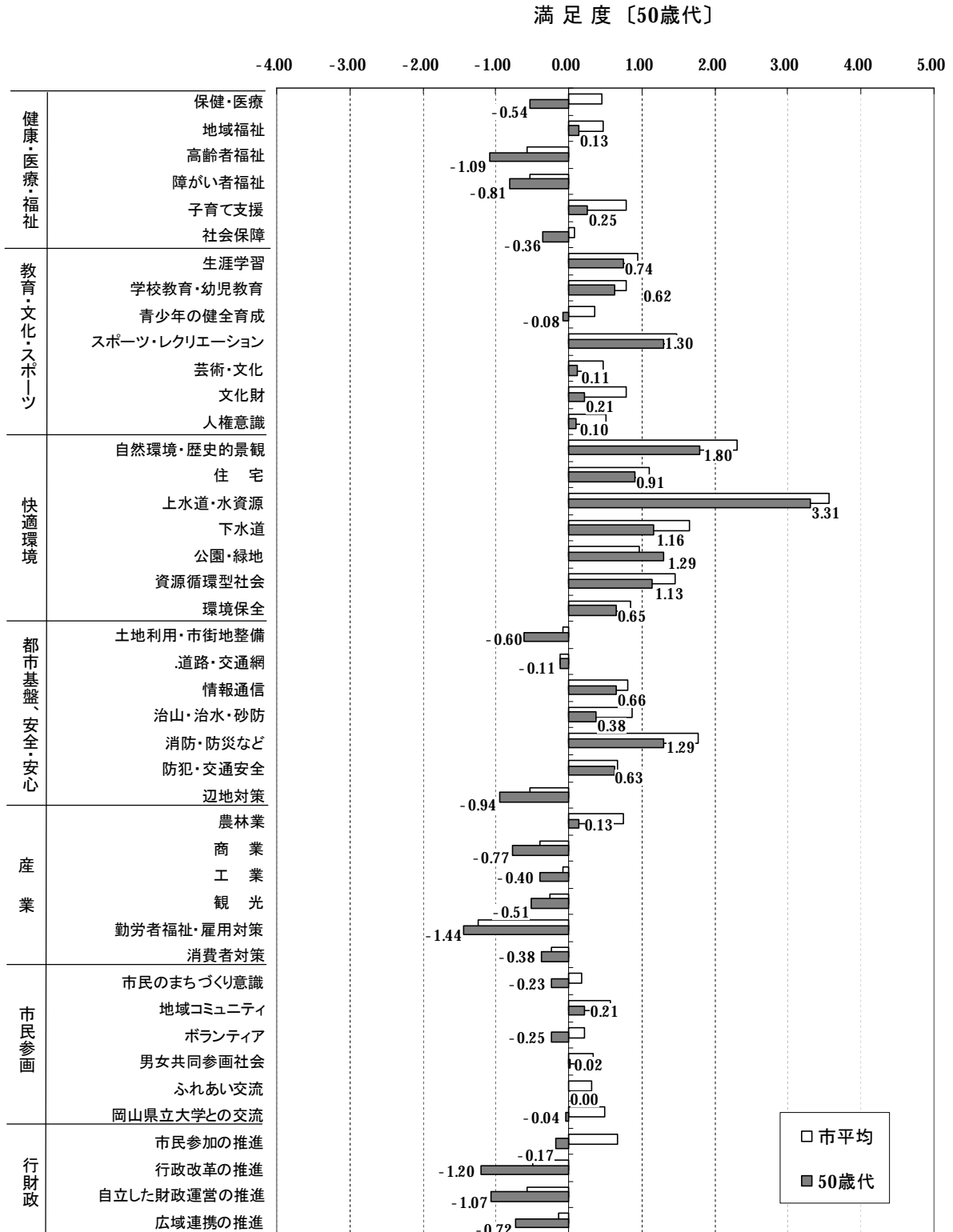
④ 40 歳代

満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」となっています。



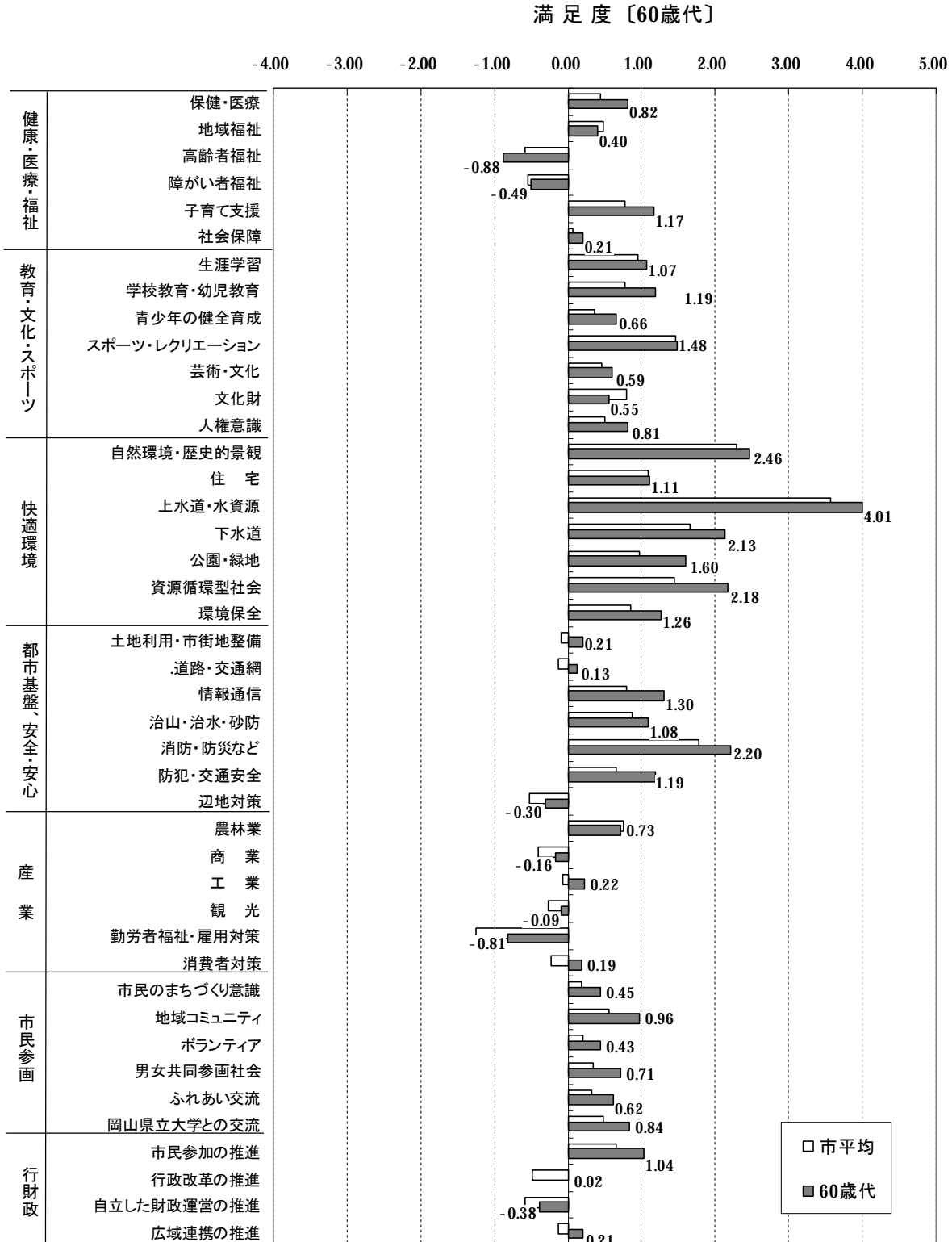
⑤ 50歳代

満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「勤労者福祉・雇用対策」となっています。



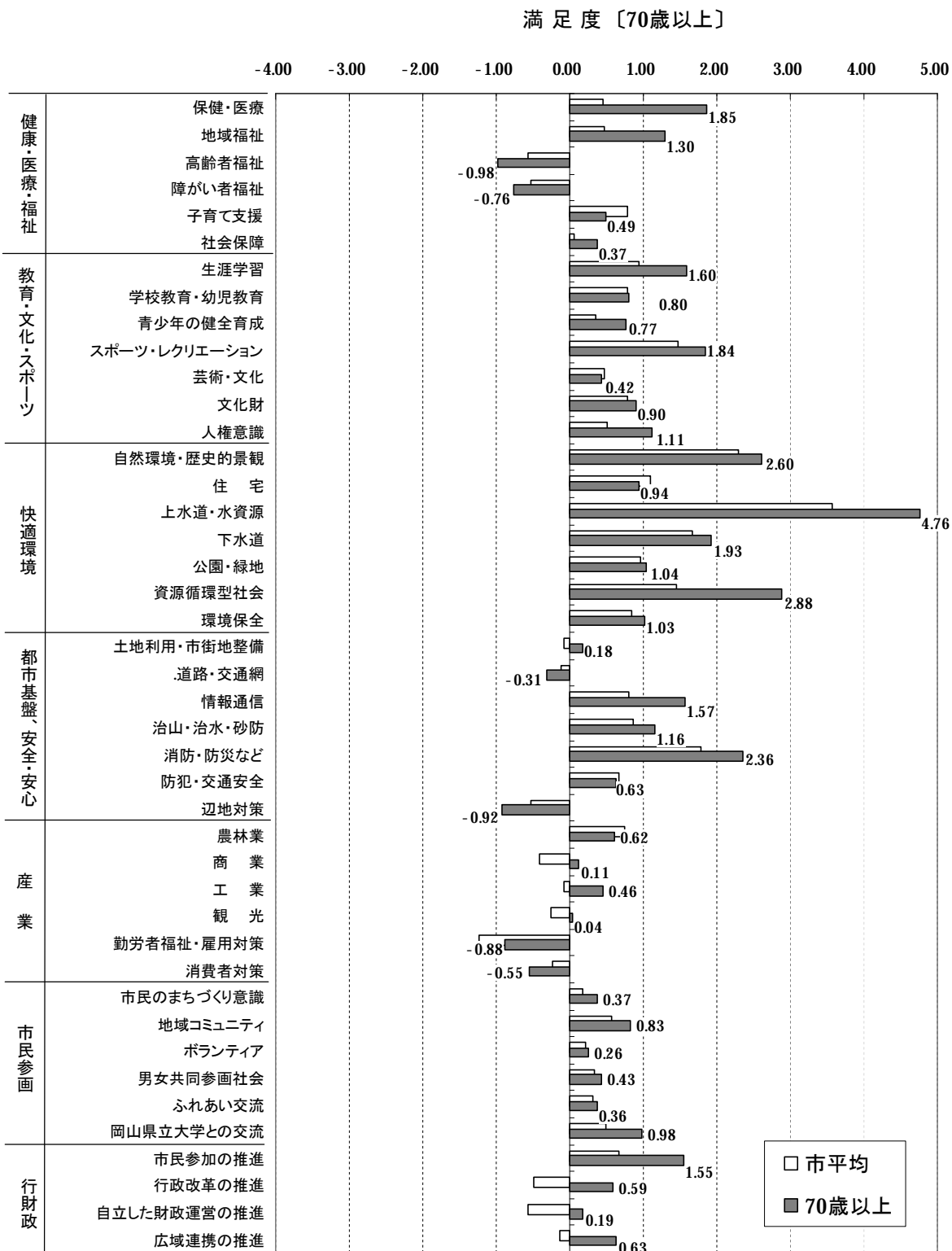
⑥ 60歳代

満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「高齢者福祉」となっています。



⑦ 70歳以上

満足度が最も高い項目は、「上水道・水資源」で、最も低い項目は「高齢者福祉」となっています。

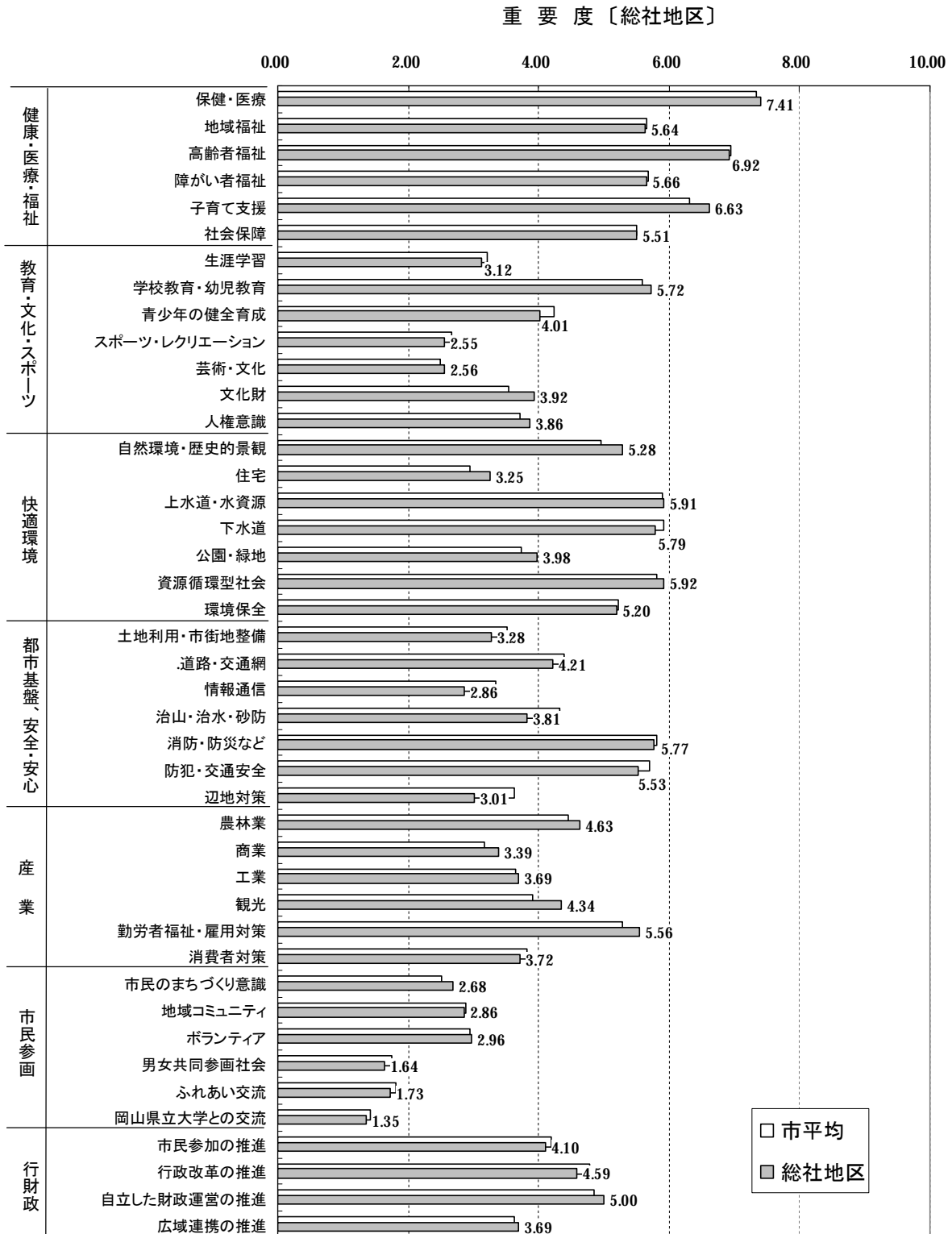


(5) 地区別の生活環境や行政サービスの今後の重要度について

地区別の生活環境や行政サービスの今後の重要度について、項目ごとの回答結果を指標化し、市平均と比較したグラフを以下に示します。

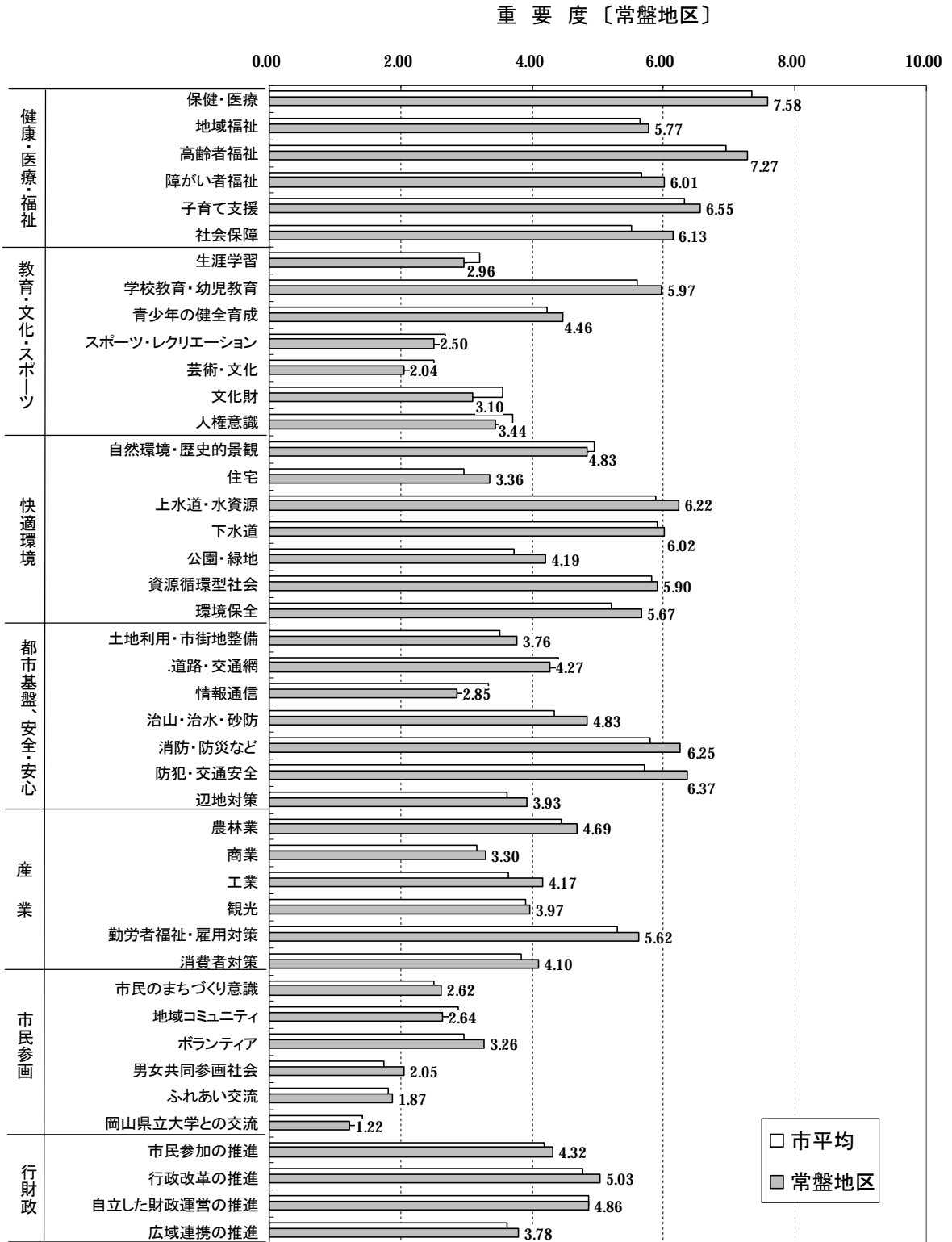
① 総社地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



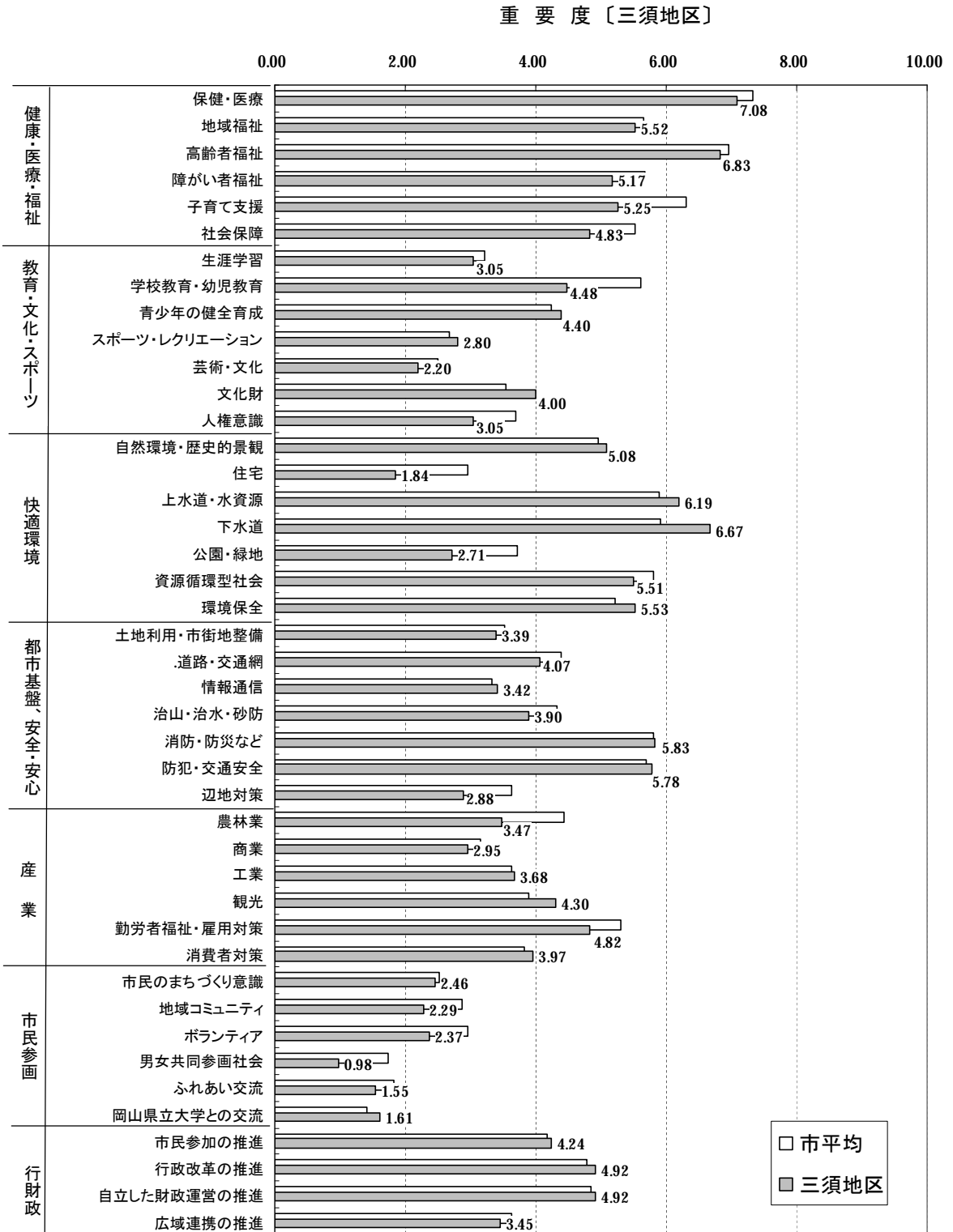
② 常盤地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



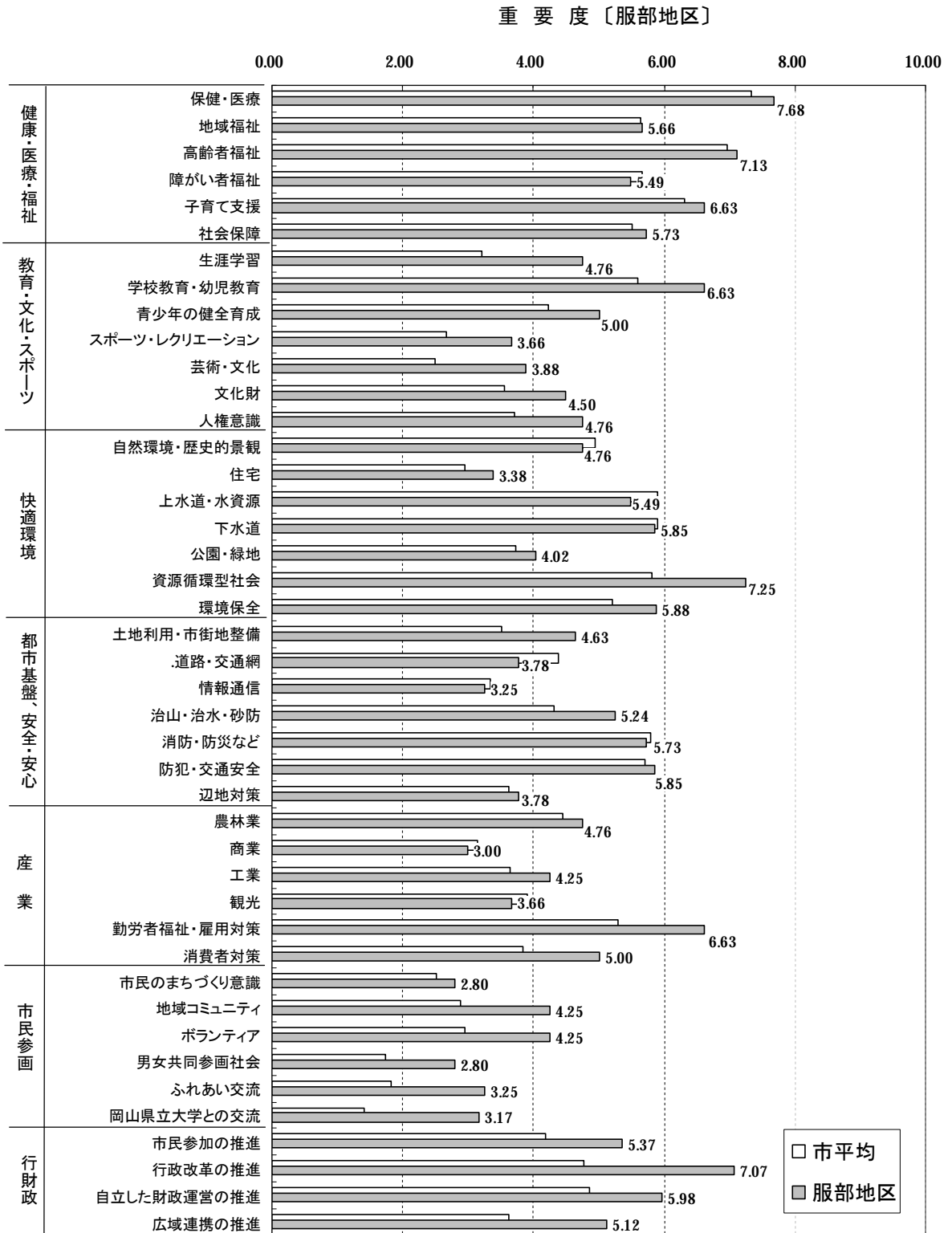
③ 三須地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



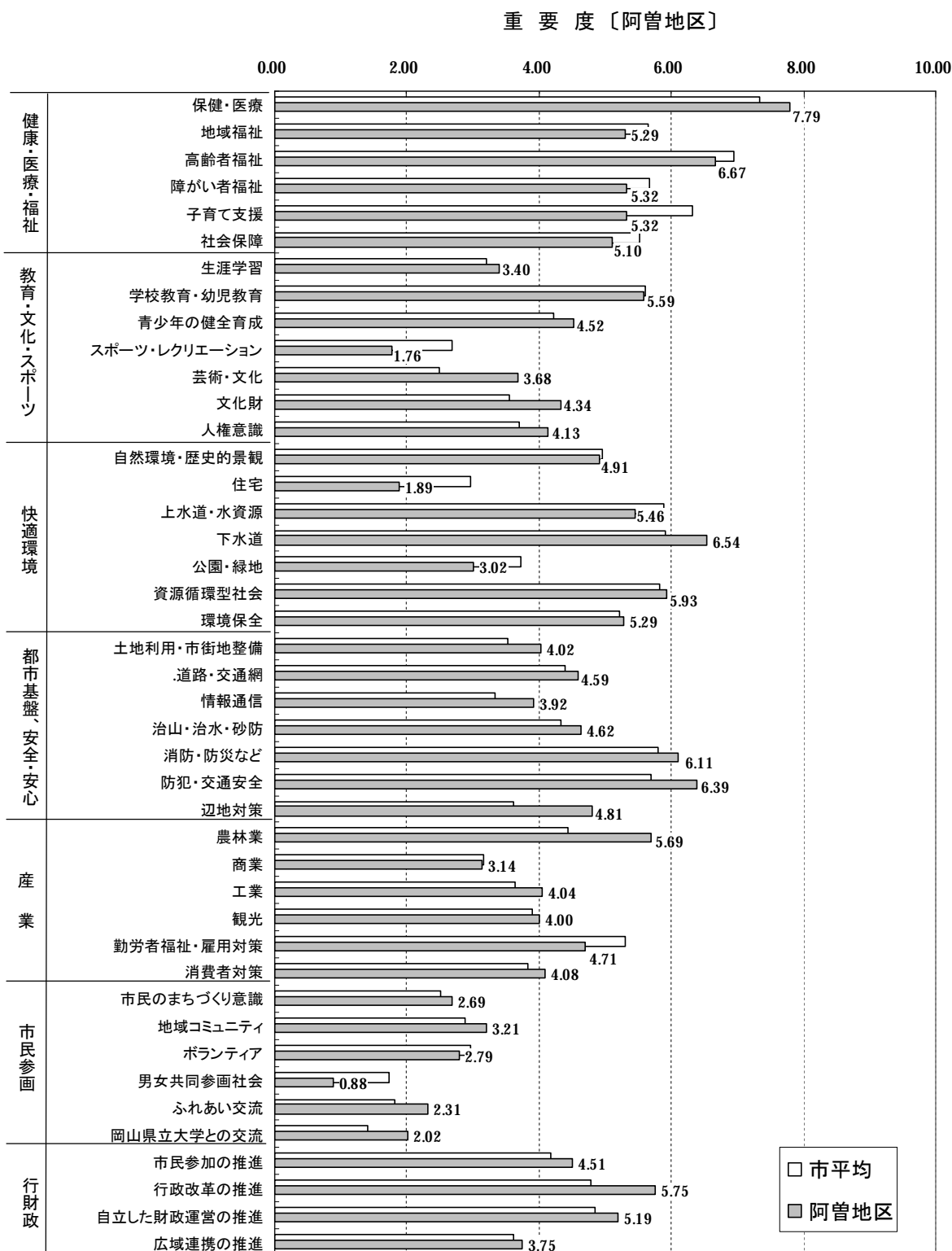
④ 服部地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



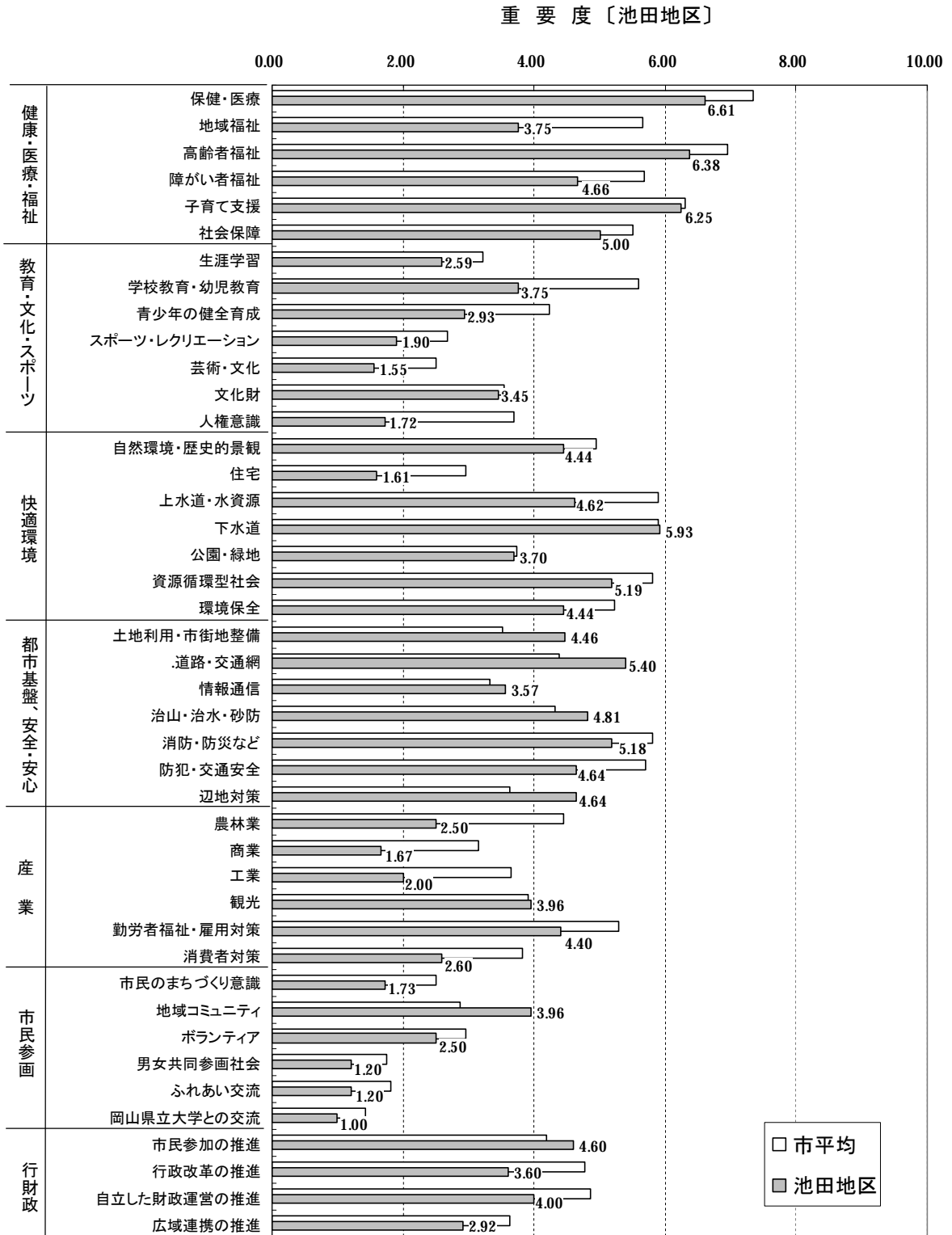
⑤ 阿曾地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



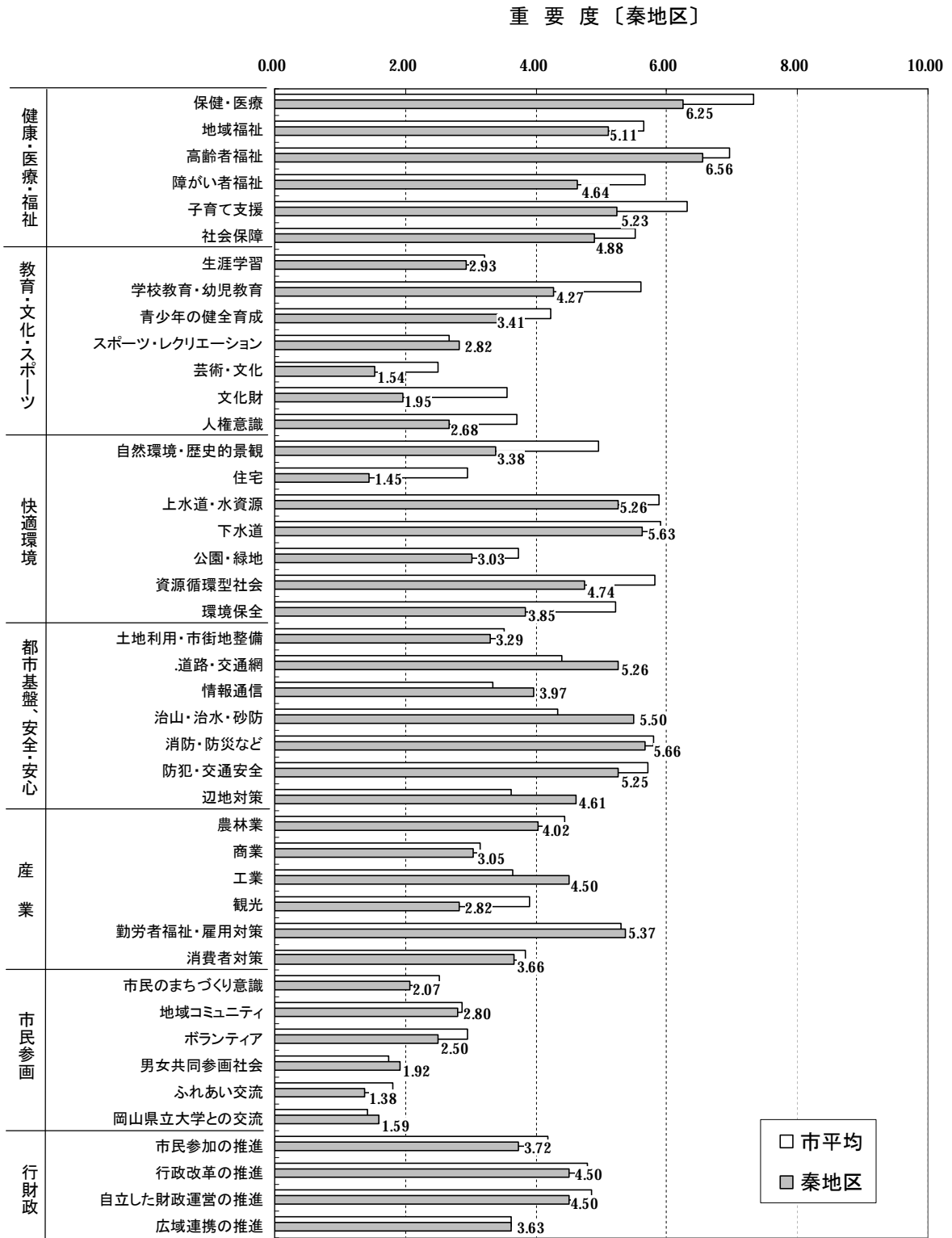
⑥ 池田地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



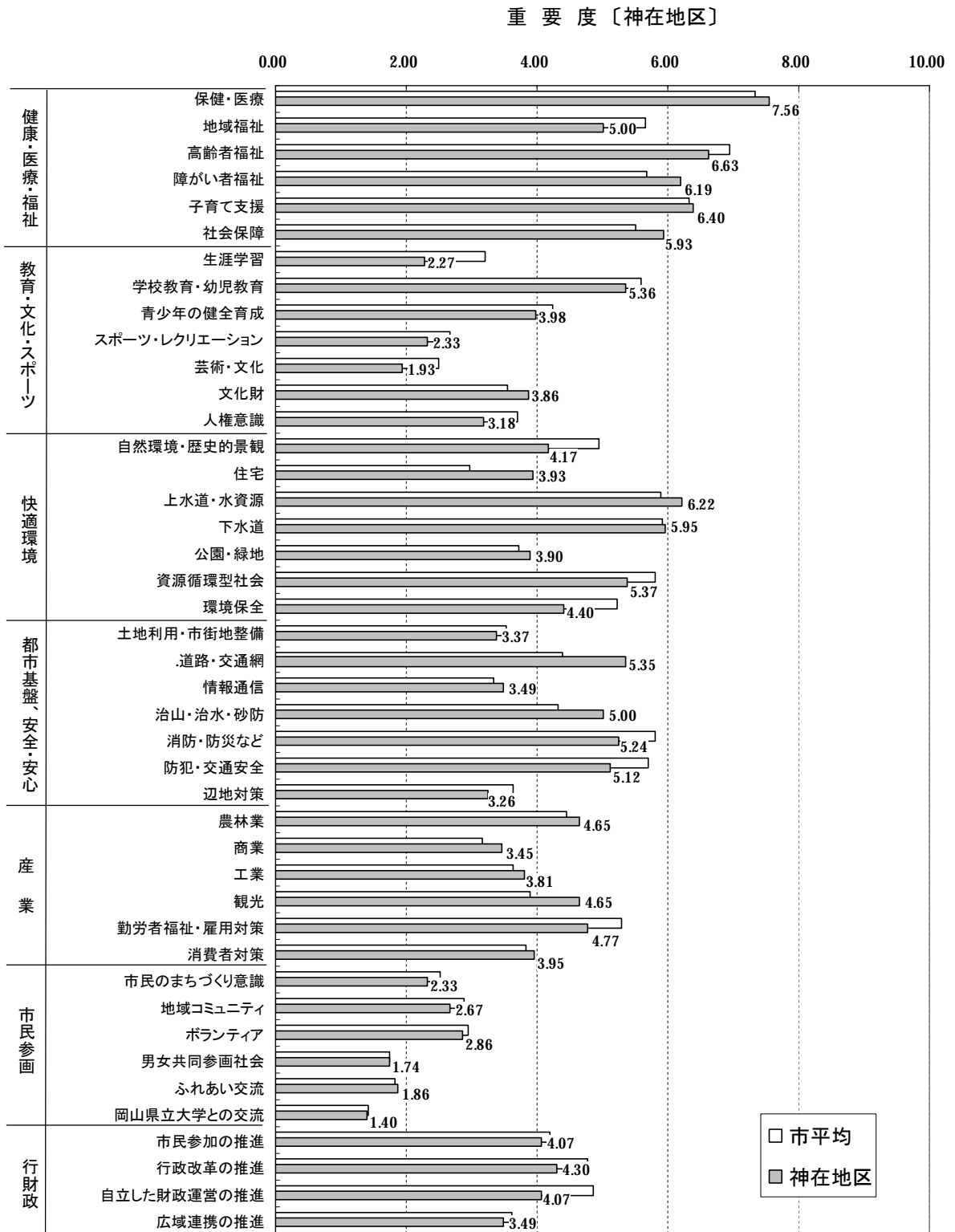
⑦ 秦地区

最も重要度の高い項目は、「高齢者福祉」となっています。



⑧ 神在地区

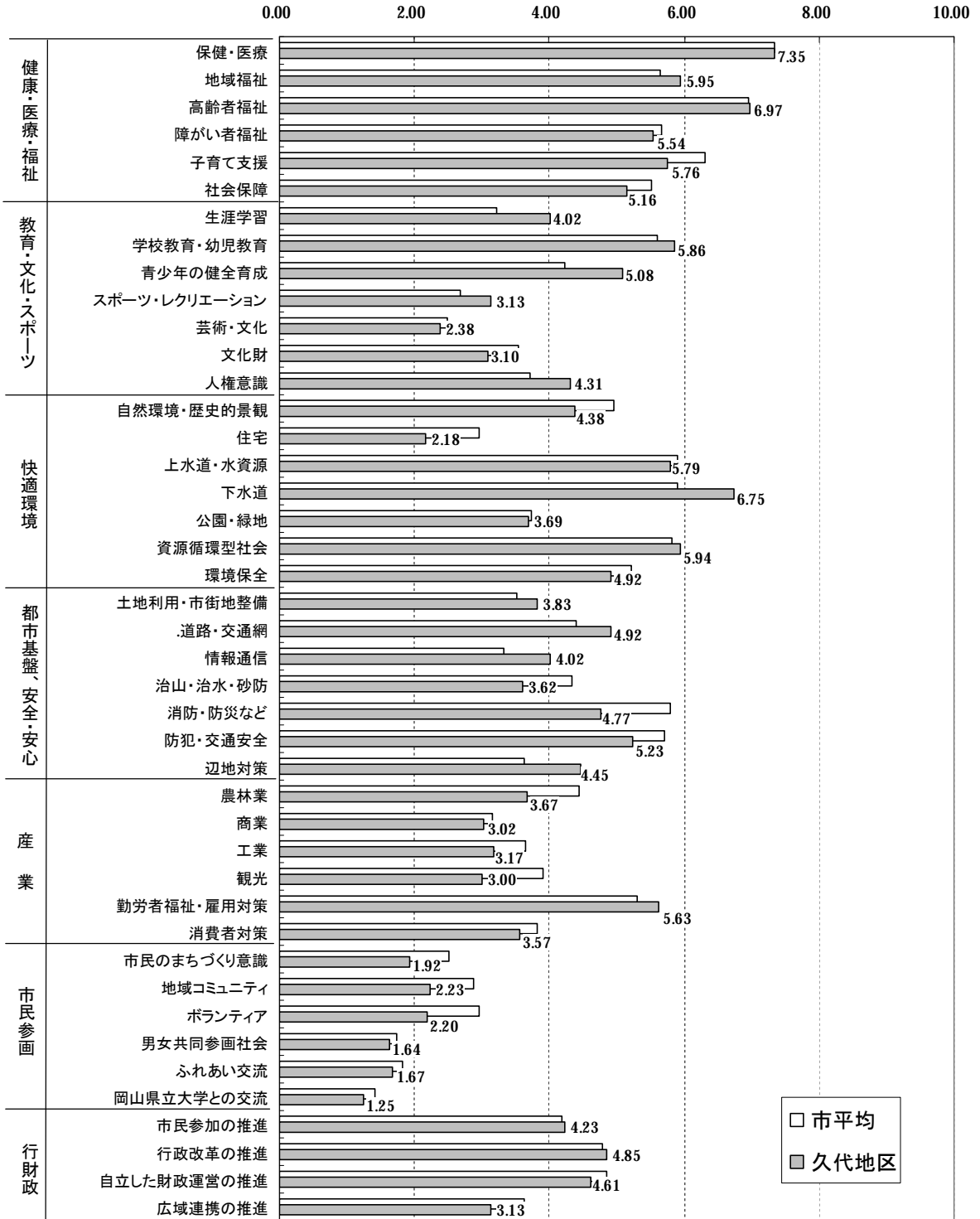
最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。



⑨ 久代地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。

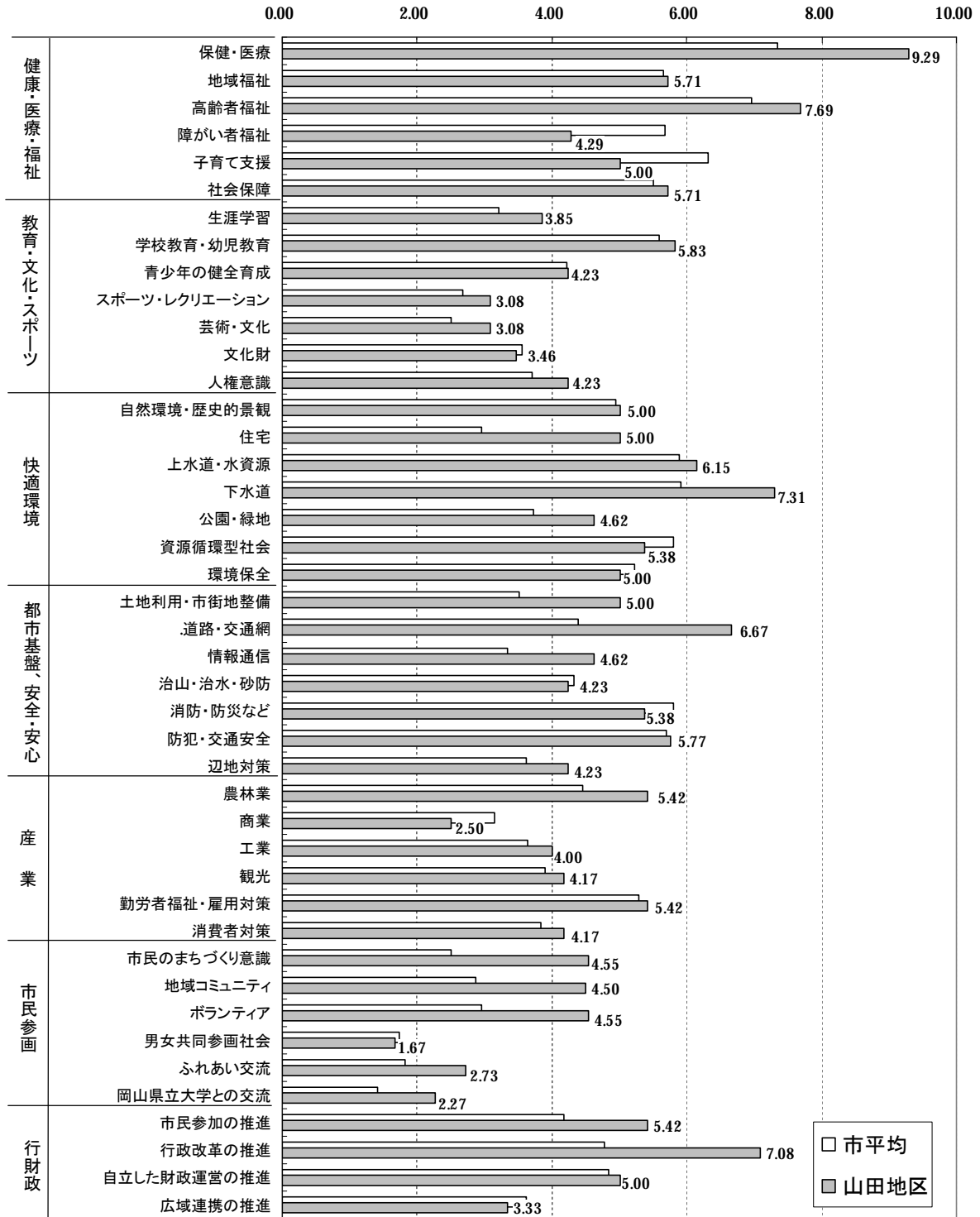
重要度〔久代地区〕



⑩ 山田地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。

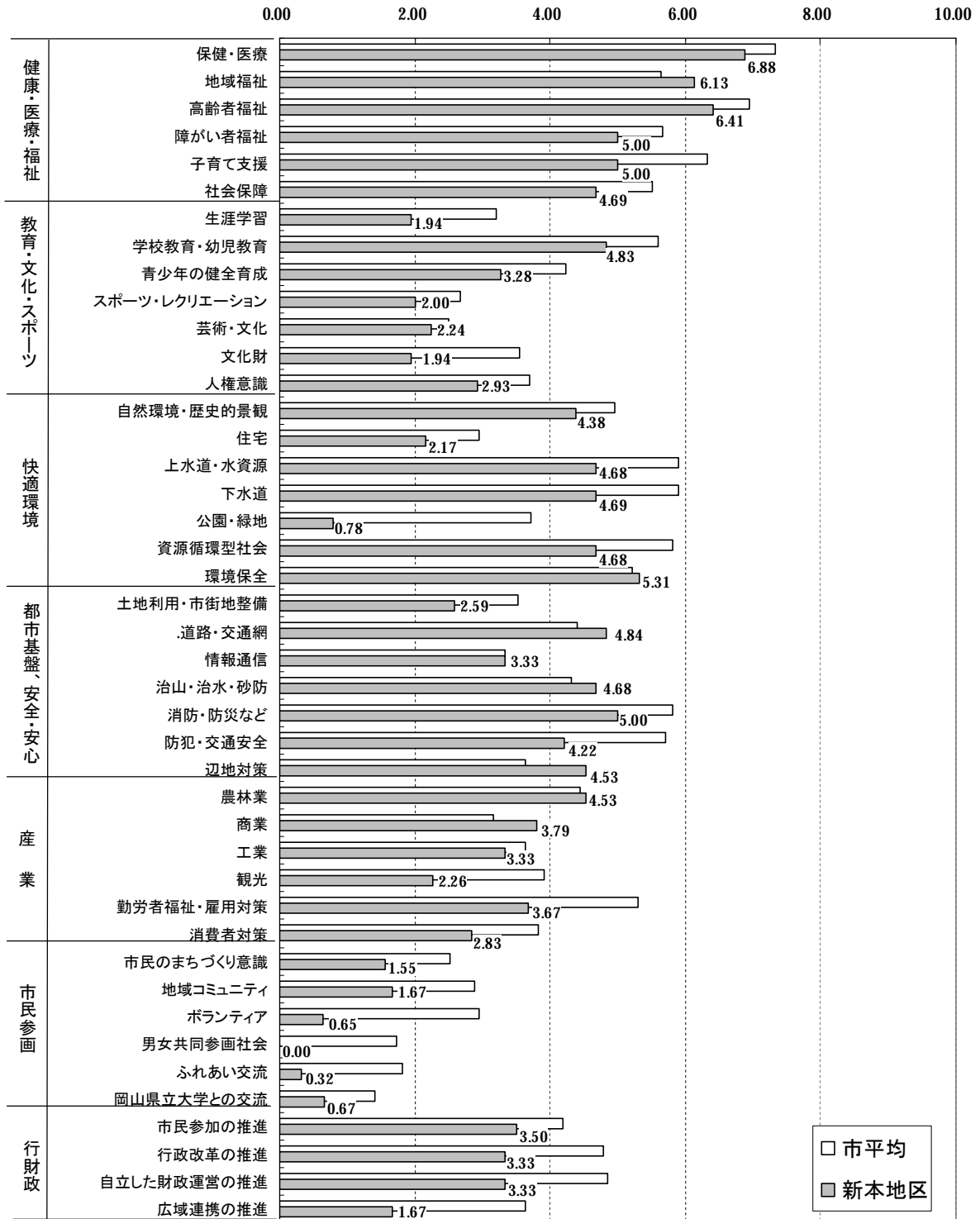
重要度〔山田地区〕



⑪ 新本地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。

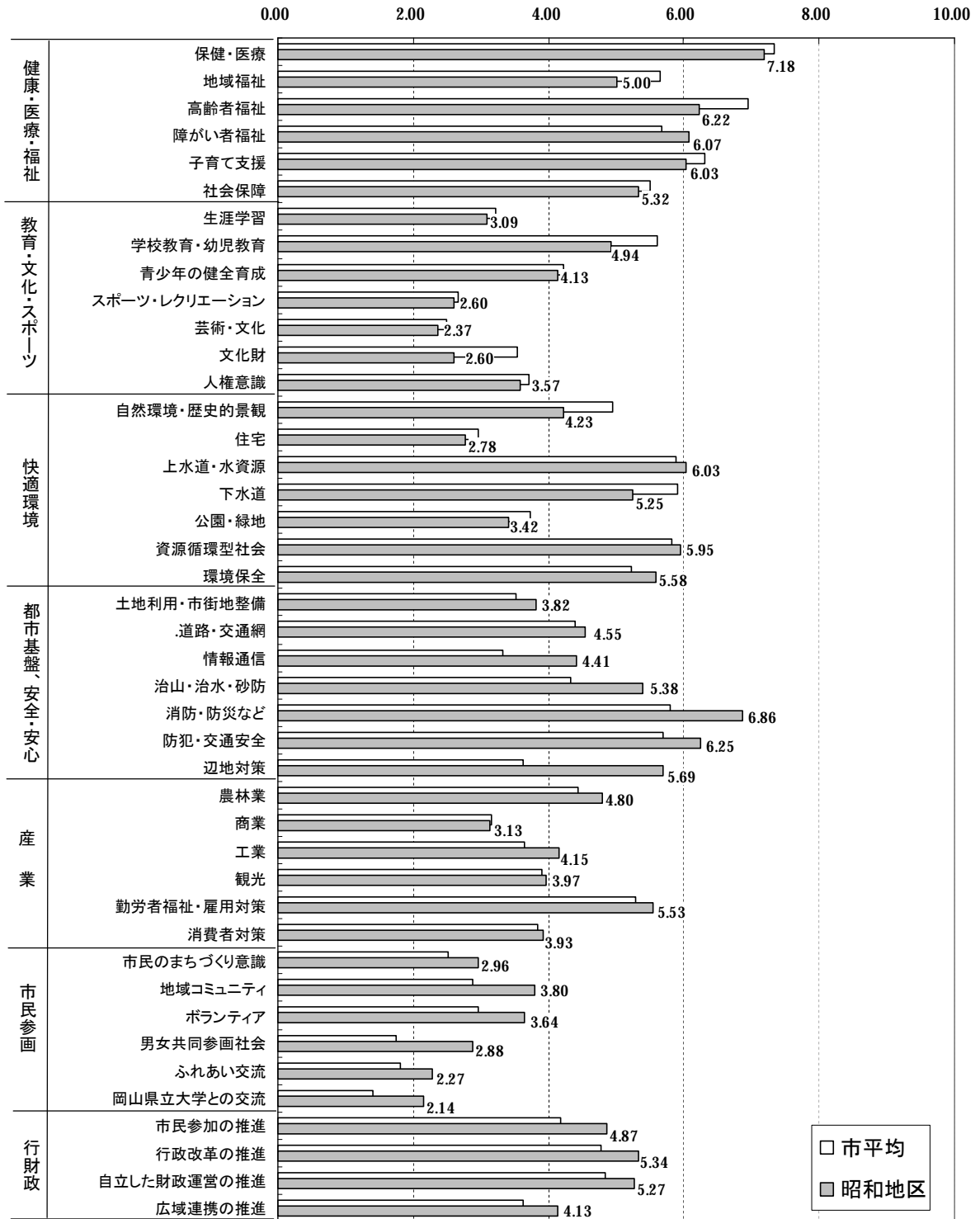
重要度〔新本地区〕



⑫ 昭和地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。

重要度〔昭和地区〕

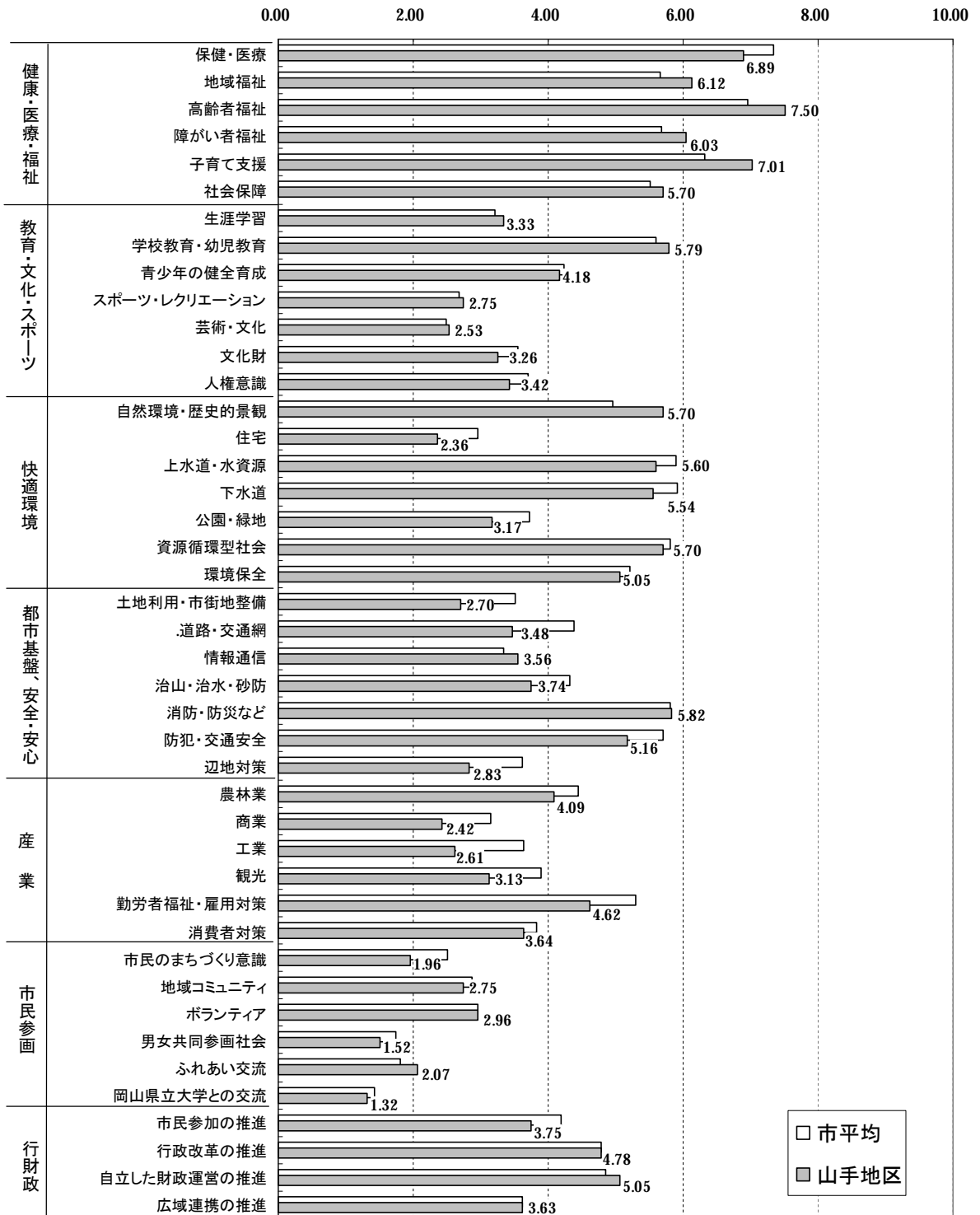


□ 市平均
■ 昭和地区

⑬ 山手地区

最も重要度の高い項目は、「高齢者福祉」となっています。

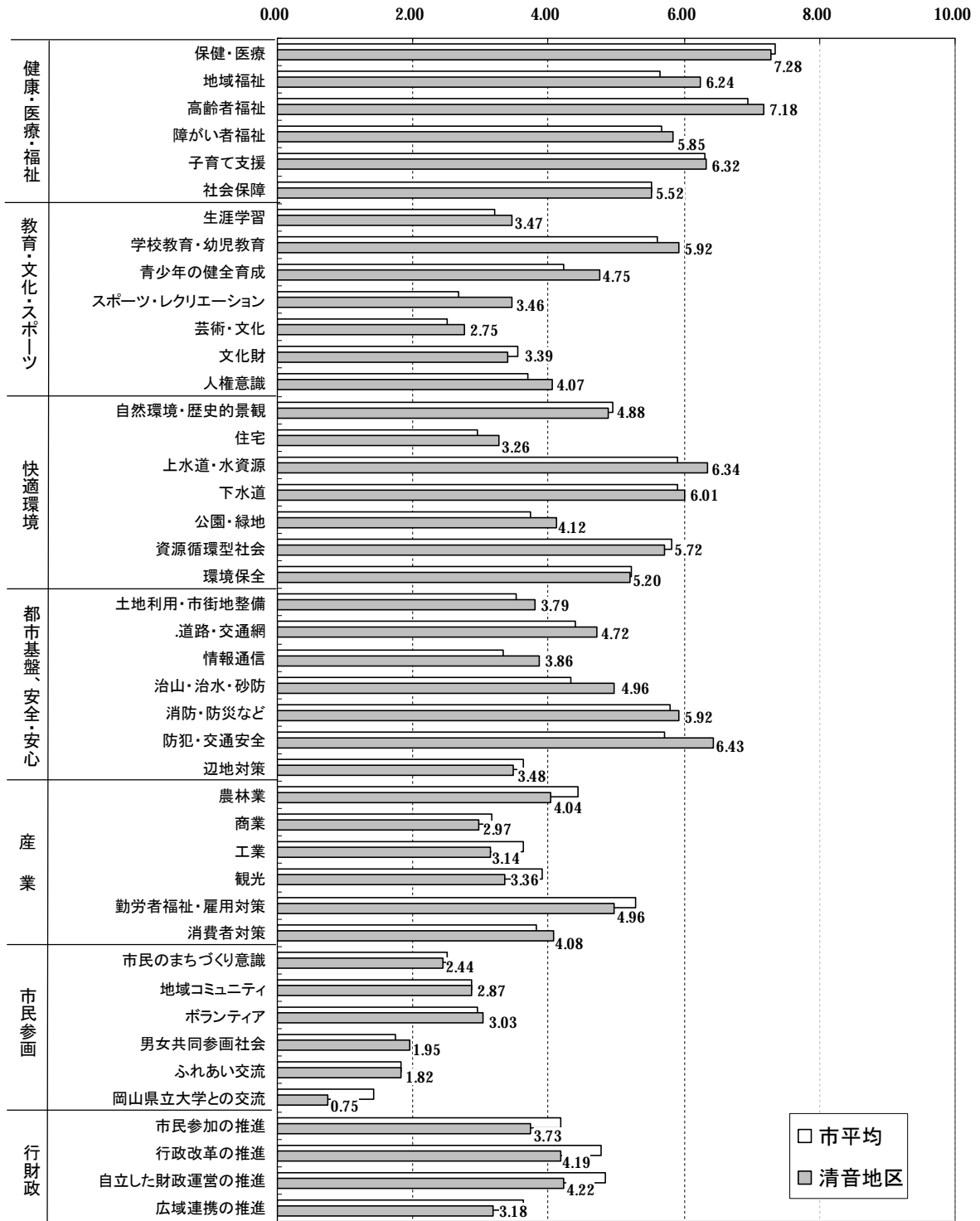
重要度〔山手地区〕



⑭ 清音地区

最も重要度の高い項目は、「保健・医療」となっています。

重要度〔清音地区〕

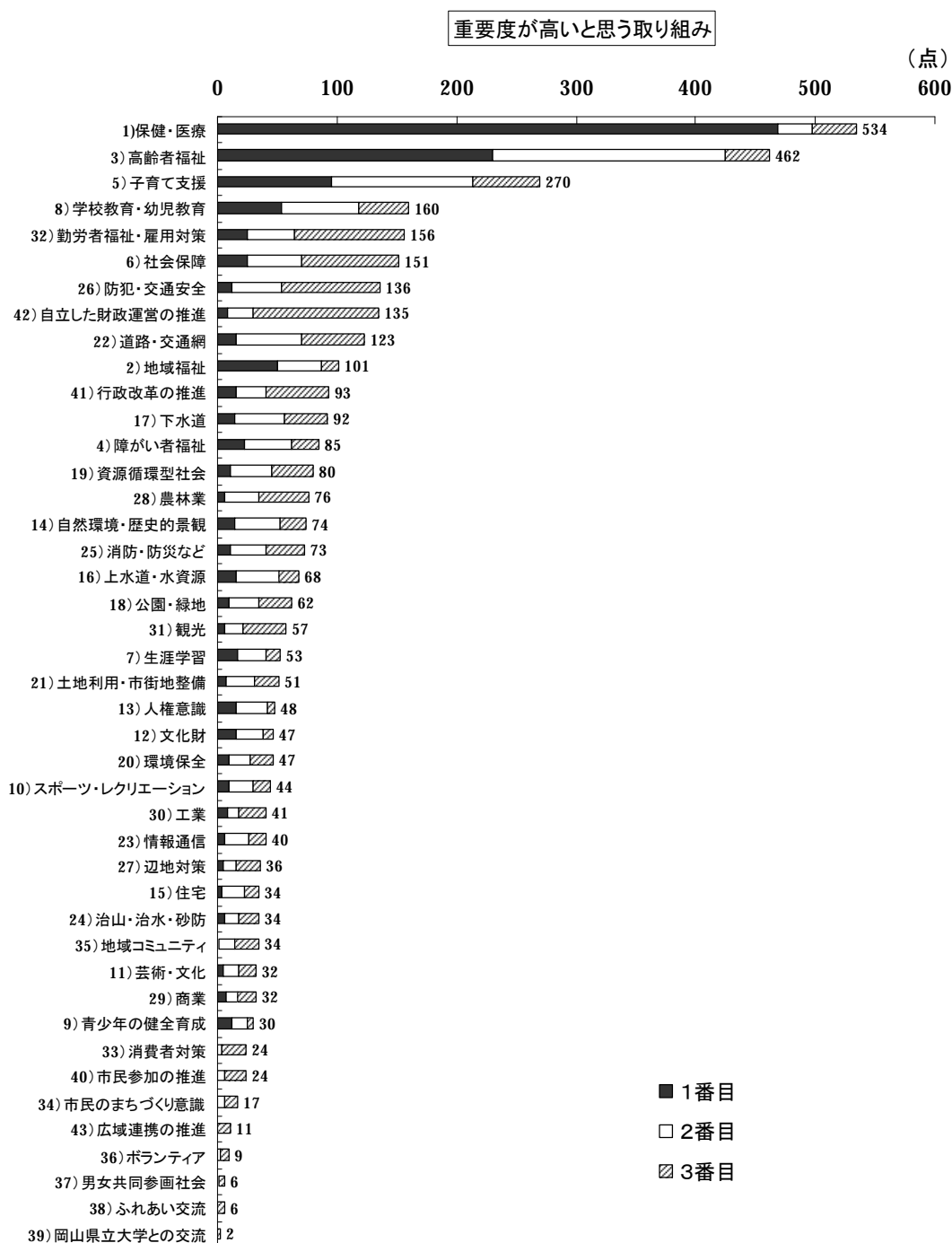


(6) 重点項目

① 総合（1～3位の合計）

今後暮らしていく上で重要度が高いと思う取組みについて、1位、2位、3位に挙げられている項目に対し、1位を3点、2位を2点、3位を1点として重み付けを行い、それぞれの値をトータルして示したものが下のグラフです。

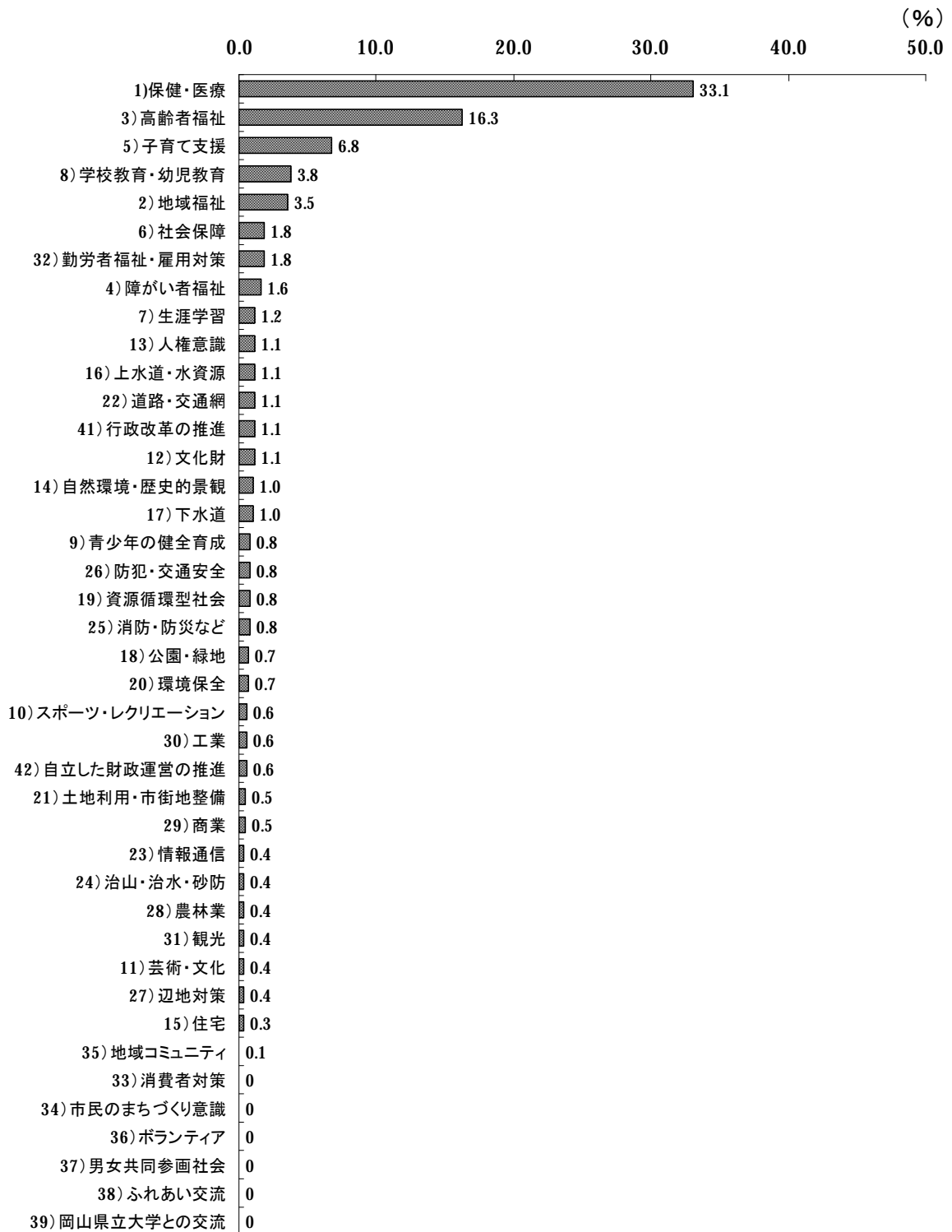
これをみると、「保健・医療」が534点で最も高く、次いで「高齢者福祉」が462点、「子育て支援」が270点となっており、保健・医療・福祉分野が重点項目と捉えられていることがうかがえます。



② 重点項目の1位に挙げられている施策

重点項目の第1位に挙げられている施策は、「保健・医療」が33.1%を占め最も多く、次いで「高齢者福祉」、「子育て支援」となっています。

今後暮らしていく上で重要度が高い取り組みとして第1位に挙げられた項目

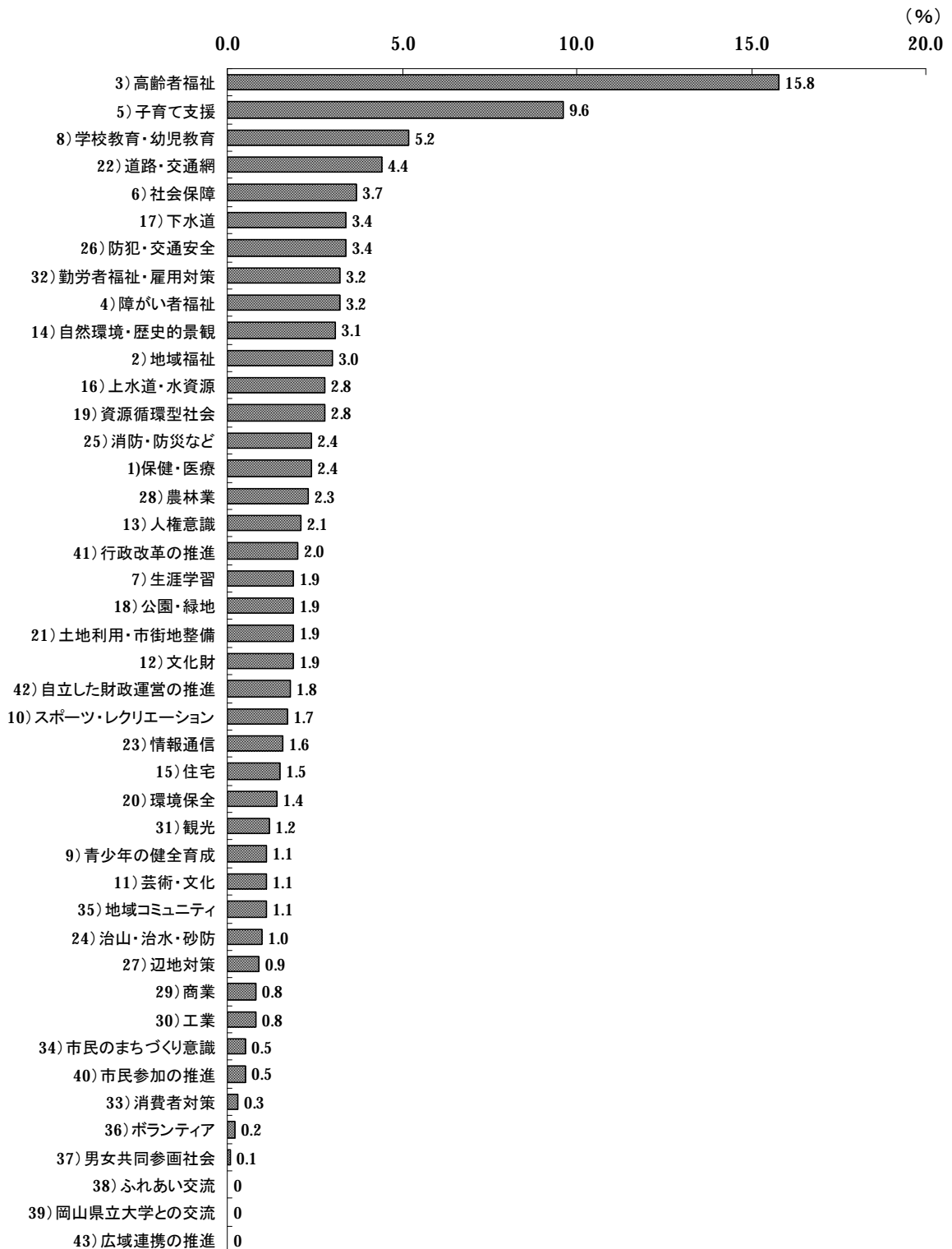


※無回答を除く構成比をグラフ化

③ 重点項目の第2位に挙げられている施策

重点項目の第2位に挙げられている施策では、「高齢者福祉」が15.8%を占め最も多く、次いで「子育て支援」、「学校教育・幼児教育」となっています。

今後暮らしていく上で重要度が高い取り組みとして第2位に挙げられた項目

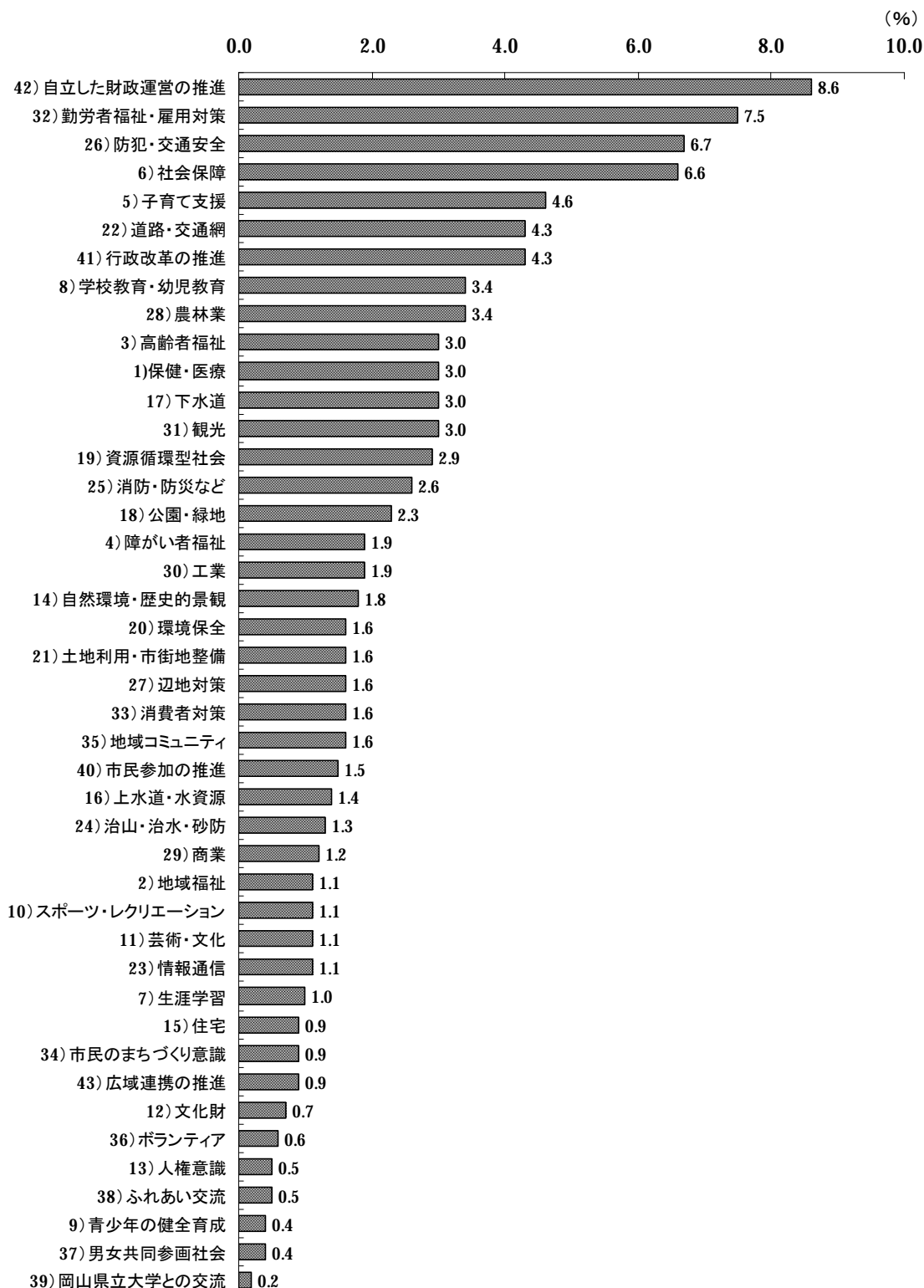


※無回答は除く構成比をグラフ化

④ 重点項目の第3位に挙げられている施策

重点項目の第3位に挙げられている施策では、「自立した財政運営の推進」が8.6%を占め最も多く、次いで「勤労者福祉・雇用対策」、「防犯・交通安全」となっています。

今後暮らしていく上で重要度が高い取り組みとして第3位に挙げられた項目



※無回答は除く構成比をグラフ化

6. 自由回答

自由回答を項目別に分けると以下ようになりました。

項目名	回答数	構成比(%)
健康・医療・福祉	147	26.3
教育・文化・スポーツ	61	10.9
快適環境	55	9.8
都市基盤、安全安心	203	36.3
産業	67	12.0
市民参画	64	10.0
行財政	142	25.4
その他	14	3.9
合計	753	134.7
回答者数	559	100.0

※1つの回答に複数の項目が該当した場合それぞれにカウント